別 冊 資 料
報告第 7 号

令和４年度　高島市立学校　学校評価

マキノ東小学校 ……………………… 1
マキノ西小学校 ……………………… 2
マキノ南小学校 ……………………… 3
マ キ ノ中学校 ……………………… 4
今 津 東小学校 ……………………… 5
今 津 北小学校 ……………………… 6
今　津　中学校 ……………………… 7
朽 木 東小学校 ……………………… 8
朽 木 西小学校 ……………………… 9
朽　木　中学校 ……………………… 10
安　曇　小学校 ……………………… 11
青　柳　小学校 ……………………… 12
本　庄　小学校 ……………………… 13
安 曇 川中学校 ……………………… 14
高　島　小学校 ……………………… 15
高　島　中学校 ……………………… 16
新 旭 南小学校 ……………………… 17
新 旭 北小学校 ……………………… 18
湖　西　中学校 ……………………… 19

（様式1）

令和4年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ東小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
ふるさとを愛し　心身ともに健康で 自ら学びに挑戦する人の育成 【めざす子ども像】 ○自ら考え表現する人 ○人を大切にする人 ○挑戦する人	・「マ東漢字検定」「予習復習ノート」の実施による学習習慣の確立と学習意欲の向上　A ・読書環境の充実と読書活動への意欲の喚起（図書室の整備と蔵書の充実）　B ・互いの思いを出し合える集団づくりに向けた継続的な実践　B ・主体的、対話的な学習に向けた道徳科を中心とした授業改善　B ・意見交流や情報収集・共有のためのツールとしての日常的なタブレット利用　A ・あいさつの習慣形成、いじめ撲滅に向けた児童の主体的な取組の展開　A ・地域とともに進める自然教室の実施と各学年における地域学習の充実　A ・適正なスクリーンとの接触についての理解促進　B ・学校運営協議会や地域学校協働活動等のリンクの強化　B	○自分で考え、それを表現する力の伸長 ○町内他校園と連携した道徳を核とした授業改善の推進 ○家庭、地域とともに学校づくりを進めるパートナーシップの構築 ○自然や地域を素材とした学びの深化 ○主体性を育て、生き方を学ぶ教育の推進 ○「いじめ」「不登校」のない安心、安全な学校づくり ○教職員の授業力・指導力・課題対応力向上

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
■学びの基礎基本の徹底 ・学習規律の徹底 ・読書環境の充実と読書の奨励 ・マ東検定や予復ノートの実施による学習習慣の定着	①『マ東漢字検定』『予習復習ノート』の実施による学習習慣の確立と学習意欲の向上 ②家庭学習は、「読書、宿題、予習・復習」を合わせて、1年20分、2年30分、3年45分、4～6年60分以上【目標90%以上】 ③読書貯金の実施、家読（週末読書）の取組【Q「読書貯金の目標達成に向けて頑張っている」目標90%以上】	①②【児童Q;「予復ノートに自分で頑張って取り組んでいる」87%、保護者Q;「お子さんは、家で学年のめやすの時間以上、家庭学習をしている」65%、職員Q;「家庭学習（宿題・自主学習）の習慣が定着してきている。」90%】 マ東検定と「予復ノート」の取組が定着し、子どもたちの家庭学習の質が高まってきている。2学期末実施の漢字テストでは2年生上の平均点が88点であり、昨年度や1学期に比べ、1～2ポイント上回った。子どもたちが自ら考えながら家庭学習に取り組んでいるものと評価できる。	A	B	◆「予習復習ノート」を導入し4年が経過した。今後も、工夫した児童のノートを紹介しながら、自分で考え学習に挑む姿勢を高めていきたい。また、なぜ自分で学習することが大切なのかを発達段階に応じて考えさせながら、やらされる家庭学習から自分で取り組む家庭学習に高めて行く。 ◆朝の15分間は可能な限りどの学級も全員が着座し静かに読書に集中する時間にする。同時に、気持ちを落ち着かせ集中して1校時以降の学習に臨めるよ ◆児童の興味関心を高める一助として、学習雑誌の定期購入を行い図書室に配置する。	・マ東検定の効果として子どもたちの学習意欲、興味を掘り起こすことが期待できる。より子どもの関心を引く内容になるよう工夫してほしい。 ・読書については興味のある分野・ことがらについて各自の指向を探し、適切な誘導をして貰えるとありがたい。 ・子どもが話し手として参加するお話会などを企画しても面白い。 ・マ東検定を行うことで、予習・復習ができることと合わせて、それを合格するんだとの一つの自分自身へのチャレンジになって良いと思う。 ・私の小学生時代に比べ読書の機会が増えていると思う。 ・マ東検定や予復ノートでの家庭学習を進めた結果が漢字テストに表れているのが素晴らしいし、予復ノートを4年継続してきたことが子どもの力となってきているのがすばらしいと思う。 ・やらされている学習→自分で取り組む学習へ、子どもたちに考えさせる機会をこれからも与え、自分からという意識が芽生えるよう導いてほしい。 ・子どもが心に残った本や「私のおすすめの本」を紹介するなど興味を持つような取組をしてほしい。
		③【児童Q;「朝読書の時間は8時15分から静かに本を読んでいる。」80%　保護者Q;「お子さんは家で一週間のうち（土日も含む）、10分以上は読書をしている。（ただし、漫画・雑誌・教科書・参考書等は除く）」41%　教師Q;「児童は読書活動に積極的に取り組んでいる。」60%】 朝読書には熱心に取り組む児童は多いが家庭で読もうとする児童は少ない傾向である。ブックトークを行ったり週末読書を全校で取り組んだりしているが、「家読」が習慣化している児童は依然少ないのが現状である。	B			
■子どもをつなぐ学びの創造 ・相手の話を聴き反応できる態度の育成 ・道徳教育の要としての道徳の時間の更なる充実 ・生徒指導の3機能を具現化した学習活動の展開	①互いの思いを出し合える集団づくりに向けた継続的な実践【Q「授業中進んで発表したり話し合いに参加したりしている」 目標90%以上】 ②主体的、対話的な学習に向けた道徳科を中心とした授業改善【Q「授業中友達と話し合う活動がよくある」目標95%以上」】【「道徳の学習が好き」目標90%以上】 ③タブレットの日常的活用	①【児童Q;「授業中進んで発表したり話し合いに参加したりしている」91%】【教師Q;児童は、授業中に相手の意見に対して態度で反応できている。」90%】 両質問とも昨年に比べ伸びがある。日々の授業を通して「話す、聞く、つながる」の取組を全学年で実践してきた。他の児童の発言を聞いた子どもたちの反応も目に見えて増えている。取組の成果が徐々に表れてきていると評価している。	A	A	◆引き続き「話す、聞く、つながる」を意識した授業づくりに全職員で取り組む。職員が他学年の授業を参観しながら、同僚間で刺激し合い、授業改善に取り組む。 ◆2年間研究を重ねた道徳科の授業づくりの手法を引き続き次年度にも活かしていく。また、各種行事におかる体験活動とリンクさせながら児童の道徳性を高めたい。 ◆学習ツールとしてのタブレット端末の効果的な実践例を職員間で共有しながら、児童の学習理解促進や職務の効率化につなげたい。	・互いの思いを聴き発表し合い、話し合いに参加できる学級づくりができていることが素晴らしい。 ・先生方の授業の在り方が講義型から対話型へ転換しようとされている柔軟な姿にすごいと思うし、努力に感謝だと思う。 ・予復ノートの取組は素晴らしい。創意工夫というのが子どもたちの主体性を高めているのかもしれない。 ・子どもたちの生活について学校と家庭との連携は不可欠で切り離せないところはあると思うが、指標については学校の役割についてと家庭の役割についてでは異なってくるのではないかと考える。学校の役割からすると朝読書、ブックトークなどのきっかけづくりをしていただいているという点では評価は上がると思う。家庭では学校でのきっかけづくりをうまく家庭での家庭学習等につなげられたかどうかを評価していただくとしてはどうか。 ・「話す・聞く・つながる」を意識した授業づくりでは、いろいろ工夫していただいていると思う。特にグループワークが参考になると思う。ロールプレイングなども取り入れていただくと良いかと思う。 ・家では本を読まないということは非常に残念。親がもっと子どもたちと一緒に本を読む時間を作ってもらいたい。
		②【児童Q;「道徳の学習が好き」89%　「道徳では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている」100%】 マキノ町内4校合同で、「新しい自分に出会う『特別な教科　道徳』の在り方」を研究テーマに授業改善に取り組んできた。児童の道徳科の授業への意識は、昨年度に比べ肯定評価が高まっている。また、道徳科の授業改善を通して、教職員の意識が他教科においても講義型の学習から対話型の学習へと転換しつつある。	A			
		③タブレット端末の日常的活用に全校で取り組んできた。健康観察（3年以上）や宿題提出、家庭でのドリル学習、ネット通信による調べ学習等、使用頻度や使用する場面が増え、日常的な学習ツールとして定着しつつある。	A			
■豊かな人間関係と社会性を育む教育の推進 ・相手の立場を考え行動する集団づくり ・仲間の良さを認めるための児童の主体的な取組 ・異年齢交流の活性化と自己肯定感の醸成	①全校児童による異年齢集団（縦割り活動）活動の充実 ②児童が主体となったいじめ撲滅に向けた取組の継続 ③いじめ点検や情報交換会によるいじめや不適応の早期発見、未然防止〔週1〕 ④課題のある児童への組織的対応の充実と保護者への効果的な発信、連携 【Q「いじめはどんな理由があってもいけない」目標100%】	①縦割り清掃や縦割りチームによる運動会に向けての取組など、今年度も感染症対策を考慮しながら縦割り活動を進めてきた。活動を通じて、下級生は上級生のリーダーシップを目標にし、上級生は自尊感情を高めることにつながっていると感じる。	A	A	◆アンケート回答に否定的な回答をした児童に注目して、複数の目できめ細かく見守るとともに、次年度への引継ぎを確実にし、継続的組織的に支援できるようにしたい。次年度も、児童一人一人の声を傾聴し、的確なアセスメントのもとで丁寧で確実な指導、支援をしていくことで、児童との信頼関係を構築する。 ◆次年度も引き続き児童主体の取組を中心に据え，継続的に取り組みたい。 ◆短所を改善すること以上に長所を認め合い高め合うことを大切にして、児童個々の自己肯定感を高め続 ◆SCやSSW、教育相談課題対応室や子ども家庭相談課との連携をさらに深め、多様な視点をもちながら組織的に対応していきたい。	・縦割りのチーム構成は豊かな人間関係を築くためのステップとして大変効果的だと思う。 ・いじめの判断は境界線があいまいで難しいが、当事者同士の思いを明らかにして双方が納得できるよう促すことが必要だと思う。 ・縦割り活動によるよい心の育ち増やせるようになるとよい。 ・昨年、島根県益田市の取組「益田版カタリバ」を紹介いただいたが、小学校での縦割りはもちろん、中学生、高校生、大学生、もちろん大人も交えた異世代での交流がもたらす効果は素晴らしいものがあると考える。 ・いじめに限らずタブレットを使った相談も取り入れてほしい。 ・運動会で防災の勉強をしたときに5年生がリーダーシップを高めてくれて、下級生に丁寧に指導してくれたことは素晴らしかった。 ・あいさつ運動やいいところみつけはとても良い活動なのでマ東小の特長にしても良いくらい続けてほしい。上級生が大きな声で挨拶している姿がかっこよく見え、下級生も自然に見習うと思う。
		②【児童Q;「自分から元気よくあいさつできた」96%（昨年87%）】 今年度も代表委員会の活動で、前期後期通じて「あいさつ運動」に取り組んできた。あいさつは相手を認める言葉であり、あいさつを交わし合いながら人を大切にすることを呼びかけてきた。あいさつの習慣化につながってきた。また、後期代表委員会では学級の良さを紹介し合う取組を進め、相手の短所ではなく長所を認め合おうとする雰囲気づくりに努めた。	A			
		③【児童Q;「いじめはどんな理由があってもいけない」100% 毎週月曜の放課後に「いじめ点検」を行い、各学年の事案や気になる子について全職員で共通理解を図っている。また、学校全体で「全校いいことみつけ」の取組を進め、互いの長所を認め合おうとする意識を高めようとした。	A			
		④家庭の不安定が子どもの不安定につながるケースが多く、担任と保護者の距離を縮めるために情報共有に努めたり、必要に応じて他機関へのつなぎを行ったりと積極的な連携に努めてきた。行き渋りを訴える児童の保護者がSSWと面談し、改善につながったケースが3件あった。	B			
■地域のよさを生かした教育の充実 ・校区全域を生かした学習活動の実施 ・自然教室への取組による、達成感や感動の感受及び琵琶湖環境保全への意識高揚 ・故郷を愛する心の醸成 ・園小中一貫教育の推進	①地域とともに進める自然教室の実施 ②町内合同マラソン、合同陸上練習等町内合同開催事業の実施 ③地域人材によるキャリア形成につながる学習 ④各学年における地域学習の実施と学校地域連携カリキュラムの完成 ⑤活動を支えて下さる人々への感謝の思いの伝達と交流 【Q「マキノが好き」目標100%】	①④2年生は生活科、3年以上は総合的な学習に時間に地域の人・ものを学習素材として、直接体験を重視しながら学習を重ね、児童の地域に対する理解を深めてきた。また、素材を体系化するために、学校運営協議会とともに学校地域連携カリキュラムを作成した。5，6年生の自然教室については、環境教育の視点や地域連携の視点で今一度目的と効果的な手法について検討する必要がある。また、今年度まちづくり協議会とタイアップして地域・児童・保護者合同の防災学習会を行うことができたことは良かった。	A	A	◆新型コロナウイルスの5類移行に伴い学習活動の幅が広がることを期待する。次年度も豊かな自然、人、ものに恵まれた本校の強みを最大限生かす活動を継続する。そして、特に子どもたちの学習支援を中心に、地域住民と子どもたちの交流が深まる機会を積極的に設けていきたい。 ◆学校だよりやホームページ等により、保護者、地域の学校教育に対する理解を深めたい。 ◆様々な人の生き様に触れるために、地域住民の方々を講師として迎えたキャリア学習を、高学年対象に次年度も実施したい。 ◆学運協と住民自治協、地域学校協働活動との連携を強めるために、防災をキーワードに、学運協主体の事業を実施できるか検討する。	・地域を学ぶことの中に、地域を維持するために人々がどんなことをしているのかを学ぶ機会を取り入れてほしい。（自治の概念を感じ取る。） ・学校ボランティアの参加機会を増やして貰っていることは素晴らしい。多様な参加形態についても今後考えていただければありがたい。 ・地域の皆さんがこれ以上ないくらい子どもたちに地元ならではのことを教えてくださっているので、引き続き取り組んでいただきたい。 ・故郷を愛する心は子どもたちに十分得るものがあったと思う。3小合同の活動は先生方にとって大変だと思うが、子どもたちにとってよい学びや出会いの機会になったと思う。 ・150周年事業では地域の方の小学校に対する関心度が上がっていたのを感じた。そういった子どもたちと地域を結ぶ機会をつくってほしいし、小学校の年齢をもたない地域のものにも「小学校でな～…」と話題に上るような集める活動をしてもらえたらうれしい。 ・自然教室の効果は大きいので学校の負担軽減も配慮しながら続けていけるとよい。また良い事例なので町内他校の子どもたちに東小の子が教えるという機会もあれば良いと思う。 ・地域との連携はうまく進めていただいていると思う。これに学運協委員のかかわりの増加や学運協発案の事業の実施などがつながれば申し分ない。 ・子どもたちや保護者に地域の魅力に気づき、発信できるようなことができないかと考える。何とか愛着心を高めたいと思う。 ・150周年記念事業で、とても地域の輪が広がったと思う。 ・地域の方の話を聞くキャリア学習は今後も続けてほしい。自分たちが住むマキノでどんな仕事がありどんなことをがんばっておられるか知ることは今後の目標や将来の夢を考える上で大切である。
		②町内4校で4つの部会を編成し、共通のテーマのもと授業研究を進め、互いに刺激を受け合うことができた。また小小連携強化のため、3小合同マラソン大会、合同陸上練習、合同校外学習を実施した。	B			
		③⑤【児童Q;「人の役に立つ人間になりたい」100%（1学期86%）「ふるさとマキノが好き」94%】 地域在住の漫画家から夢の大切さについて高学年に対して講話をいただいた。また、多様な職種の地域の人材にお願いしてのキャリア学習を実施し、5，6年生の子どもたちによい刺激を与えることができた。東小サポート会も増加傾向にあり、2学期以降は学習・授業支援をメインとして、多くの方に子どもたちと関わっていただき、学習効率を高めるとともに、子どもたちと地域の人々とのかかわりが一層深まった。ただ、活動を支えてくださる方々への感謝の思いを伝える場が乏しかった。	A			
■健康の保持増進と体力の向上 ・体力づくりへの意欲の向上と目標をめざして頑張りぬく児童の育成 ・自分の健康について考え、管理できる力の向上	①年間を通したマラソン、なわとびの取組による継続的に運動に取り組む態度の育成 ②「早寝・早起き・朝ご飯」の推進 ③家庭でのゲームやネット利用の自己管理能力育成 【Q「ゲームやインターネットをする時間は合わせて1時間以内目標70%以上】	①秋季の持久走、冬季のなわとびについては、全校児童がめあてカードをもちながら、継続的に運動に取り組めた。児童の体育委員会でもイベントを企画しながら、運動遊びの奨励に努めた。	B	B	◆学童期の内に巧緻性を高めるために、多種多様な運動の機会を与えたい。また、日々の体育の授業において、運動量の確保に努めたい。 ◆保護者や児童の情報モラルを高めるために、年間1回以上講師を招聘してモラル学習の機会をもつ。小学校段階で繰り返し啓発することで、情報機器について自律した活用ができるようにしたい。	・子どもの時期に鍛えた脳と身体の連携系統は一生もの。体を動かす、書や画を描く、道具を使うなどあらゆる場面で、特に苦手意識を持つ子どもに根気良く指導をしてもらえればと思う。 ・マ東検定のように自分自身へのチャレンジの意を込めて①②③について自分自身の目標を決めて取り組んでも良い。 ・健康推進員で子どもたちの様子に触れさせていただくことができ、また授業の中で子どもたちがどう感じたか聞かせて貰う時間もいただけてよかった。 ・今の時期にバランス感覚を身に付けるような運動への取組をお願いしたい。一輪車、スケボー、スラックライン、バランスボールなど検討できないか。 ・家庭でのゲーム等の時間は家庭での読書と取組を連動して、読書すればその分ゲームができるという取組はどうだろうか。
		②保健だより等で保護者向けに啓発するとともに、児童には保健学習や、栄養教諭、健康推進員による食育指導（減塩等）を通じて理解を深めさせた。	B			
		③【児童Q;「ゲームやインターネットをする時間は合わせて1時間以内にしている」 53%、保護者Q;「お子さんが家でゲームやSNSをしている時間は、60分以内である（動画視聴を含む）」 48%】 コロナ禍の影響もあってか児童のスクリーンタイムは増える傾向にある。児童対象に専門家を招聘してのネット利用のリスクやモラルの学習会は行ったものの、即座に自己管理能力には結びついていない。	B			

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・地域との関わりを大切にし、子どもの総合的な成長に資する効果は大きなものがある。学習意欲の向上に向けた取組の工夫が随所に見られる。 ・マキノ東小学校独自の教育として地域の皆さんと協力し合い、子どもたちの教育について十分に考えて取り組んでいただいていると思う。来年度も引き続き様々な取組をお願いしたい。 ・子どもたちの学習習慣や「話す、聞く、つながる」授業づくり、地域の良さを知る授業、卒業生や協議会、サポート会や健康推進員など、地域住民を講師とした学習で、伸びや成果が得られたことが喜ばしい。「家読」「いじめ問題」「ゲーム・ネットの時間とモラル」は毎年の課題であり難しいことだが、繰り返しの啓発に努め、学校教育目標の達成に近づけてほしい。地域住民が協力的なのが大きな強みだと思うので、これからも協力しともに学校や子どもたちを良くする活動を続けてほしい。 ・学校でやるべきことという点からはかなり高い評価になると思う。とは言っても家庭との連携は欠くことが出来ないので、情報提供やPTAでの取組などに工夫をしていただけるとありがたい。学校運営協議会の主体的な動きにより、CSとしての効果が発揮できるようになっていくことを期待する。 ・色々と忙しい中、先生方や地域の人々が協力し合い、子どもたち一人ひとりをよく見て、よいところを見出してくださっていると思う。子どもたちもそれなりに楽しんで努力していると思う。 ・めざす子ども像や目標を高学年中心に理解し、自らの力で実施している。地域の方々とのかかわりが子どもたちのマキノを愛する気持ちにつながる。お互いのよいところを見つける取組を続けて実施してほしい。	A	・もっと地域住民の参画を広げるために、地域への情報発信が必要である。校報やホームページだけにとどまらず、地区の「放送」を活用させていただいて積極的に情報発信していきたい。 ・学運協委員の方々に、本年度以上に子どもたちの様子を見ていただく機会を増やし、学校の様子を理解していただくことにつなげる。 ・異年齢交流による効果を期待し、縦割り活動の活性化や園小中の交流を積極的に進めていく。 ・学運協発案、主催の取組を計画し、CSの機能がさらに高まるきっかけづくりとしたい。 ・児童が、読んで興味を持った図書を互いに紹介したり、読み聞かせをしたりする活動を検討したい。 ・学校の取組の中でバランス感覚や巧緻性を高めるために、どのような運動が望ましいか検討する。 ・学運協と保護者との交流・意見交換の場でお互いの目標等共有することが出来ればと思う。カヤック等マ東の行事をマキノ町全体の学校で共同で実施できないか検討する。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式１）

令和4年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ西小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
最高教育理念 **自ら鍛え自ら学ぶたくましさと** **人や自然と共生するやさしさをもった人の育成** **校訓** **「明るく、元気に、励む子」** **地域とともにある学校** **～つながり響き合う教育の実践～**	〈自己評価〉 明るい子の育成（A）　元気な子の育成（B）　励む子の育成（B）　地域とともにある学校づくり（A） 〈学校関係者評価より〉 ・コロナ禍のため、思うような活動ができなかったが、その中でも、マ西の子どもらしい真面目さや素直さを伸ばせたし、地域の特性を踏まえた活動はできている。 ・ゲームや読書時間の問題などは、いかに家庭と連携できる活動を進めていくかが課題である。 ・コロナの影響で、活動も大幅に制限され、児童も先生も不安なことが多かったと思うが、校外学習・体験学習も工夫して実施され、各学年それぞれの課題もクリアされたことは、日々の積み重ねであると思う。今後も小規模の良さを生かし、どの活動においても、基本的自尊感情が育つように、指導目標に取り組んでいただきたい。 ・地域の人たちが西小学校の職員、児童を見つめる気持ちは、とても温かいものがある。学校もそれに応えており、とてもよくまとまっている。教育目標は達成できている。	○子どもの姿で勝負するプロ（教職員） ・保護者・地域の期待に応える ・小規模のよさを生かし、課題を克服する経営 ○自らの成長を感じ自信が持てる（児童） ・魅力ある楽しい教育活動、体験活動 ・集団力、自己肯定感の向上 ○学校・地域が課題と目標を共有する（地域） ・地域の核となる学校づくり ・地域人材とのさらなる連携

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
明るい子 ○地域の人から生き方を学ぶ ○共生する力を育み生き方を学ぶ学習の推進 ○絆を深める集団づくり 仲間づくり ○なかよし学級と共に歩む	地域に学ぶ体験学習の実施	知内川水環境学習（3年）、石庭地区学習林里山学習（4年）、地域農家の指導による米作り（5年）、民生委員体験（6年）、さらに6年生の大谷山登山、歴史見学、4年生の堀切川扇状地学習等、地域指導者の協力を得て、充実した学びをすることができた。	A	A	今年度作成した学校地域連携カリキュラムをもとに、関係者で共通認識を図りながら活動を進めていく。	・地域講師の方から様々なことを学び、子ども同士の学びも多かった。地域講師にも子どもたちから元気をもらったという方もあり、双方向で大きな効果があった。地域のことを知らない保護者もあり、子どもと一緒に地域のことを学び、共有する時間が持てるようにしてもらいたい。 ・地域の特色ある内容をより多く体験してほしい。そしてゆったりと体験できる時間配分を検討してほしい。 ・学校全体での合同活動をもっと取り入れてはどうか。
	夢・志をもつ子（夢カード活用）	「将来の夢」「各学期の目標」の全校掲示や夢カードの記入を進めるとともに、キャリアに関する掲示物作成により児童の意識向上を図っている。	A		夢カードの記入や掲示物とともに、毎月の生活の振り返りも行い、キャリア意識の向上を図る。	
	明るい声で挨拶・大きな声で返事をする子 児童の評価 90％以上	挨拶 児童…94％　保護者…86％　返事 児童…86％　保護者…81％ あいさつに関する児童評価は高いが、学校全体としての実際の様子とは少しずれがあるのではないか。	B		「あいさつ、返事、はきものそろえ」の合言葉とともに、日々お世話になっているスクールガードやボランティアの方へのお礼の言葉がけの指導を行う。	
	周囲と仲良くする子　児童の評価90％以上	児童…96％　学級のみならず、縦割り集団活動等の異年齢集団での活動も重視し、人間関係づくりが充実するよう指導している。	A		児童数が減少する中で、役割の意識化や縦割り組織の縮小を視野に効果的な活動を進める。	
元気な子 ○体力向上・運動習慣確立 ○生活習慣確立 ○食育推進 ○いじめ・不登校ゼロの実践	児童の生活習慣改善に向けた啓発の取組	今年度より健康増進プロジェクトを実施し、保護者の協力を得ながら、児童自らが家庭における生活習慣を見直し、改善につながるよう働きかけることができた。	A	B	健康増進プロジェクトについては、工夫改善しながら継続し、日常的な指導とともに、児童や保護者の意識をさらに高めていく。	・子どもの運動習慣は大切であり、以前の10分間運動を再開してもよいと考える。 ・ゲーム・テレビ2時間以内とするよりも、ゲーム・ネット1時間以内の方がよいのではないか。引き続き、学校と家庭の役割分担を念頭に、学校と保護者の連携を深めてもらいたい。 ・子どもたちが地域で遊べる環境づくりが足りていない。地域の者として知恵の絞り出しに努めたい。 ・いじめについては対応が難しいが、早く発見する体制を作ってほしい。 ・学校生活だけではなく、放課後の子どもの生活について、地域や保護者でも考えていく必要がある。 ・生活習慣に関するC評価の項目は、家庭の協力が必要としか言えない。親の意識を変えるため、毎週取組の評価ができるような機会を持つとよい。
	早寝する子　早起きする子 児童・保護者の評価80％以上	早寝　児童…78％（70％）　保護者…72％（77％） 早起き　児童…79％（72％）　保護者…54％（45％）　（ ）は昨年度評価 生活習慣には、課題が見られるが、昨年度に比べると改善している面も読み取れる。健康増進プロジェクトによる啓発が有効に働いていると考えられる。	B			
	ｹﾞｰﾑ・ﾃﾚﾋﾞ 2時間以内・外遊びや運動する子 児童・保護者の評価80％以上	ゲームテレビ2時間以内　児童…53％（60％）　保護者…39％（52％） 外遊び・運動　児童…80％（86％）　保護者…54％（55％）　（ ）内は昨年度評価 いずれも昨年度評価より厳しい結果となった。家庭におけるスクリーンタイムを学校でどのように指導、啓発していくべきか、担任もその難しさを感じている。	C		PTAとも現状や課題を共有することで、保護者の意識を高め、学校での指導や啓発が効果的なものとなるよう努める。スマホやゲームの危険性、正しい使い方に関する親子研修を実施する。	
	いじめ・生活アンケートを活用した指導支援	学期ごとに児童・保護者アンケートを実施し、その後教育相談週間を設定して、細かな実態把握、指導を行っている。また児童の様子について毎週情報交換を行い、全校職員が共通理解のもと指導するようにしている。	A		児童の変化への気づきや違和感を見過ごすことなく、絶えず緊張感をもちながら、学校いじめ防止基本方針に沿った対応に努める。	
励む子 ○基礎学力・学習習慣の定着 ○魅力、喜びのある授業 ○授業改善 ICT活用授業 図書室活用授業 外国語活動 ○読書の質の向上	タブレット端末を活用した授業づくり	タブレットを上手に使って学習できたか　児童…96％ 教師もタブレットと大型モニターを効果的な活用に努めている。	A	B	ICT活用研修への参加や校内での実践交流を行いながら、引き続き効果的な活用に努める。	・学校の授業については、道徳の授業で見たように努力し工夫している。自分の考えをまとめ、大勢の中で気後れすることなく発表し、伝えることができる機会を作ってあげてほしい。 ・学習が楽しいという面は、少人数であるがために先生とのやり取りが功を奏しているのかもしれない。先生の個性を思い切り出すことも、子どもの学力向上になるのではないか。 ・子どもたちには、この時期にたくさんの本に触れてほしい。教職員、保護者そして地域の方を巻き込んでの工夫も必要だと思う。
	家庭学習毎日10分×学年以上に取り組む子 児童・保護者の評価90％以上	家庭学習10分×学年以上　児童…94％（88％）　保護者…80％（71％）（ ）は昨年度評価　児童、保護者とも昨年度に比べて良い結果となっている。各学年度における自主学習指導や自主学習ノート掲示などの取組が結果につながっていると考えられる。	B		時間確保だけでなく、学習内容の定着や充実を図るため、自主学習の意義や取組例の指導に努めるとともに、保護者への協力を呼びかけていく。	
	読書の質を向上　「家読」月1回実施（年間10回）	読書の質の向上に向けて、朝読書、読み聞かせ、マキノ図書館による訪問貸し出し、家読を行っている。しかし、たくさん本を読んでいるかについての評価は、児童55％　保護者39％と課題の残る結果となった。	B		学年が上がるほど読書からはなれていく傾向があるため、これまでの取組を継続しながら、高学年への啓発指導に力を入れていく。	
	学習が楽しいと思える子 児童・保護者の評価90％以上	児童…92％（84％）　保護者…87％（89％）　（ ）内は昨年度評価　多くの児童が楽しく学習に取り組んでいる。また、学習内容がおおよそ理解できていると回答した保護者は89％であった。	B		学習が楽しいと思えることの基本は、学習内容が理解できることである。校内研究をはじめ、分かりやすく、充実感の感じられる授業づくりに努める。	
地域とともにある学校 ○学校運営協議会の運営 ○地域学校協働活動との一体的推進 小中一貫教育の推進 ○道徳教育に関する共同研究 ○「小中一貫教育の日」の推進	年間5回の学校運営協議会の開催・熟議	学校運営協議会を開催し、児童に関する熟議や協議を行った。多くの意見をいただき、それらを教育活動に生かすとともに、学校地域連携カリキュラムを作成し、共通認識を図ることができた。	A	A	教職員や児童が会議に参加する機会を設け、熟議や協議を一層深めるとともに、学校地域連携カリキュラムに関する取組の充実を図る。	・コロナの影響はあったが、学習発表会など地域の方に子どもたちの様子を見ていただく機会を作ったことはよかった。コミュニティ・スクールや地域学校協働活動について保護者の理解を深めていただくためにも、保護者、児童、学運協委員、ボランティアで熟議をする機会を検討いただきたい。 ・学校運営協議会委員について、一人の方が長くというより、理解いただいた方を地域で増やしていくことも一つの方策ではないか。 ・道徳教育については非常によい印象を得ている。少人数の中での子どもたちの発言は真正な気持ちが出ていた。この気持ちを忘れないでほしい。
	学校支援ボランティア等地域と協働した取組	地域学習や平和学習、放課後子ども教室、詩歌チャレンジ、環境整備等の面で支援いただくボランティアの方が増え、活動が充実してきている。	A		たよりやメール配信によりボランティアや保護者へ協力の呼びかけを行い、学校全体としての活動充実を図りたい。	
	学校だより月1回発行/学年だより・保健だより発行/HP随時更新	学校だよりは毎月発行し、保護者配布とともに、区長様を通じて各ご家庭へ回覧いただいた。学年だより、保健だよりも随時発行した。 学校の情報発信への保護者評価…98％	A		学校だよりや学級だより等、引き続き情報発信に努める。地域連携の取組を積極的に発信する。	
	道徳教育に関する園小中一貫研究の実施	中学校区における研究は2年目となり、研究発表大会を開催し、取組の成果を発信するとともに、貴重な意見をいただくことができた。	A		町内園小中一貫による研究の方向性を協議し、中学校区の連携を活かした取組を継続する。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・コロナ禍ではあったが、地域ボランティアも増え、地域の方との交流の機会を増やすことに努力いただき、ありがたかった。今後は学校地域連携カリキュラムの実施に向け、地域の方、保護者を巻き込んで柔軟に対応できるよう充実に努めていただきたい。 ・健康増進プロジェクトは、親子のスキンシップとしても重要である。今後も進めていくとともに、この評価について親子で話し合うことも必要だろう。 ・この地域をもっともっと知ることは、学校やボランティアだけではなく、地域や親の取組も必要であろう。この地域で育ったという自信をもち、自慢できる人になってほしい。 ・今後色んな課題が出てくると思うが、小規模校のよさ、マキノのよさを活かしてどの活動においても基本的自尊感情が育つように指導目標に取り組んでいただきたい。 ・少人数のクラスであるが、それ故の協調性があり教育目標も合致していると思われる。教師も新しい授業についていかなければならないため、大変だと思うが頑張ってほしい。 ・報道の影響か「何でも学校の責任」となり、教職員の仕事は増えるばかりで、本来の仕事である「子どもの生きる力を伸ばす」ことに専念できていないのではないか。学校と家庭で責任分担をしてはどうか。	B	・今年度作成した、学校地域連携カリキュラムをもとに地域の自然や素材を教育活動につなげ、より多くのボランティア等の人材に協力いただきながら学習活動を充実させていくことにより、地域とともにある学校づくりをさらに推進していく。 ・望ましい生活習慣の定着に向けて、今年度より開始した「健康増進プロジェクト」を家族ぐるみで取り組めるよう工夫、改善しながら継続的に実施し、児童のみならず保護者や家族の意識を高めていくよう働きかける。PTA研修会やひびき合い活動における研修の場でもテーマとして取り上げ、意識がさらに高まるようにする。スクリーンタイムの数値目標については、児童の現状も踏まえて見直していく。 ・児童が楽しみながら運動できる機会を増やすため、外遊びを奨励するとともに、業間の時間等を活用した「健やかタイム」を実施する。学級や委員会活動などの単位で、児童自らが計画・実施し、楽しさを味わえるような機会も設定していく。 ・児童数が減少していく中で、担任と児童とのふれあいを大切にしながら、「自己決定の場」「自己存在感」「共感的な人間理解」をこれまで以上に意識した授業改善に努め、それぞれの個性を伸ばしながら「明るく元気に励む子」を育成する。 ・学校運営協議会において、小規模校におけるよりよい教育の在り方について議論を重ね、さらなる教育の充実に努める。また、児童や保護者が参加する熟議の場を設定していく。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ南小学校

学校教育目標

「笑顔あふれ　つながり
やり遂げる　南小の子ども」

〈めざす子ども像〉
〇自分を表現する子
〇学び合う子
〇挑戦する子

〈めざす学校像〉
〇人権を守り、夢と希望を育む学校
〇誰もが自分の力を発揮できる学校
〇安心・安全な学校
〇信頼できる地域の誇りとなる学校

昨年度の評価概要

〇児童評価　学習理解(A)　家庭学習の定着(B)　学校が楽しい(A)　いじめ防止(A)
相談の受け止め(A)　あいさつ等生活リズム(A)　安心安全な学校(A)

〇保護者評価
学習理解(B)　家庭学習の定着(B)　学校が楽しい(A)　いじめ防止(A)
相談の受け止め(A)　あいさつ等生活リズム(B)　安心安全な学校(B)

〇学校関係者評価　学力アップ(A)　心アップ(B)　元気アップ(B)
地域とともにある学校（A）

中期的目標

〇15歳の姿を見通した園小中一貫教育の推進

〇全国レベルの学力保持、継続

〇いじめ、不登校、体罰のない安全・安心な学校づくり

〇教職員の授業力、課題対応力の向上

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
学び深く(学力アップ) ◎個別最適・協働的な学びの実現 ・タブレット型端末の効果的な活用 ・魅力ある学習課題、導入、発問の工夫 ・自己の考えを広げたり深めたりすることのできる対話の工夫 ・児童同士、教師や大人とつながる授業の創造 ◎学習習慣と学力の定着 ・個に応じたきめ細やかな指導 ・自分を表現する力を伸ばす取組 ・学習規律、学習習慣の確立 ・授業とつながりのある家庭学習	授業改善 ※授業の理解度、満足度への児童,保護者の評価 90%以上 ※指導の工夫、全員参加の授業への教職員の評価 90%以上	授業の理解度は児童90%弱、保護者90%以上で概ね良好であったが、昨年度に比べ下がっている。友だちの前で自分の考えや意見を発表するは保護者の高い評価に比べ児童は低い。教職員の授業改善等の高い評価と児童評価とにも若干の乖離が見られる。	B	A	児童の発表する機会を確保するとともに、聞く側は発表者を見ながら静かに聞くや、発表者はどんな意見を言ってもいい雰囲気づくりに努める。	〇小規模校少人数学級の利点を生かし、教員もきめ細やかな指導を心がけていることが全国学テで回答率・正答率ともに高い結果につながったと考える。 〇上の利点はタブレットの活用にも生かされていて、導入当初の頃のぎこちなさは全く感じることはなくなった。 〇学習参観や6年生との熟議では、児童が自分の意見をはっきり話す姿が見られ、自己表現の豊かさを感じた。引き続き、安心して話せる環境と、自身の意見を出しやすい授業づくりに努めてほしい。
	学力の定着 ※全国学力学習状況調査の無回答率 ５％未満 ※全国学力学習状況調査の正答率で全国平均を上回る	わからないことがあれば質問するは、児童・保護者とも昨年度とほぼ同じで概ね良い。全国学力学習状況調査正答率の結果は、国語17%、算数13%、理科24%と3教科とも全国平均を大きく上回った。無回答率は国語で約3.5%あっただけである。	A		R5全国学力学習状況調査に向けて、がってんプリントの活用等事前の取組を重視し、実施後は結果を迅速に分析し、課題の改善に全校で取り組む。	
	学習習慣の確立 ※進んで家庭学習をすることへの児童,保護者の評価 90%以上 ※ジャンプアップ,学び方マスター週間の取組への児童,保護者の評価 90%以上	進んで家庭学習は、児童76.7%（昨年度比－6.2%）、保護者83.3%（同＋3.3%）の評価で、昨年度と大きく変わらない。教職員の92.9%とは乖離が見られる。ジャンプアップ、学び方週間は児童・教職員と保護者とに意識の差があるようだ。	B		ジャンプアップ週間等を中心に、保護者に協力をお願いしながら、児童に自学自習の習慣が身につくように、学校と家庭の両輪で見守り支援する。	
	毎日のタブレット型端末の授業や健康観察での活用 タブレット型端末を活用した保護者への連絡や情報提供	タブレットは全学年ですっかり学習用具と化している。長期休業中も含め、日々の毎朝の健康観察もタブレットで実施できている。従って、児童は毎日持ち帰っている。学習の様子の写真や動画もタブレットを活用して保護者に見ていただいている。	A		タブレットの学習用具化はすっかり定着したので、前項の自学自習につながるタブレットの効果的な活用について研究を深め実践につなげる。	
笑顔あふれ(心アップ) ◎道徳・人権教育の充実 ・考え議論する道徳科の推進 ・心が温かくなる経験を積み重ねることによる人を思いやる心の育成 ◎いじめのない学校づくり ・チームで取り組む生徒指導と早期発見、迅速な初期対応の徹底 ・自分も友だちも大切にできる人間関係の基盤づくり ◎キャリア教育の推進 ・多様な人と交流のある活動の充実 ◎特別支援教育の推進 ・教育のユニバーサルデザイン化 ・個が受け入れられる指導の徹底 ◎凡事徹底の学校風土の構築 ・当たり前のことを当たり前に(挨拶・返事・整理整頓・掃除・時間厳守)	道徳・人権教育の充実 ※友だちや相手を思いやる心の育成への児童、保護者の評価90%以上 ※道徳教育の研究・実践への満足度 教職員の評価 90%以上	友だちや相手を思いやる、みんなと協力するは、児童・保護者とも90%以上で、教職員も100%なので、道徳の研究を中心とした様々な取組の成果が現れたと考える。教職員の道徳研究に対する満足度も92.8%と高い評価である。	A	B	道徳の研究で培い身についた児童のよさを伸ばし、よい取組は継続する。このことを教職員はもちろん、地域の方達とも共有し指導にいかす。	〇道徳教育の研究・充実が児童の情緒の安定につながったように見受けられる。 〇いじめ認知が増え、昨年に比べいじめに関し保護者の評価が少し下がったが、大多数の保護者は良好との回答なので、学校の対応は基本的には間違っていない。組織対応に努めてほしい。 〇地域ボランティアを上手く活用し、関係性も非常に良い。様々な大人が児童と接することが、児童の社会性やコミュニケーション能力を高めることにつながっている。発表会等に招待されたことで、地域の方のモチベーションも高まり、継続しての協力につながっているので、今後も招待する取組を実施するとよい。
	いじめのない学校づくり ※「学校が楽しい」への児童、保護者の評価 90%以上 ※いじめのない学校づくりへの児童、保護者の評価 90%以上	学校は楽しいは、児童90.0%、保護者91.7%とほぼ昨年度と同様の評価であった。いじめのない学校づくりは、児童88.3%（昨年度90.0%）、保護者90.0%（同98.6%）であるが、保護者は昨年度に比べ－8.6%と大きく下がった。	B		いじめ認知の件数が増えた一方で、保護者の評価が下がったので、学校はいじめに初期対応から組織的に取り組んでいることを周知徹底する。	
	個の自立と集団力の向上 ※自己肯定感「今の自分が好きだ」等の児童の評価 90%以上 ※支持的な学級づくりへの教職員の評価 90%以上	児童の今の自分が好きだは、目標には届かなかったが昨年度比＋5.9%の73.0%で、自分にはよいところがあるは昨年度比＋5.7%の80.0%と、少しだが自己肯定感の向上を感じた。教職員の支持的学級づくりに関する項はいずれも100%であった。	B		教職員による支持的雰囲気のある学級づくりに加え、地域の方からも愛され大事にされる経験を増やすことで、さらに児童の自己肯定感を育む。	
	特別でない特別支援教育の推進 ※個を大切にした取組への児童、保護者の評価 90%以上 ※一人ひとりの個性を大切にした取組への教職員の評価 90%以上	児童の先生はほめてくれるは93.3%（昨年度比＋4.7%）、教職員の一人ひとりを大切にも100%と高い評価であるが、保護者の同様の項は91.7%であるが昨年度比－5.4%と下がった。児童の先生は話を聞いてくれるも昨年度比－5.7%の90.0%であった。	B		児童をほめるに加え、児童や保護者の話を親身になって丁寧に聞くスキルや姿勢、児童や保護者が話や相談のしやすい雰囲気づくりに努める。	
	凡事徹底の学校風土の構築 ※しっかりあいさつができるへの児童、保護者の評価 90%以上 ※学校のきまりを守るへの児童、保護者の評価 90%以上	しっかりあいさつできるは、児童・保護者とも91.7%であった。学校のきまりを守るも、児童・保護者とも93.3%であった。凡事徹底の学校風土の構築に関しては、概ね良好であると言える。	A		あいさつは学校だけでなく、地域にも見守られながら現状維持以上をめざす。きまりを守るも、保護者や地域と連携しながら見守っていきたい。	
健やかに(元気アップ) ◎健康な体づくりと運動に親しむ環境づくり ・たてわり遊びの充実 ◎防災・防犯意識の向上 ◎やり切る姿勢づくり	運動好きの児童の育成 ※外で遊んだり、進んで運動することへの児童、保護者の評価 90%以上 ※体力向上に向けた適切な指導への教職員の評価 90%以上	児童の外遊びや進んで運動するは、昨年度比＋8.8%の91.7%で、保護者の同様の項も昨年度比＋6.4%の85.0%であった。コロナ禍も3年目に入り、体力向上の意識が高まったようである。教職員の同様の項の指導、取組は85.7%であった。	A	B	コロナ禍も4年目を迎えようとするので、積極的にマスクを外すことも念頭に、今まで以上に外遊びを推奨し、体育では運動の楽しさを味わわせる。	〇学校では運動場等で遊んでいる姿が見られるが、地域ではほとんど見られない。 〇食育等については、学校では意識して取り組んでいるが、家庭での役割について保護者にさらに認識を持ってもらう必要がある。 〇防災防犯の取組も、学校での指導に加えて、家庭や地域でも協力を得ながら話し合う必要がある。
	食育等健康教育の推進 ※食育に関する児童、保護者の評価 90%以上 ※給食指導や健康に関する適切な指導 教職員の評価90%以上	児童の好ききらいなく食べるは昨年度比－1.0%の73.3%で、相変わらず意識は低い。保護者の同様の項は昨年度比－6.7%の63.3%で、さらに下がった。教職員の同様の項の指導については、昨年度比＋19.0%の85.7%と意識が上がっている。	B		全学年で栄養士の食育指導の授業を実施し、その学習内容と日頃の給食の様子を保護者に知らせ、家庭との連携を一層密にして食の指導を進める。	
	安全教育の充実 ※不審者や自然災害の緊急時の対応 児童,保護者の評価 90%以上 ※危機管理意識を高めた安全指導 教職員の評価90%以上	児童の緊急時の対応は昨年度比＋2.4%の96.7%、保護者も昨年度比＋2.9%の80.0%で、いずれも少しだが評価が上がった。教職員の緊急時や危機管理意識向上の指導については、100%の評価であった。	B		防災の緊急時の訓練は、これまでより児童に的確な判断を必要とするものにし、内容や児童の様子について、保護者や地域に広く知らせる。	
地域とともにある学校 ◎地域の人と目標やビジョンを共有し地域と一体となって子どもたちを育む ◎子どもたちと地域の人がつながる教育活動の推進（学校支援ボランティアとの協働） 園小中一貫教育の推進 ◎15歳の姿を見通した教育活動の創造 ◎「自立と共生」の力をもって生き抜く子どもの育成	学校教育目標の共有 ※めざす子ども像、学校像の共有 保護者評価90%以上 ※めざす学級像、子どもの姿の共有 教職員の評価90%以上	保護者の子ども像、学校像の共有は、昨年度比－3.6%のものの95.0%であった。学校からの情報提供も同＋1.2%の98.3%であった。教職員の同様の項については、いずれも100%であった。学校目標の共有は概ね良好であったと言える。	A	A	今年度同様に、おたより等での学校教育目標を知らせる手段は残し、学校地域連携カリキュラムやホームページでも広く発信し周知に努める。	〇ホームページが定期的に更新され、地域にも学校教育目標等の周知される範囲は広がりつつあるが、一層のおたよりの充実も必要である。 〇今年度は学運協、教職員、学校支援ボランティア、PTA、児童と熟議、懇談、意見交流する機会を持ててよかった。「子どもは地域の宝」という意識を強くする機会になった。 〇学校支援ボランティアに参加する大人も有難さを感じていて、大人と児童の双方の自己肯定感向上に役立っている。
	地域との協働による教育活動の充実 ※学校運営協議会での熟議を生かした取組 学期に1回以上 ※学校支援ボランティア等地域と協働した取組	8月に学校運営協議会に全教職員とPTA役員、学校支援ボランティアを加えた総勢29人で熟議を行い、目標・ビジョンの共有を図った。12月には学校運営協議会と6年生児童とで熟議を行った。地域と協働した取組は随時行った。	A		熟議は学運協にPTA、ボランティア、さらに児童も加えて実施する。熟議で目標・ビジョンを共有した上で。地域との協働した活動に取り組む。	
	園小中一貫教育の推進 ※中学校区での学習規律等を統一した取組の実施 学期に1回以上 ※中学校区での合同研究、研修の実施 学期に1回以上	中学校区での統一した学習規律をもとに、話し方や聞き方等のポイントを示し、毎月学び方マスターの取組を行った。11月1日の道徳教育研究発表大会に向けて、中学校区、特に東小と西小と連携しながら研究授業を毎月行った。	A		道徳教育研究での成果を中学校区で確認し、継続した方が良いことは継続し、児童生徒の様子から課題に向き合い新たな取組を始める。	
	小中合同による道徳教育の研究推進 ※「道徳の授業は楽しい」の児童評価90%以上 ※「道徳の時間に必ず発表した」の児童評価90%以上	中学校区での道徳教育研究発表大会の成果として、いずれも当初目標の90%には及ばないものの、道徳の授業は楽しいの児童評価は83.3%(前年度比－1.0）でほぼ横ばい、道徳の時間に必ず発表したは81.7%（同＋3.1%）で少し良くなった。	B		研究発表大会は終わっても、児童が楽しいと思う道徳授業の創造や展開、必ず発表する姿勢をもたせる工夫等について継続して取り組む。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	〇少人数なので、教職員と児童、家庭との垣根が低いという利点がある。お互いがうまく連動・連携して、心身ともに健やかな育ちをサポートできる関係性を築き上げていくことが大事である。 〇小規模校のメリットが生かされている優れた学校であると感じる。児童が豊かな子ども時代を過ごすのに最適な環境である。さらに利点を生かし、社会見学や遠足などの校外学習活動を学校支援ボランティアと協働して回数を増やすことが望ましい。多様な意見にふれ合う機会も増える。 〇達成状況データからは、保護者との認識のズレ等も見受けられるが、学校はサービス業ではないので、満足度に振り回されることなく、将来を見据えた運営を続けてもらいたい。 〇業務や行事について、児童に良かれと思い増えていくものもあるが、効果が薄いものや他に重点的におくもののために縮小や役割を担う人について考えていくことも必要である。 〇今年度はコロナ禍の影響もあったが、学校支援ボランティアと児童との交流、学運協委員と児童・教職員との交流も増え、これまで以上に協働活動、コミュニティスクールとしての活動が充実したと考える。このような状況を踏まえ、南小学校区の地域資源をうまく活かし、今年度作成中の学校地域連携カリキュラムに反映されることを望む。	B	〇「地域とともにある学校」をめざした地域との協働した教育活動のいっそうの充実 ・幅広い人材による熟議の開催　学校運営協議会委員・学校管理職に、教職員、学校支援ボランティア、PTA、高学年児童を適宜加える。 ・学校地域連携カリキュラムの保護者や地域への周知徹底と、計画的に見通しをもって学校支援ボランティアとの協働活動を実施する。※特に、今年度の学運協で提案された「田屋城跡からの展望」（仮称）を多くの学校支援ボランティアを募り実施し、つながりを深める。 ・防災や防犯の教育活動についても、地域との協働した取組を実施する。 〇家庭との連携を重視した取組の推進 ・児童の主体的な家庭学習の促進、ゲームをしない・YouTubeやTVを見ないノースクリーン日の設定などジャンプアップ週間取組の改善 ・食育に関する家庭の役割を、ひびきあい等の機会を活用して積極的に情報提供する。 ・児童の学校での様子をタブレットを活用して今年度以上に積極的に発信する。また、安心安全なタブレット・スマホ利用についても情報発信する。 〇小規模・少人数学級の利点を最大に生かす ・きめ細かな学習指導、一人ひとりを大事にする生徒指導・教育相談の実施　※いじめについては全教職員で組織的に対応

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式１）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
品位・気魄・和合 ～思いやりの心を大事にし、 自ら考え、判断し、行動する生徒～	・授業がわかる９８％（生）　・家庭学習６０分以上６４％　・部活動の充実８９％（生） ・月２冊以上の読書３４％　・１０ｋｍロードレースへの意欲９２％ ○学力向上への取り組み・・・グループ学習の充実と補充学習の徹底 ○いじめ点検・・・生徒・保護者月１回を実施　解決１００％ 学校関係者評価より ・楽しいだけの行事ではなく、辛いことを乗り越えるようなことは中学時代に必要である。 ・逃げられる場所があり話せる先生や友達にいてもらいたい。きめ細かな見守りをお願いしたい。 ・学校運営協議会が教職員やPTA、生徒と話す機会を設け、思いが共有できるようになればよいと思う。 ・地域学校協働本部を活用し、学校と地域との具体的な協働活動が進み、活性化させていきたい。	□自ら学びに向かう姿勢の育成 □自ら行動する生徒の育成 □豊かな心を育てる体験活動の推進 □考える力を育てる授業への改善 □地域のつながりを深める活動の推進 □教師の高い経営参画意識と組織対応 □個性を生かし支え合える教師集団

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
学力の向上 ・主体的な学びの確立 ・学び合う学習の充実 ・言語活動の充実 ・基礎基本の徹底 ・家庭学習の定着 ・ICT機器を活用した授業実践	「授業がよくわかる」と回答する生徒が９０%以上	・「授業での学習内容がよく分かった」と回答した生徒が第1回目90.1%、第2回目97.3%であった。定期テスト等から、学力の二極化がみられる	A	B	・生徒の学習意欲を高め、主体的に学ぼうとする授業への改善する。	・授業を参観し、先生が生徒をみて丁寧に指導していることや、生徒が生き生きとして意見を交流し課題を解決しようとしていることが分かった。 ・学習についていけない生徒が、「わからない」と言える環境作りに励み、学び合う学習集団づくりを構築したり、自主的に家庭学習に取り組む工夫を授業でしたりしてほしい。 ・教員のタブレット端末活用力をさらに向上されることが望まれる。 ・教師とは違う立場の講師を招いた、異なった立場の人と交流の機会を作るとよい。
	生徒９０%以上が家庭学習を毎日　６０分以上	・「家庭学習は毎日60分以上行った」と回答した生徒が、第1回目61.3%、第2回目67.4%、保護者は第1回目45.1%、第2回目62.4%であった。	B		・家庭学習について保護者と連携し、習慣化するよう工夫する。	
	生徒が考えを表現する授業の実践(言語活動の充実)	・「考える授業ができている」と回答した教員が83.3%で、「授業の中で自分の考えが言える」と回答した生徒が75.1%であった。	B		・考えを述べたりまとめたりする場を設定し、生徒が主体的に取り組む授業を展開していく。	
	教える授業から学ぶ授業への改革(学び合う場の設定)	・「学び合う学習の充実に努めることができた」と回答した教員が84.6%で、「授業に積極的に取り組み、授業が楽しい」と回答した生徒が91.1%であった。	A		・教え合う場面を設定し、互いに理解を深める授業を展開していく。	
	主体的対話的探究的な単元構想・補充学習の実施	・「基礎基本の徹底と思考力判断力表現力の育成に努めた」と回答する教員が75.0%、「テスト前の学習は集中して取り組めた。」と回答する生徒が75.9%であった。	B		・言語活動を充実させた単元構想を実践し、補充学習も継続して実践する。	
	学習ルールや取組姿勢への指導	・「学習に取り組む姿勢や学びのルールを身に付けさせる指導ができた」と回答する教員が83.3%であった。	B		・学習規範について、生徒が考えたり振り返ったりする場を設定をする。	
	タブレット端末の効果的な活用	・「タブレット端末の効果的な活用ができる」と回答した教員が78.6%で「タブレット端末を正しく使い自分から学習を進めることができた」と回答する生徒が96.7%であった。	A		・タブレット端末を活用し、個別で学習する場面と協働で学習する場面を工夫する。	
豊かな心づくり ・道徳教育の充実 ・集団づくり・学校行事の活性化 ・地域貢献活動の充実 ・生徒指導・教育相談の充実	「道徳の授業はためになる」と回答する生徒が80%以上	・「道徳の授業はためになる」と回答した生徒が第1回目94.6%、第2回目97.4%であった。「自分の事として考えた」と回答した生徒が第1回目97.2%、第2回目100%であった。	A	A	・自分事と考える道徳授業を継続し、その学びを全教育活動につなげていく。	・自分の思いを出せることが多くなった。道徳の授業で得たことを普段の生活の中で実践につながる指導をお願いしたい。また、いじめ防止のため、継続して調査したり子どもをよく観察したりしてほしい。 ・ボランティアは大人でも難しい。年配の方は喜ばれていたという情報を生徒に伝えてほしい。地域貢献活動は、人間関係、コミュニケーション、道徳心を育むことに効果的で引き続きお願いしたい。
	「いじめ点検」を月２回実施　いじめの解決　100%	・「いじめをされたことがない」と回答した生徒が第1回目95.3%、第2回目94.3%であった。いじめが発覚した際は即座に対応し見守りを継続し、解決はほぼ100%である。	A		・いじめを許さない心の育成と学級・生徒会活動で自治的な集団作りに力を入れる。	
	ボランティア・地域貢献活動の充実	・「ボランティア活動をした」と回答した生徒が64.3%であった。また、小６と中１が、子ども民生委員活動を実施した。	B		・地域学校協働活動コーディネーターや学校運営協議委員と連携し、活動を推進する。	
	生徒に寄り添う教職員	・「先生はよく関わってくれる」と回答した生徒が、第1回目97.2%、第2回目96.3%であった。また、「予防的な生徒指導に取り組んだ」と回答した教員が100%であった。	A		・研修を適時設定し、生徒との距離感を考え、困り事に寄り添う教職員を育成する。	
健康な心身の育成 ・健康な生活リズムの確立 ・自己管理の定着 ・食育の推進 ・部活動の充実	「学校行くことが楽しい」と回答する生徒が90%以上	・「毎日が安心して過ごせ、学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒が、第1回目90.0%、第2回目94.3%であった。	A	A	・充実感や達成感のもてる教育活動の展開と、丁寧なかかわりを継続し、支援していく。	・学校へは行かねばならないところではないかと思う。 ・生徒会等で話し合い、ノー・スクリーンデーなどを設定するとよいと思う。 ・生徒は学校生活を前向きに受け止め、朝登校時に挨拶しても、明るい返事をする。 ・食生活は家庭の協力が必要である。 ・地域を知るために、地域資源を活用した教育活動をするとよい。
	タイムマネジメントができる生徒　23時までに寝る生徒80%	・「時間に余裕をもって登校できた」と回答した生徒が87.5%、「23時まで寝ることができた」と回答した生徒が55.5%、「子どもは家庭で時間を守っている」と回答した保護者が66.5%であった。	B		・基本的生活習慣について保護者ときめ細かに連携し、改善に努める。	
	給食の完食　90%	・野菜のメニューについての各クラスの残食は１割程度であったが、その他は残食が少なかった。	A		・食と健康、食と産業等について学ぶ機会を作るなど、食育指導の充実を図る。	
	挨拶ができる生徒	・「近所の人に会ったときは挨拶をしている」と回答した生徒が、第1回目94.2%、第2回目96.3%であった。	A		・生徒への朝の挨拶を教員等が率先垂範していく。	
	部活動が充実していると感じる生徒が90%以上	・「部活動に充実して取り組めた」と回答した生徒が、第1回目94.2%、第2回目94.3%であった	A		・部活動に対する生徒の意欲と充実感が継続するよう、効率的な指導を行う。	
保護者・地域とともにある学校の創造 ・地域学習の充実 ・学校運営委員会・PTAとの連携 ・積極的な情報発信 ・安心安全の学校 ・学校評価の充実	地域とつながる学習の充実	・各学年で地域貢献活動を実施し、ほぼ90%の生徒が参加した。また、総合的な学習の時間で、生徒各自が地域探究のテーマを決め、発表した。	A	A	・地域の方々に協力を得て、つながりのもてる具体的活動を進める。	・地域とのつながりを重視した学校運営は光る。 ・学校運営協議会で生徒ととも協議した際、マキノのためにできることを生徒が提案したのは驚いた。今後も継続してほしい。また、生徒が考えことをPRする場を工夫してほしい。 ・地域とともに歩む学校づくりについて、教職員の意識を高めてほしい。
	学校運営協議会・地域学校協働本部の活性化と連携強化	・学校運営協議会を５回開催した。第３回目は保護者、生徒、教職員も参加し、意見交流ができた。また、学校地域連携カリキュラムについても協議することができた。	A		・地域学校協働活動とPTAと連携し、保護者や地域の方々の学校への参画を推進する。	
	学校のだより毎月発行　HPやﾒｰﾙ等での情報発信	・「学校・学年だより」はほぼ毎月発行し、「学校だよりやメール、HP等の通信で、学校の情報は得られる」と回答した保護者が、96.5%であった。	A		・学校の状況を丁寧に発信できるよう、継続して実施する。	
	年間２回の学校評価（保護者・生徒アンケート）実施と結果公表	・7月と12月に実施し、8月と2月に結果を公表し、教育活動の改善に役立てた。特に、制服、上履き、ロードレースについての意見を参考にして、今後の方針等を決定した。	A		・アンケートを実施し、保護者と生徒の思いを真摯に受け止め、きめ細かに対応をする。	
	保護者対象「いじめ点検」を月１回実施	・保護者対象の点検を各学期に1回実施した。緊急性のあるものについては、即時に面談し解決を図ることができた。	A		・日々の生徒の状況を確実に把握するため、保護者との連携を深め、継続的に取り組む。	
小中一貫教育の推進 ・キャリア教育の充実 ・小中合同道徳授業研究の充実	「夢カード」を学校生活向上に繋げる効果的活用	・「夢カード」をキャリアパスポートにおきかえ、学期に１回実施した。これを学活で活用し、今までの振り返りと新たな目標を設定する時間を設けた。	A	A	・キャリアパスポートを小中で共有し、自分の夢や目標の実現に向けた教育活動を工夫する。	・小中の交流を今後も設定したり、学校地域連携カリキュラムを小中で共有したりするとがよい。 ・小・中の教職員、児童生徒、PTA、学校運営協議会委員等が一緒になって語り合う場があるとよい。
	小中学校のつながりを大切にした交流活動	・コロナ禍で十分な交流はできなかったが、小学校マラソン・陸上練習の支援、小６と中１の子ども民生委員の活動、運動会へのボランティア活動はできた。	A		・小中の教育課程をすり合わせ、つながりを意識した教育活動の展開を行う。	
	事前研究・合同授業研究会への意欲的な参加	・5月30日に高島市小中一貫教育研究大会、11月1日に道徳研究大会に向けて、園小中で協議を重ね、道徳研究を推進することができた。	A		・目指すマキノの子ども像や付けたい力を共有し、小中で実践できる取り組むを実践する。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・学校の取組の様子や制服が変わること等についても知らせてもらってよかった。先生方が日々仕事に励んでいる様子もよく分かった。今後も、授業を見る機会を設けたり、学校の取組の情報等を伝えたりしてほしい。そして、学習に主体的に取り組む工夫が今後も必要である。 ・思春期の時期で個別事象は多いと思うが、学校に来てもしんどさを抱える子、相談できない子はいると思うので、引き続き気にかけてサポートしてほしい。また、いじめの問題や不登校対策については、学校と委員双方で協議して解決策を模索したり、子どもの自尊感情を高めるために、地域とのかかわりのある取組を工夫し、地域で子どもを育てる方向に進んでいけるとよい。 ・学校全体としてめざす方向、したいことが明確にされ、その実現に向け、先生方も子どもたちともに努力されていることがよく分かった。なかでも、生徒が地域に入る具体的な取組の一環である地域貢献活動により、マキノに愛着をもってもらう取り組みはとてもよかった。学校運営協議会で、生徒や地域ボランティア、教師、PTA、運営委員との話し合いができ、有意義であった。	A	・学校運営協議会において、学校の取組を丁寧に伝えたり、生徒の様子をみる機会を増やしたりして、ともに生徒を支える環境を構築していく。 ・学力向上のために、生徒が学びたくなる、生徒の言語活動が充実した授業改善に取り組む。また、学び合う集団づくりに努め協働的な学びを充実させたり、補充学習の時間を増やしたりしてしていく。 ・生徒の困り感に寄り添い自尊感情を高めるために、教職員研修を通して資質向上に努めたり、二者および三者懇談会の機会を増やし保護者との連携を密にしたり、生徒の自治活動を工夫したりしていく。また、生徒の人権意識を高めるために、道徳教育や生徒会主催のいじめ撲滅運動、人権教育に力を入れていく。 ・地域とともにある学校を推進するため、「子どもを育てる」という視点を基に、地域と学校をつなぐ活動を学校運営協議会やPTA、地域の関係者等と協働し展開していく。

４段階評定（Ａ　目標を十分に達成　　Ｂ　ほぼ目標を達成　　Ｃ　やや不十分　　Ｄ　改善を要する）

（様式Ｉ）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津東小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
心身共に健全で 創造性豊かな子の育成	〈Ｒ3学校評価　概要〉 ・（児）学校が楽しい81%、勉強がわかりできる89%、自分の考えをよく発表56%。 ・（教）よくわかる授業９５％、ICTを活用した授業95%、問題行動の早期発見90%。 ・（Ｐ）子どもは学校へ行くのを楽しみにしている90%、先生は子どもをよくほめている81%。 ・（学運協）全体的に、コロナ禍のため教師と児童、学校と保護者や地域の意思疎通が希薄になっている。メール配信などで、もっとオープンに学校の様子を知らせていくべきだろう。また、「地域とともにある」とはどういうことか。学校が支援をもらうことにとどまらず、地域と一緒に活動できることが大事である。委員も、地域の声を吸い上げてくるようなしくみになるとよい。	＜中期的目標（R４～R５）＞ 〇言語能力の向上を図り、正しい用語による論理的な表現力の育成を図る。 〇成就感や達成感を高める行事の工夫と連帯感や充実感を深める学級づくり 〇すこやかタイムの定着と保健安全指導の工夫

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
（かんがえ） 学びの楽しさを知り、自ら学びに向かう子の育成	「勉強がわかり、できる」児童の評価８５％以上。「授業中、自分の考えを発表」児童の評価70%以上。	「国語や算数の授業がよくわかる」に対する児童評価は８８%。５年生のみ、８０%をきる。授業中の発表についての児童の評価は６０%。到達目標70%には、1年生～４年生までは到達している。	B	B	児童の評価については、職員会議で確認・分析を行った。結果を真摯に受け止め、引き続き授業改善に取り組む。	・参観のたびに教室でタブレットにより学習する児童の姿を拝見して、ツールとして浸透していることがうかがえる。活用が慣れとともに、非常にスムーズである。教職員も日常的に活用方法を研鑽しているものと感じる。さらに、タブレットの可能性を広げていってほしい。 ・教室での児童の様子は、たいへん落ち着いており、さまざまな取組の成果が現れているのもと感じる。 ・よりよい姿勢で授業に望めている。 ・発表については、個性があり、苦手な子もいる。発表を聞いてあげられる雰囲気がつくれるとよい。
	「ICTを活用した授業に取り組んでいる」教員の割合90%以上。	「タブレットなどICT機器を活用して指導する」教員の割合は８２%。昨年の９５%に比べ割合は落ちたが、タブレットの使用頻度は高く、毎日多くの学習場面で活用されていて、進んで学習に向かえる児童も増えている。	B		タブレットの効果的な活用が、児童の学習意欲を高めると考える。引き続き効果的な活用方法についてOJT研修を進めていく。	
	「読み解く力」を意識した授業づくりに努め、グループ学習を効果的に実施。	「読み解く力」を意識した授業づくりを校内研究の柱の一つとし、読み解く力の検証や授業研究に力点を置いて取り組んできた。また、「互いの考えを深め、高め合う」ためにタブレット端末を有効に活用するように努めた。	B		ＩＣＴの効果的活用を進めるとともに、「互いの考えを高め合う」授業づくりのポイントについて共通理解を深め、学びの質の向上に努める。	
（おもいやり） 自他を愛する豊かな心の育成	「学校に来るのが楽しい」の児童の評価80%以上。	「学校に来るのが楽しい」の児童評価は81%で、昨年をやや上回ることができた。ただし、「休み時間は友だちと楽しく遊んでいる」の児童評価で否定的な回答をした児童が5%いる。個別のみとりと声かけをしてきた。	A	A	個別のみとりを多くの目で確実に行い、安心・安全な学校・集団づくりを目指して取組を進める。一人ひとりの心に寄りそった丁寧な指導を継続していく。	・いじめ事案が起こらないような対策や早期発見をすることも大事だが、起こさない、起こさせない正義感の強い子どもたちの育成に注力してほしい。よって、「子ども自らが動いていく取組」には期待する。 ・「休み時間は友だちと楽しく遊んでいる」の児童評価の中で、否定的な意見すべてが否定ととらえることないように。子どもの中には、一人でいることが好きな子もいる。そのような児童もいることを認めていかないといけない。 ・子ども一人ひとりの見守り・見取りを確実に行うことが大切。
	校内人権の日に、教員が交代で人権啓発のメッセージを伝える。	校内人権の日には、教員がメッセージを伝え、各学級で児童の実態に応じた説話を担任が行っている。また、「気づき　考え　行動しよう」をテーマに校内人権週間を行い、各学級でもめあてを決めて取り組んだ。	A		人権にかかわる身近な話題から、児童が生活や自分自身を振り返るよい機会となっている。継続的に取り組みたい。	
	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価80%以上。	「先生はいけないときはしっかり直させてくれる」の児童評価は95%。今回保護者評価の指標が取れていない。いじめ点検会議を毎週行い、全教職員で共通認識し、いじめ事案に取り組んでいる。	B		子ども自らが動いていく取組を仕掛けるとともに、学校の取組が分かるような広報活動を行う。保護者や子どもの相談に真摯に応えられるようにしていくことが肝要である。	
（たくましい子） 体力や気力、生きる力の育成	「すこやかタイムをはじめ、教育活動全般で体力づくりを図る」の教職員の自己評価８0%以上。	今年は、春の運動会（半日開催）、マラソン大会、すこやかタイム等、予定通り行うことができた。子どもたちも、「外で遊んだり、すすんで運動している」と答えた子は、８６%。体力づくりの取組は進められた。	B	A	コロナ禍の中でもできる①個別の運動機会を増やす、②場づくりの工夫などにより、体力低下を防ぐ努力を続けたい。	コロナ禍での教育活動は、これまで以上の配慮が必要だったと思うが、各教職員の献身的な取組で学校教育目標に迫れていると感じる。 ・全国的に体力低下が危惧されているが、そのなかでもさまざまな場面で体力づくりに取り組もうとされているので期待している。 ・コロナ禍において、取組が制限される中でも、対策を講じた上で可能な限り様々なことに取り組めた一年だと感じる。このことは、「子どもたちが子どもたちであるために必要不可欠なもの」だと感じる。日常的な楽しい遊びを活かして知らず知らずのうちに運動能力が伸ばせる仕掛けをしてほしい。 ・コロナ禍で「はなまる広場」の遊びができなかったのが残念。
	健康で安全な生活を意識させる指導の工夫。	コロナ禍の中で、引き続き、感染予防のさまざまな手立てや啓発・指導に教職員一丸となって取り組んできた。避難訓練についても、今年度は、不審者対応の訓練も含め、予定通り実施できた。	A		コロナ対応の取組は、今後の動向をよくみて、引き続き継続させる必要がある。避難訓練および、交通安全に対する指導も大切にしていく。	
	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」児童の割合80%以上。	本指標に対する評価は取れていないが、昼休みには、５年生が1年生教室を訪れたり、６年生が３年生と一緒にサッカーをする様子等がよく見られた。また、秋祭りでもいろいろな学年が入り混じって活動する姿が見られた。	B		縦割り遊び、秋祭り等、異学年が交流する場を今後も引き続き設定するとともに、掃除リーダーの取組も続けていく。	
地域とともにある学校	地域学習を年間計画に位置付け、各学年とも年1回以上実施。〇学校・地域連携カリキュラムづくりをすすめる。	コロナ禍の中、地域に出かけたりゲストティーチャーを迎えたりして、学習を進めることができた。学校地域連携カリキュラムづくりは、中学校区での統一したテーマをもとに職員研修、熟議を経て完成に近づいている。	A	A	本年度作成した学校地域連携カリキュラムに沿って学習をすすめるとともに、実際に行ってみて改善するところ、さらに深く進めるところ等再確認していく。	・ゲストティーチャーとして地域の方を活用し、その方々の生きがいにもつながれば「地域とともにある」学校として存在感が高まる。 ・授業参観により、児童や先生の様子がよくわかった。運動会など学校行事にも参観できればちがう姿が見られるのではないか。 ・コロナ感染が拡大し、地域の人が児童と交流しづらいことになり、今後の活動の工夫が必要。将来に向けて種をまく必要がある。 ・学校地域連携カリキュラムが作成中であり、次年度以降に活性化を期待する。現在、かかわってくださっている方に加えどういった方々に参加していただけるか。（商工業者、壮年会、熟年会、移住者等）
	学校運営協議会の熟議を経た意見をもとに、全委員が執行者として学校運営にかかわりを持てるようにする。	学校運営協議会では、今年度、学校地域連携カリキュラム作成に向け、熟議を行った。特に、夏の第２回では、全教職員との熟議の場を設定することができ、学校運営協議会委員と教職員が意見交流するよい場となった。	A		学校運営協議会での熟議で出た意見を具現化すべく、委員が執行者として「何を」「どのように」取り組むのかを今後の課題としたい。	
小中一貫教育の推進	小中一貫教育標準カリキュラムを活かした授業づくり。	小中一貫教育推進ＣＯのもと、今津中学校区の取組を進めてきた。小中学校の教職員が集まり、部会別研修や授業参観等の教員研修を実施した。さらに、学校地域連携カリキュラムについても小中連携して行う取組を考えた。	B	B	共同授業研究の更なる積み上げと、中学校へのつなぎを意識した指導内容の確認や授業改善が図れるようにしていく。	・中学校の先生方の専門性が活かせる授業も仕組んでもらいたい。 ・今年度、今津中学校はあいさつ運動に力を入れ、地域の方からもあいさつができるようになったとの話が出ている。小学校も中学校と連携した取組ができるとよい。 ・中学校と連携し、「今津の子」をどう育てていくかを考えていくべき。
	小中学校の児童生徒の交流の促進。	コロナ禍ではあったが、小から中への滑らかな接続のために、方法や時期を工夫して、陸上記録会練習、中学校での部活体験や「ようこそ先輩事業」を行った。	B		今後も、陸上記録会練習や部活体験は、進めていきたい。今津北小児童とも合同で体験させてやりたい。琵琶湖清掃活動、保全活動等も合同で行っていく。	

学校関係者評価	総　　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	〇天使のような子どもたちを求めているような気がしてしまう。多様性を受容できるような思考でよいのでは。 〇子どもが元気で楽しく学校へ来るのが一番。体力作りも続けていくことを期待する。また、タブレットを使っての新しい取組にも挑戦してほしい。先生も元気で楽しいと感じることが大事。 〇子どもの思いに気づいてあげられる学校になってほしい。 〇小中一貫教育の推進については、市内だけでなく、広い視野で成功事例の共有の仕組みを確立させ、取り組むとよい。 〇学校地域連携カリキュラムを実践する中で、小中の連携をどうするか、その中でどうすれば地域の方に参画してもらうことができるかを考えていけるとよい。住民自治協議会とも連携を。 〇到達目標に対する評価がとれていないケースがある。必ず評価できるようにすべき。	B	〇個別のみとりを多くの目で確実に行い、一人ひとりの心に寄りそった丁寧な指導を継続し、子どもたちが元気で、楽しい学校になるような取組を進める。また、児童会を中心に、子ども自らが働きかけ、活動していく取組を仕掛けていきたい。 〇児童の学習意欲を高め、「互いの考えを深め、高め合う」ためのタブレットの有効活用について他校の実践から学んだり、ＯＪＴ研修をすすめ、学びの質の向上に努めたい。 〇今年度作成した、学校地域連携カリキュラムを実践していく中で、小中連携の取組や地域と一体となった教育活動ができるように進めていきたい。そのために、地域のいろいろな組織や人とのつながりを深めていく必要がある。 また、中学校と連携し、「今津の子」をどう育てていくかを考え、共同授業研究やあいさつ運動などに取り組んでいきたい。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式１）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津北小学校

学校教育目標	
すすんで　やさしく　たくましく 人を思いやる豊かな心と自ら学ぶ意欲を持ち、ふるさとを愛する心身ともにたくましい子どもの育成	

昨年度の評価概要	
・先生方が毎日楽しいと思い、笑顔で子どもたちと向き合える学校づくりに取り組んでもらいたい。評価はそのためにあり、先生の思いつきや工夫、変化などに対して後押しができるような関係を作りたい。 ・コロナ禍で様々な制限があり、予測不可能な中、工夫した取組や重要な行事を実施して、子どもたちやその家族にとっても充実した１年が過ごせた。社会の変化に伴い今後も課題は尽きないと思うが着実にできるところから一つひとつ取り組んでいる当校は目標を十分に達成できている。今後は柔軟に対応できる体制づくりと小さな学校だからこその特色を逆手に活かしてほしい。 ・元気のよいあいさつや正しい言葉遣いは、まず大人が見本を見せるつもりで継続して取り組んでいく。いじめについては普段から多くの目で子どもたちの姿を観察して、おかしいなと感じたらすぐ指導できる体制を作る。日頃から気づいたことを共有し、タイムリーに指導して、子どもたちの人権意識を高めていくことが大切である。	

中期的目標	
・学力の基礎基本の定着を図り、自分の考えたことを表現につなげる。 ・行事を通して成就感や自己存在感を深める学級づくり。 ・日頃から健康と体力を高めようとする意欲を育てる保健･安全指導の展開。 ・地域の特色を知り、ふるさとを愛する心情の育成。	

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定	評定	改善方策	学校関係者評価
学びあう子の育成のための力点 ◎ 考えたことを話し合い、言葉を工夫して表現する学習活動の工夫 ◎主体的な学びにつながる、わかる授業の実践 ◎ICTの活用 ・興味関心を抱かせ、思考につなぐ資料や考え方の提示 ・情報機器を使った学習の工夫とまとめ、発表機会の工夫	・「授業が分かる」と回答する児童 ・・・85%以上	2学期末で「学校の勉強はよくわかります」と答えた児童９２%、担任は１００%がわかる授業のために事前に取り組んだと回答した。保護者は８５%が「学校でお子さんは学習はよくわかると言っている」と答えている。	A	B	指導技術についての研修を定期的に持ち、学校全体の指導力を高める。朝学習の内容を工夫し、きめ細かな指導による基礎基本の徹底を図る。	・ペア学習やグループ学習は自分の意見も発表しやすく達成感も得やすいため、これからも深めてほしい。 情報モラル教育は、社会的倫理観を学ぶ機会として重要視してもらいたい。 ・全員がタブレットを持ち、学べる機会ができたことは喜ばしい。子どもたちが何を学ぶか学校全体でよく検討してもらいたい。目の届かない時の使い方が気になります。 きちんと理解できているか確認はさらに必要と考える。 ・読書も好きなようですが、その感想を発表できる場があるといいかもしれません。
	・家庭学習時間の定着化・・・20分　（1，2年生） 10分×学年　（3年生以上）	家庭学習の時間は、学年の目標時間が達成できたと回答する児童が８１%（昨年６７%）で昨年度より向上しているが、保護者は５８%であり、今後も粘り強い取り組みが必要である。	B		タブレットを活用した家庭学習も取り入れ所要時間の目安を提示し充実を図る。	
	・話し合いを取り入れた学習活動 主体的・対話的で、深い学びの実現 各教科で単元のまとめ等で随時実施	「友達と話し合うことで考えが深まったり、広がったりした」と８６%の児童が答えている。コロナ禍でもあり、話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりする活動はまだ制限を伴っている。	A		タブレットを活用し全員の意見を提示し、それをもとにペア学習やグループ学習に取り組み、自分の意見を述べる場を持つ。学年に応じた話し合い活動ができるように指導する。	
	◎ICTを使った学習活動 ・タブレットの効果的な使い方について各教科の学習活動を通じて進める。	タブレットは、各学級とも積極的に活用ができている。家庭にも毎日持ち帰っている。家庭での利用のきまりを徹底するなどして適正な活用を促し、教員の研修も進めて有効的な授業での活用に努めている。	B		情報モラル教育について、学年の実態に合わせて指導を徹底していく。	
◎いのち・人権を大切に ・「いのち」の大切さを全教科・領域を通じた指導 ・学級や縦割り活動における、好ましい人間関係づくり ◎いじめをなくそう ・日常生活の中で、「楽しい学校」について考えさせる。 ・人権集会を契機として自分たちからいじめをしない環境づくり	◎いのち・人権・思いやり ①やさしい言葉をかけられた経験　85%以上	今ずっとなかよし集会を２回実施した。「友達と仲よくすごしていますか。」の問いに児童の９７%が過ごしていると答えている。多くの児童は思いやりをもって過ごしている。嫌な思いをする児童に対しては迅速な対応が必要と考え取り組んでいる。	A	A	職員全員で児童全員を指導することを心掛け、児童の呼び方や日ごろの言葉遣いなどを意識することで人権を尊重する環境をつくる。	・命の大切さを職員、児童が常に意識して取り組む環境をさらに大いに進めてほしい。 ・個々の子どもの表情や素振りをよく観察して、サインを見逃さないように。そのためには先生の研修も深めてほしい。 ・いじめやハラスメントの定義がわかりにくくなってきている。学校だけでなく保護者も交えて考えてほしい。 ・小規模校ならではの取組をし、電話の際も名乗ると子どもを知っていただいていることが分かり安心できます。挨拶をしてくれる子も多く気持ちがよいです。
	◎いじめのない学校づくり ①学校が楽しいと回答できる児童 90%以上	「学校で楽しく過ごせているか。」に対して、児童は９０%、保護者は９６%が楽しく過ごせていると答えているが、「いじめがある」と答える児童もあり、いじめアンケートの分析や事象に合わせた対応、毎日の児童観察が必要である。	A		いじめアンケートや教育相談を活用し、個々の思いを聞き取る。気になる児童には積極的に声かけをし関係性を深めていく。道徳の授業の工夫をする。	
	◎いじめのない学校づくり ②場にあったあいさつがしっかりとできる 85%以上	「元気にあいさつができていますか」は、児童は９４%、保護者は８１%となり、児童については昨年度より良くなっている。朝のあいさつの徹底と集団下校時の一斉のあいさつを継続している。	B		児童会を中心にあいさつ運動を継続する。人権集会をして人権意識を高める。教職員の立哨の際も日頃から手本となるようなあいさつを意識的に実践する。	
健やかなからだづくりのための力点 ◎体を動かすこと・外遊びの奨励と環境整備 ◎体力づくりの推進 自らの健康に関心を持ち、健康な毎日を送るための保健指導を推進	◎児童の体力向上への意欲を高める授業づくりや運動環境の工夫 ①外遊びをする子　　85%以上　②運動が好きと答える児童　95%以上	「天気の良い日は外で元気に遊ぶ」は、児童８５%保護者８１%、「運動をすることが好きだ」と答えた児童７５%、保護者は７５%である。児童は冬の時季になってもよく外に出て運動や雪遊びをしている。また、苦手意識があっても縄跳び等に積極的に取り組んでいる。	A	A	個々に目標を持たせて体力づくりに取り組むようにする。校内放送等を活用し、引き続き手洗いやうがいなど感染予防に努めていく。	・「早寝・早起き・朝ごはん」をもとに、リズム感のある生活を目指せるよう保護者との連携を密にしてすすめてほしい。 ・体力づくりと共に自己の身体管理ができるように、学習と関連付けて進めてほしい。 ・コロナ禍により子どもたちも振り回され大変だったと思う。基本に戻って健康づくりに取り組んでほしい。外遊びの苦手な子の思いも大切に。 ・タブレットを使用しない時間を週１回取るなど習慣化してほしい。
	児童会企画（リレー大会、なわとび大会）やマラソンタイムで体力増進の機会を設定	リレー大会は練習もしっかりして取り組めた。マラソンの練習も目標を持って黙々と走る児童が多く見られる。なわとび練習は、冬場の体力づくりに役立っている。	A		休み時間に運動をすること以外の方法で心や気持ちを切り替える児童もいることを理解しつつ、学級遊びも企画して外遊びの楽しさを経験できる機会を持つ。	
	「早寝・早起き・朝ごはん」の取組をすすめ、コロナ対策を含め、健康で規則正しい生活を目指す。	「10時までに就寝」は保護者の８６%ができていると回答。児童は９６%になる。ただ、学年が上がるにつれ夜更かしの傾向が強い。また、場に応じたマスクの着用、手洗いの徹底等習慣化するよう指導を継続している。	B		タブレットの使用やゲームをする時間が長い児童もおり、ＰＴＡとともに「早寝早起き朝ごはん」の定着に粘り強く取り組んでいく。	
地域とともにある学校 ◎地域の教材の効果的活用と、地域人材からの学ぶ場を創出する 小中一貫教育の推進 ◎発達段階に応じた学習規範の統一 ◎小中教員による授業づくり ◎キャリア教育の推進	学校運営協議会 ・学校と地域がつながる機会や方法について協議し、地域に開かれた学校づくりに努める。	学校運営協議会では、地域連携カリキュラムの作成から、地域と学校のつながる機会について話し合いを深めた。新しいボランティアさんも募集の窓口を作ることで、ミシンや除草、左義長、焼き芋にボランティアさんを呼ぶことができ児童の学習支援ができた。	A	B	地域人材を生かした活動については、学校地域連携カリキュラムに位置付け計画的に実行する。ボランティアさんの連絡調整の窓口を明確にして、教育活動の深化を目指す。	・地域の特色を学ぶ機会をカリキュラムに導入されたことはすばらしいことと評価できる。 ・ボランティアの参加計画も立てた具体化を期待する。 ・ボランティアが学校に入っていけるようになりよかったと思う。今後はボランティアと保護者の連携も密にしてほしい。しかし、広げすぎると安全面での不安が出ることも考慮してほしい。
	小中合同による授業づくり ・共同授業研究を機会として、学区内の児童生徒の学力状況や学習課題にせまる。 ・将来を見据えたキャリアパスポートの有効活用	小中一貫教育の日を今津中学校区内で設定し、お互いの様子を参観し合う公開授業ができた。また、次年度に向けて小中一貫教育で取り組む地域活動について具体的な内容の検討会が小中合同でできた。	B		小中一貫教育の日に実施した部会の内容を共有し、目指す子ども像を明確にする。地域の活動を小中で連携して行う機会を増やす。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・少子高齢化が進む地域において、また、コロナ禍による制限のある中で、保護者や地域連携をふまえた様々な取組の成果が子どもの元気な笑顔につながっていると評価できる。今後もこの取組が大いに成果につながるよう、工夫を重ねていただきたい。 ・「友達と仲よく過ごせていますか」に、児童の97%が○をしていることは評価できる。来年度に向けてはどの課題をAにできるのかを絞って全体で取り組んでほしい。 ・課題や問題点が出てくる中、学校の細やかな対応にとても感謝している。すべての課題がクリアしているわけではないが今年度の目標はクリアしていると考える。今後細部にも目を向け、なぜしなければならないのかが、子どもにもわかるように指導してほしい。 ・来年度は、学校とボランティアだけではなく、保護者も交えた取組に期待する。 ・小規模校の良さが活かされている。地域連携は安全面や個人情報の管理など考慮し、可能な限り広げてほしい。また、ICT活用のリテラシーやモラルの指導を継続してほしい。	B	・小中一貫のつながりを意識しながら、保護者・地域と共に学校地域連携カリキュラムを実証し、より実効的な取組になるよう検証を重ねていく。 ・ICT活用については、講師を招聘するなどして、子ども向けの研修を継続し、安全に使いこなす姿勢を育てる。さらに、PTAと連携して、家庭でも使用時間や使い方について親子で相談して決めることにより、より良い使用の仕方と課題を明らかにし、ICT活用リテラシーを身につけるようにする。 ・学級通信などで、ICTを活用する意図を伝え、児童が学ぶツールとしてタブレットを使えるように働きかける。 ・毎日の生活リズムが整うように、PTAにも働きかけ「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を継続し、親子で振り返りができるようにする。 ・朝の読み聞かせや朝読書、教師による読み聞かせなどから、読書の楽しさを伝え、家庭での読書の習慣の定着を進める。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式1）

令和4年度　学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
ふるさとに愛着をもち 豊かな心と社会性を育み 夢の実現を図る生徒の育成 【校訓】　真理の探究・正義の実践・平和の愛好	○学力の向上…C ・家庭学習を1日1時間以上している。（生徒53%） ・家庭学習の取組が定着している。（教職員13%） ○豊かな心づくり…A ・道徳の授業で生き方についてしっかり考えた。（生徒88%） ・道徳の授業を重視し、充実に努めた。（教職員94%） ○健康な心身の育成…B ・部活動を頑張った。（生徒90%） ・支援が必要な生徒の情報を共有し支援の充実を図った。（教職員100%） ○地域連携…C ・PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している（保護者79%） ・学校と地域が連携を取り、子どもの教育を進めている。（保護者81%）	○積極的に学ぶ姿勢を育成する ○豊かな心を育む体験活動を実施する ○学友会活動を充実させ、自治的・自律的な集団を育成する ○正しい判断ができる生徒、規範意識が高い生徒を育成する ○保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりを進める ○教師の授業力を向上させる ○生徒に寄り添い率先垂範する教師集団づくり

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
学力向上・学習指導	①「楽しい、わかる、自信がもてる」授業が行われている。	生徒アンケートで「授業を楽しみにしている」と答えた生徒→69% 保護者評価で「子どもは、授業での学習を楽しみにしている様子がある」と答えた保護者→65% 教職員評価で「生徒が授業や学習をわかる、できる、楽しめるような工夫をした」という教職員→87%	C	B	今年度から、校内研究で生徒とともにつくる授業改善を行っているが、まだまだ不十分である。生徒の思いにより添いながら研修を積んでいきたい。	授業を参観した際に、子どもたちが興味関心をもって活動に取り組む姿を見ることができた。特に、活動によって個々に取り組む子や、2，3人で話し合って取り組む子たちなど、個に応じて活動している様子が見られた。相談しやすい雰囲気があると感じた。先生たちの配慮や工夫が見られた。今後も学習意欲が高まる授業や支援をお願いしたい。
	②学習面において教員が子どもを支援している。	生徒アンケートで「先生は、授業を工夫していると思う」と答えた生徒→89% 保護者評価で「教員は、学習面において子どもを支援している様子がある」と答えた保護者→71% 教職員評価で「学習面において、子どもを励ましたり、支援したりする言動ができた」と答えた教職員→93%	B		授業を工夫しているところは生徒にも伝わっている様子だが、学ぶ力向上に結びつけるため、全教職員が統一した取組の実施が必要である。	
	③生徒は学習内容を理解できるように頑張っている。	生徒アンケートで「学習内容を理解できるように頑張っている」と答えた生徒→89% 保護者評価で「子どもは、学習内容を理解できるように頑張っている」と答えた保護者→81% 教職員評価で「生徒が学習を頑張れるよう、見通しをもたせる工夫をした」と答えた教職員→93%	B		生徒の努力を認めながら、得た知識理解を実際に運用できるような学習活動を取り入れ、自信につなげていきたい。	
	④朝読書、朝学習が徹底されている。	生徒アンケートで「朝学習・朝読書にしっかり取り組めている」と答えた生徒→81% 教職員評価で「朝読書・朝学習の取組が定着するように、環境づくりや支援を行っている」と答えた教職員→80%	B		朝の会の運営と朝読書・朝学習の実態等について、定期的に点検をする。	
豊かな心づくり	⑤道徳の授業の充実を図る。	生徒アンケートで「道徳の授業では自分のことや生き方について考えた」と答えた生徒→85% 教職員評価で「道徳の授業を重視し、他の教員と相談しながら、活動の充実に努めた」と答えた教職員→80%	A	B	考え、議論する道徳の授業のさらなる推進に向けて、発問の構成や自己内対話などを中心に、引き続き授業実践を積み上げていく。	地域や校舎内でも中学生は自然に挨拶ができていると感じている。地域からも中学生があいさつをしてくれると元気になるという声もある。ありがとうという感謝の気持ちも素直に表現できるといい。学校行事が少しずつできるようになってよかった。今津中サポーター会も支援していきたい。 「自分に自信がもてるよいところがある」というのはなかなか自分では評価しにくいだろう。別の表現に変えるべきだと思う。
	⑥集団を育成する行事を実施する。	生徒アンケートで「学校行事では、周りの人のことを考え、行事の成功のために行動できた」と答えた生徒→91% 保護者評価で「学校行事では、子どもが成長している様子が感じられた」と答えた保護者→90% 教職員評価で「学校行事では、学級や学年、学校の集団力を高められるよう、工夫や支援ができた」と答えた教職員→80%	A		少しずつ行事が行われるようになってきたため、さらに生徒の主体性や充実感を育めるような行事を工夫していきたい。	
	⑦学友会活動を活性化する。	生徒アンケートで「学友会活動は主体的または協力的に行われている」と答えた生徒→75% 教職員評価で「学友会活動が、執行部を中心にして、主体的な取組となるよう、相談・指導を行った」と答えた教職員→80%	B		行事だけでなく、日常的な委員会活動の活性化に向けて、生徒が自分事として学友会活動に積極的に取り組めるような工夫をしていきたい。	
	⑧挨拶がしっかりできている。	生徒アンケートで「挨拶をしっかりと行えている」と答えた生徒→93% 教職員評価で「生徒たちが挨拶をしっかりと伝えるよう、率先して挨拶をした」と答えた教職員→87%	A		学校全体に気持ちのよい挨拶を交わす雰囲気が感じられる。地域からもお褒めの言葉をいただいている。	
	⑨自分にはよいところがあると感じる。	生徒アンケートで「自分に自信のもてるよいところがある」と答えた生徒→66% 教職員評価で「生徒の個性を認め、よさを伝えることができた」と答えた教職員→93%	C		行事だけでなく、日常的な委員会活動の活性化に向けて、生徒が自分事として学友会活動に積極的に取り組めるような工夫をしていきたい。	
健康な心身の育成	⑨生徒が学校が楽しいという環境をつくる。	生徒アンケートで「学校は楽しい」と答えた生徒→81% 保護者評価で「子どもは家では学校が楽しみにしている様子がある」と答えた保護者→71% 教職員評価で「生徒が安心して学校生活を送れるよう、生徒どうしをつなげる工夫をした」と答えた教職員→87%	B	B	丁寧な生徒観察に努めて、その情報を共有することにより、さらに個々の生徒の気持ちに寄り添った対応を行っていく。	学校行事を楽しんでいる様子がうかがえる。コロナ禍であるが、工夫した活動を行っていたことに感謝している。行事や活動を通して、仲間づくりや人との関わり方を学んでいってほしい。今後も先生方のひとり一人生徒に寄り添った指導や支援に期待している。
	⑩生徒が清掃活動をしっかりできるようにする。	生徒アンケートで「清掃活動を頑張っている」と答えた生徒→91% 教職員評価で「生徒が清掃活動を頑張れるよう役割分担や明確な指示、主体性をもたせる工夫をした」と答えた教職員→93%	A		生徒の奉仕の精神や感謝の気持ち等を育む価値のある活動の一つとして大切にし、その活動の質を高める。校舎周辺の清掃活動も行いたい。	
	⑪学校・学年行事を楽しめる生徒を90%以上にする。	生徒アンケートで「学校行事や部活動などに進んで参加し、楽しめている」と答えた生徒→92% 保護者評価で「子どもは学校行事や部活動などに進んで参加し、楽しめている様子がある」と答えた保護者→87% 教職員評価で「生徒は学校行事や部活動などに進んで参加するよう、声かけや支援を行った」と答えた教職員→87%	A		3年ぶりに様々な学校行事を行えたこともあり、生徒はいきいきと活動に取り組んでいた。さらに効果的な活動を自主的に考えさせたい。	
	⑫困ったときに先生に相談できそうな環境である。	生徒アンケートで「困ったときは、先生に相談できそうな環境である」と答えた生徒→78% 保護者評価で「学校には、いろいろと相談しやすい雰囲気がある」と答えた保護者→63% 教職員評価で「生徒の様子の変化がないかを注視し、支援の声かけを行った」と答えた教職員→93%	B		個々に相談をしてくる生徒も多いが、まだまだ相談しやすい雰囲気であるとは言えない。さらに生徒に寄り添った教育支援を行いたい。	
地域連携 教職員の資質向上	⑬PTA活動や地域の団体との連携を図り、活動を充実させる。	保護者評価で「PTA活動は、保護者によく内容が伝わり充実している」と答えた保護者→60% 教職員評価で「地域の生徒の育成を目指して、サポーター会や地域の団体と連携するように努めた」と答えた教職員→60%	C	B	コロナ禍でもあり、まだまだPTA活動やサポーター会活動には制限があった。積極的に情報を発信しながら、少しずつ活動の幅を広げたい。	今年度もPTA活動については制限もあり、充実させることは難しかったと思われる。来年度はPTA活動もサポーター会も少しずつ学校の教育活動に支援できる体制をとっていきたい。 若手教員が多いなか、校内での研修を通して人材育成に努力を続けてほしい。
	⑭地域とともにある学校づくりを進める。	保護者評価で「学校と家庭が連携をとり、子どもの教育を進めている」と答えた保護者→64% 教職員評価で「自校の教職員だけでなく、地域の大人が子どもの支援に関わろうとする体制であった」と答えた教職員→73%	B		新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、授業や行事において家庭や地域の方と協働する機会を設定していく。	
	⑮HPや通信等を通して学校での生徒の様子や取組を発信する。	保護者評価で「学校や学級からの通信や案内は、適切に配布されている」と答えた保護者→87% 公民館等において、学校の様子や取組を掲示している。	B		HP、通信等で学校の様子を情報発信したり、保護者アンケートを通して様々なの思いを把握したりする。	
	⑯校内研究・OJTの推進、研修の充実を図る。	教職員評価で「日頃から職員どうしで連絡や相談を行い、校内OJTを推進した」と答えた教職員→80% 教職員評価で「学校の課題の解決に向けた研修や資質の向上のための校内研修は充実していた」と答えた教職員→80%	B		若手教員が多いため、経験豊富な教員と互いに授業を参観したりなどOJTを通して研修を充実させたい。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○生徒の様子から ・学校行事や授業などを参観して、生徒も先生方も楽しんで取り組めており、たいへん落ち着いた様子であると感じた。仲間と協力しながら活動する姿をみて、この調子で頑張ってほしいと願う。地域でも学校でもしっかりと挨拶ができており、今後も続けてほしい。 ○学力向上について ・地域性もあり、家庭学習を充実させていくことに難しさがある。どうしたら子どもの学ぶ意欲を向上させることができるのか。様々な取組を行っているが、やはり授業が「楽しい・わかる・できる」と感じさせることが大切ではないか。子どもたちがやりたいと思えるような様々な出会いを学校にも期待 したい。 ○家庭や地域において ・子どもたちが家庭で保護者等と学校や自分のことについてどのくらい話をしているのかが気になる。今後、地域においても小中学生との関わりを増やし、地域の特性を活かしながら子どもたちを育てていきたい。 ◇アンケートをとる際は、生徒も保護者も教職員もそれぞれがアンケート結果から自信をもてるような質問の仕方を工夫していく必要があると感じた。	B	◎新しい学校行事の在り方に向けて ・学校行事を通して、生徒が楽しく活動し目的を達成する様子がうかがえた。コロナ禍のなかで行事の内容やあり方を再検討する機会に触れ、最も適した状況で学校行事を精選し、あたりまえにとらわれず新しい学校行事の在り方を考え実行していきたい。 ◎学力向上に向けて ・基礎基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成、「主体的・対話的で深い学び」などの実現に向けて生徒とともにつくる授業改善を図りたい。 ・楽しい授業を展開し、教師が個々の生徒に寄り添いながら生徒に自己肯定感をもたせ、生徒自らが主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせたい。 ◎「地域とともにある学校」の推進に向けて ・PTAやサポーター会などとの連携を強め、教育活動に関わっていただける気運を高めていきたい。 ・生徒が地域で活動できる、地域で生きる場を見つけ、地域の活性化に努めていきたい。 ・地域学校協働活動において、熟議をしながら教育カリキュラムの編成を行いたい。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式1）

令和4年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木東小学校

学校教育目標		昨年度の評価概要		中期的目標	
学校教育目標	**『心身ともにたくましく、 ふる里を愛する 人間性豊かな　子どもの育成』** なかよく　たっしゃで　きばる子 (共生)　(自立)　(創造) 徳　体　知	昨年度の評価概要	学校関係者評価　B 少人数であることが、多くの体験ができる等の良いところもたくさんあると思うが、反面、もう一歩の努力やチャレンジを諦めたり、もう一言を発しようとしない、しなくても次に進んでいくという場面も見受けられる。子どもの心が動くような働きかけを今後も学校や地域でできるとよいと思う。新型コロナに対する対応が大変な中で、学校教育活動が適切に行われている。地域住民も、関わっていけるとよいと思われる。朽木の良さを児童がより感じられる教育活動を期待したい。オグラス登山や朽木一周サイクリング等は朽木ならではの活動であり、準備を徹底して実施してほしい。1人1台のタブレットが配備され、子どもたちも使いこなしている。学年の発達段階に合わせて、より課題追究の自主学習にできるとよい。	中期的目標	1. 地域とともにある学校を目指す ＋『夢』『志』をもって学び合う学校づくりを推進する ・中学校区保幼小中一貫教育9年目　・コミュニティースクール5年目 2. 授業改善・指導力を向上し、新学習指導要領につなぐ ・道徳・外国語・ICT機器活用・学び合いに重点を置いた授業改善・授業研究 ・地区でキャリア教育に取り組み、「くっつき愛シート」を全学年つないで実施 3. 「気づき・考え・行動する」子に「伝える」場を与えて、プレゼン力の伸長を促進 （コミュニケーション力の育成）

	評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
なかよく（徳）	**①仲間・集団づくり** ・心に響く道徳授業 ・いじめを許さない学校づくり ・共感的人間関係の育成	保護者への道徳授業公開　（各学年 1回以上／年間）　水曜1校時または2校時を「道徳」の時間として、計画通り進める	コロナ禍で工夫しながら学習参観を実施し、道徳参観は12月に1回実施。 各学年のカリキュラムに基づき道徳授業を展開。（通年 毎水曜日）	B	A	今後も道徳授業を全学年水曜の午前の時間割に位置付けて実施することで、時数確保と授業改善の機運を高める。道徳の保護者参観は継続。ICT機器や外部人材を活用した道徳も模索していく。児童発表の場を複数回持てるよう工夫する。	・道徳は、多様な考え方・生き方に出会うことで、自分自身を見つめ直すことにつなげることが大切だと考える。少人数学年では、いろいろな手立てを工夫してほしい。 ・いじめ防止は、小さな事柄でも、気づいた時に、情報共有するという基本姿勢の確認が最も大切だと思う。 ・まだまだコロナの影響がある中、校内外共にコロナ禍における最大限の学びや体験ができたと思う。 ・特にサイクリングや宿泊ありの修学旅行は、がまんを重ねてきた子どもたちにとって、一生の思い出になったと思う。 ・福祉学習については、現行の学年の内容と共に、学年に応じて、人との違いを認め合える機会があると、更に高まるのではないかと思います。保護者や祖父母もその事にを共有できる機会があるとよいですね。
		児童集会での個人発表機会　（1回／年間）	一堂に会しての児童集会は実施していないが、始業式・終業式後の「みんなの広場」（Zoomにて実施）で年間1回の個人発表実施。（100%）	A			
	②共生する力・生き方学習継続 ・特色ある地域学習の継承発展 ・森林・田んぼ・自然体験活動 ・他校との交流活動の実施	(低学年)稚鮎放流・町探検 (中学年)森林学習 ・どんぐりプロジェクト (高学年)朽木サイクリング・米作り・どんぐりプロジェクト	各種団体・地域連携や保護者ボランティアの協力を得て地域学習を実施。「朽木の自然の良さを知ることができました」（児童100%）	A		地域の自然や地域人材との連携により、朽木ならではの学習を継続し、さらに積み上げていく。学習発表の場を3学期に設定することとし、学習成果を参観者に伝え、児童のプレゼン能力・発表力を伸ばす場とする。	
		キャリア教育に繋ぐ学習発表機会 （1回／年間 3学期実施）	感染リスクを避けるため、全校が一堂に会することはできなかったが、各学年1年間の学びの成果を保護者の前で発表。（2/10学校開放日）	A			
	③特別支援教育・福祉教育推進 ・個別支援計画による指導相談 ・保護者・専門的関係機関連携 ・障がい児(者)理解教育推進	福祉教育計画的実施(社協連携)　（各学年1単元／年間）	社会福祉協議会と連携、各学年の発達段階に応じた学習を実施。（100%） 1年視覚障害　2・3年聴覚障害 4・6年高齢者 5年ユニバーサルデザイン	A		「学校いじめ防止基本方針」の見直し・改訂を随時実施し、実効性のある取組とする。社協と連携した福祉教育は各学年の内容を継続していく。人権教育を中心にいじめ防止に向けた意識を更に高めていく。	
		毎月「校内人権の日」の取組実施 （100%） 県の人権学習資料の活用（全学年）	人権を大切にする学級目標を立て、取組後の振り返りも実施。（100%） 「人にいじわるや仲間はずれをしないようにしています」（児童98%）	B			
たっしゃで（体）	**④命を大事にする環境づくり** ・命の学習・安全教育取組 ・教育相談週間計画実施 ・SOSｱﾝｹｰﾄ等調査結果の活用	『命の授業』2・4・6年（1回／年） 避難訓練・引き渡し訓練（4回／年）	外部講師を招いて発達段階に応じた「命の授業」を計画的に実施。非常時の引き渡し訓練は、隔年実施のため次年度保幼小中合同で実施予定。	A	B	今後も、校外活動における安全マニュアルに基いた安全対策を徹底して教育活動を行う。次年度は合同避難訓練を実施する。教育相談では、各種調査等に即応した面談・対応を実施し、関係課機関とも連携していく。	・ノーメディアウィークの取組は、継続して調査・分析・フィードバックされており、今後も続けていくべきだと思う。 ・スマホの使用率は、今後も高くなっていくと思われ、児童・保護者共に研修を毎年されることが必要だと思う。 ・ノーメディアウィークは、かなり定着しているが、一方でマンネリ化も見られ、ノーメディアウィークが終わると元に戻るという現状もあるため、改善は必要である。 ・運動会は、子どもたちのがんばりがよく伝わった。来年度は、より制約のない形にしてほしい。
		「学校が楽しい」と思う児童（100%） アンケート調査結果をもとに指導対応、ケース会議（随時）	「学校は楽しい」（児童92%） いじめアンケート等の活用や教育相談週間・ケース会議の取組により、児童個々に応じた受け止めや対応ができた。	B			
	⑤生活習慣確立・食育推進 ・『NO!メディアウィーク』 ・『早寝 早起き 朝ごはん』 ・保健学習・食育指導の充実	『NO!メディアウィーク』の 工夫実施・中学校区取組（100%）	10年以上の取組として定着。（毎学期実施100%）2年前から保幼小中一貫教育の一環として中学校区全体で取組を進めている。	A		今後も中学校定期考査の時期と合わせたノーメディアウィークの取組とする。今年度の保幼小中のアンケートを生かして内容を検討。栄養教諭による食育指導は、学活、保健、家庭科等の一環として今後も継続。	
		栄養教諭による食育指導　（各学年 100%） 朝食摂取率（100%）	食育指導は栄養教諭の指導により全学年で実施。（100%）6年生は養護教諭も入ってのTT指導。朝食摂取率（毎日食べている94%だいたい食べている6%）	A			
	⑥体力向上策の継続 ・感染症対策に配慮した工夫 ・苦手種目克服・技能習得 ・みんな遊び・外遊びの奨励	感染症対策に配慮した体育の実施、運動会等の体育的行事の開催	運動会は、6月の平日に小学校単独開催。感染リスクを避けるための時間短縮や種目の工夫で実施。	B		次年度の運動会も小中単独で開催予定（小中同一日午前：小 午後：中）。午後は中学校の体育祭を参観できるようにする。日常の体育科や体育行事を通して、運動に親しむきっかけづくりをしていく。	
		体育的行事の内容工夫 鉄棒・一輪車・縄跳び・竹馬遊び等の技を増やす児童（100%）	運動会やペースランニング走などの体育行事をきっかけに、体力づくりに積極的に取り組む児童が多かった。（児童96%）	B			
きばる（知）	**⑦学力向上のための授業改善** ・「学び合い」授業の追究 ・課題解決的な学習の確立 ・高学年一部教科担任制	「授業が楽しい」「勉強がわかる」児童（100%） BUT小中合同学び合い学習実施（100%）	「勉強は楽しい」（児童88%）　「勉強はよくわかる」（児童100%） BUT小中合同学び合い学習実施（年間3回実施100%）	B	B	少人数の良さを生かすとともに、ICT機器の効果的活用による個別最適化の授業をめざす。BUTの取組継続。各種調査結果を分析し、見えてきた課題の解決に向け授業研究会を実施し、授業改善を行っていく。	・課題解決的な学習を展開するためには、児童の課題意識の喚起が最も大切である。家庭学習や自主学習での児童・保護者評価では、その点でもの足りなさがある。特に高学年での自主学習における新しい視点を見つけられるような取組を期待する。 ・タブレットだけでなく、MESHやBOLTなども使いながら、自ら考えるための道具として子どもたちがICT機器を使いこなしている姿が素晴らしいと思う。 ・基本的な作文能力を伸ばす宿題や取組が少ないので増やしてほしい。
		学力調査・確認テスト結果活用 PDCAによる学ぶ力向上策の推進（毎学期）	6年生全国学力調査は国語・算数・理科ともに高い正答率。「学びの基礎チャレンジ」の実施結果と併せて、学ぶ力向上対策に生かしている。	A			
	⑧学びの保障に向けた取組 ・ICT機器の有効活用 ・外国語活動・道徳指導の工夫 ・朝学習の充実（漢検等）	タブレット端末等のICT機器を活用した授業　（毎日） 朽木東小漢字検定の実施・朝読書の定着	タブレット一人1台端末配置の環境を生かして、毎日の学習活動で効果的に活用（100%）。漢字検定（毎週火曜日）や朝読書も定着。	A		児童のタブレット端末活用力も向上。市内先進校としてICT機器タブレット等の活用に向け、更に実践を蓄積する。漢字検定は、学習意欲の向上につながり、成果も出てきているので継続。	
		外国語活動・考え、議論する道徳授業（毎週水曜日実施）の充実	ALTとの外国語科・外国語活動は内容が充実。「道徳授業などで、相手の気持ちを考える、ルールを守るなどを一生懸命考えました」（児童92%）	B			
	⑨学習規律確立・学習習慣定着 ・家庭学習「10分×学年」以上 ・朝読書 朝学習 補充学習 ・図書貸出冊数増(図書ｻﾛﾝ活用)	家庭学習時間10分～15分×学年　　（95%以上）	全学年タブレット端末を毎日持ち帰って家庭学習でも活用。 「宿題や自主学習に進んで取り組んでいます」（児童86%）	B		タブレット端末の持ち帰りに伴い、従来の家庭学習の内容も改善していく必要がある。読み聞かせや図書サロンの本の貸出は、児童も楽しみにしている。今後さらに読書環境の充実や家庭への啓発を行ってく。	
		朝読書の実施（週3日） 図書貸し出しの利用（全学年） ボランティアによる「朝の読み語り」の実施（1～3年）	コロナで中断していた「朝の読み語り」は年度当初から実施。 「学校や家で進んで本を読みました」（児童78% ）	B			
チーム学校	**⑩地域とともに・繋がり響きあう学校** ・コミュニティースクール5年目 ・学校情報提供・地域連携の推進 ・保幼小中の連携	学校運営協議会・地域学校協働活動との一体化 学校地域連携カリキュラムの作成 学校だより（月1回）、保健だより（月1回）、結の会通信（随時） メール配信（毎週土曜日）	学運協でつけたい力について熟議を行い小中一貫した学校地域連携カリキュラムを作成できた。 協働活動は地区推進員のコーディネートにより活動を工夫して実施。 各種広報については目標回数をクリアしながら発行。	A	A	熟議を増やして、学校や地域の課題を関係者で共通理解し、その解決に向けての方向性を見出していく。今後子どもと地域の方が語り合える場を設定する。推進員と協力して地域学校協働活動をさらに推進していきたい。	・熟議の中で共有・合議できたことは、すぐ実践して、振り返りつつ前進できていた。 ・「すみまち」との協力を強化して、より幅広く地域の方の力をお借りできると良いと思う。

	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者評価	○基礎学力は定着しており、学校としての努力が実を結んでいると思う。 ○地域と連携して体験学習を積み重ねていく事が大切だと感じる。それを学校地域連携カリキュラムとしてまとめられたことは良かったと思うが、そのカリキュラムを生きたものにしていくためには、年度ごとの振り返りが大事だと思う。 ○今以上の少人数になった時の方向性を模索する時期に来ているように思う。 ○コロナ禍も3年目となり、第7波や第8波もあった中、子どもたちの「今しかできない」学びや体験をできるだけ守りたいという学校や先生方の思いがよく伝わった一年だったと思います。特にサイクリングは、実施が危ぶまれた中、先生方の努力や、保護者や地域の方の協力、子どもたちのがんばり、すべてが合わさって行うことができ、保護者としても、子どもたちの良い笑顔に本当に感動しました。今後、児童数が減少していくことは確実ですが、少人数だからこそ、自然豊かな朽木だからこそできる学びや体験をこれからも続けていただきたいと思います。 ○いろんなことに丁寧に、子どもたちに関わっていてくださる様子を伺い、大変有り難いことだと思っています。子どもの数がどんどん減っていく中、高校やその他の多人数の中に入った時に、何か自信が持てるものがあれば良いなあと思います。少人数だからこそ、そんな一人ひとりにつけたい力と向き合えるのではないかと思います。	B	・近年の児童数減少により、職員体制にも影響が出ており、今後、一部学年で複式学級編成となることからも、状況はますます厳しくなっていく。3年間のコロナ禍の中で工夫しながら教育活動を行ってきた経験を生かし、行事の厳選や見直しを行い、「子どもの学び」を最優先にした教育活動を行っていく。 ・今後も子どもたちにつけたい力について熟議しながら、学校運営協議会や地域学校協働活動を軸に、保護者や地域との連携を深め、理解、協力を得ながら、外部の力を取り入れた教育活動を行っていく。 ・熟議を重ねて編成した保幼小中一貫した「学校地域連携カリキュラム」を円滑に実施するとともに、常に検証、見直しを行っていく。保幼小中一貫教育の取組ともリンクさせ、情報発信を積極的に行い、「結の会」を中心とした地域学校協働活動のさらなる充実を目指す。 ・朽木独自の保幼小中一貫教育を継承・発展させていく。ノーメディアウイークの取組を改善しながら継続していく。 ・市内ICT活用先進校として、タブレット端末を有効活用した授業実践をさらに積み上げていく。 ・朽木地区の自然や文化を生かした教育活動を大切に継承していく。そのことで「ふるさと朽木」を大切にする心情を育んでいく。 ・少人数の環境下で手厚くきめ細かく指導できる良さを生かして、児童一人ひとりの思いに寄り添いながら、相談や支援をしていく。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和4年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木西小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
針畑を愛し 心身ともにたくましく生きる 心豊かな子どもの育成 ○明るく健康な子どもの育成 ○深く考えやりぬく子どもの育成 ○心豊かな子どもの育成	・評定が前年度より良くなっている項目が多く、評価できる。 ・コロナ禍の中で地域との交流の機会が十分とれない中でよくやっている。 ・文化祭等での子どもたちの活躍の様子から、学校の指導の適切さを感じる。 ・保護者や教職員間の情報共有やコミュニケーションが少ない。学校、保護者、地域住民とのコミュニケーションを更に重視し、本当の「チーム西小」にしていくこと。 ・少人数なので「いじめ」はないと思うが、反面、各自の個性が強く出て、協調性に欠ける気がする。 ・特に親や先生に対する言葉遣いがよくない。	針畑で学び取った力を生かして自らの志を達成するとともに、学んだことを地域や社会のために役立てようと行動する人の育成

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○ 明るく健康な子どもの育成 １．適切な言葉遣いの習慣化 ２．体力の向上 ３．安全・健康への自己管理 ４．自主的・実践的態度の育成 ５．防災・安全教育の推進	①ＴＰＯに応じたあいさつ、言葉遣いの定着を図る。【毎学期末自己評価】	あいさつにも言葉遣いにも課題が見られる一方で、登下校時や来客時には明るくあいさつができていた。	B	B	ＴＰＯに応じた言葉遣いができるよう、適時的に理由付けをしながら指導をしていく。	・文化祭等の様子を見ると、５人の児童が明るくのびのびと過ごしていると思う。 ・先生と話す子どもの言葉遣いが気になる。 ・指導の一貫だと思うが、先生が児童をすべて「さん」付で呼んでいるようだが、男女で使い分けすることが自然ではないか。 ・子どもが、地域の方々を名字でなく「〇〇さん」と名前で呼んでいるのは親しみを感じ、良いことだと思う。
	②長休みや昼休みを活用した全校での運動遊びを推奨する。【毎日】	子ども同士で相談し、全員で卓球、バドミントン、ドッチボールなどの運動遊びをしている。	A		苦手な種目にも挑戦できるような支援として、時には教師も一緒に遊ぶ。	
	③言葉遣い・生活リズム定着に向けた指導を徹底する。【毎日】	言葉遣いは①と同様。歯磨きなどの生活習慣が図れていない児童が多い。	B		一生懸命歯磨きをしたり、声をかけたりしている児童の後押しをしながら教師も意識して指導する。	
	④「自学自習」の実践を進める。【毎学期末自己評価】	校内研究では「自学自習」も取り入れた授業づくりを進めることができた。児童の実態に合わせ、一人ひとりが課題に向かう時間の確保に努めた。	B		複式学級の授業を想定しての「自学自習」だが、子に応じた指導としてどの学級でも大切にしていく。	
	⑤保護者や地域・関係機関等との連携による実践的な防災・安全学習を実施する。【年間4回程度】<地域防災福祉組との連携>	地域（防災福祉組）・保護者、消防・学校合同の防災訓練ができた。地域の方々は防災意識が高く、協力的である。	A		引き続き、年１回は合同の防災訓練を行っていく。	
○ 深く考えやりぬく子どもの育成 １．自分の思いを豊かに表現し、深く考える指導の工夫 ２．学習意欲の向上と基礎・基本の徹底 ３．家庭学習の工夫と習慣化 ４．体験を通した学びの充実 ５．保幼小中一貫教育での学びの充実 ６．外国語教育の充実 ７．読書活動の推進	①極少人数の良さを生かした授業改善(自学自習）と個に応じた指導の工夫をする。（年間3回の授業研究会の実施）	全学級による公開授業・授業研究会ができ、児童一人ひとりの特性に合わせた発問の仕方や資料の提示などの工夫ができた。	A	A	教師の「待つ姿勢」を大切にし、児童がじっくり考えたり取り組んだりする授業を心がける。	・少人数であることが逆にモチベーションを高め、向上心がある気がする。 ・外国語の指導や読書が充実していると思う。 ・ICTを使った授業も技術として時には役立つかもしれないが、西小学校の人数では果たしてどうか。 ・地域訪問や地域の行事への参加を含め、地域の行事には深い意味合いがあるので、先輩古老から学ぶことを大切にしてほしい。
	②効果的なＩＣＴの活用により、「授業が楽しい、よくわかる」を児童が実感する授業を目指す。児童の評価【100%】	教師もＩＣＴの活用方法の研修をすることで、ＩＣＴを使って学習する機会が増えたが、元々少人数なので必要性がない場面もあった。	B		紙と鉛筆で進められる学習も大切にしながら、効果的な活用方法を模索する。	
	③ＩＣＴを活用した家庭学習の工夫と習慣化を図る。【家庭学習実行率100%】	家庭学習には取り組めているが、ＩＣＴを使っての家庭学習にはなっていない。	C		家庭学習でのICT機器の活用の必要性を検討してながら利用していく。	
	④地域、自然、文化を生かした体験学習に取り組む。【年間7回以上】	登山や地域訪問、へしこ漬け、栃の実利用など、この地域でなければできない実践ができた。地域の催しにも積極的に参加できた。	A		引き続き、地域との協働活動を推進しながら、地域の学校としての在り方を考え実践していく。	
	⑤東小学校での交流学習・ＢＵＴ・遠隔授業交流・遠隔合同学習や中学校教員による教科担任制授業の実施を進める。【年間複数回実施】	東小学校（保健行事や授業）や朽木中学校（部活体験、BUT）との交流を数回実施できたが、遠隔合同学習は実施できなかった。	B		多様な意見を聞きあう授業ができるよう積極的に遠隔授業を取り入れる。往復時間の節約も考える。	
	⑥コミュニケーション能力の素地を培う外国語指導助手とのＴＴ授業を実施する。【低10時間・中35時間・高70時間】	中高学年はもちろん、低学年も年間３５時間のペースで授業ができた。	A		担任主導での授業の在り方も模索していく。	
	⑦読書の質の向上を図る。　・朝読の実施、家読の奨励、新聞記事の活用　・「お気に入りの１冊」発表会【毎学期１回】　・読書量の増加【月：(低10冊)、中5冊、高3冊以上】	読書量はどの学年も目標を達成できた。お気に入りの本の紹介も学期に1回のペースででき、お話サークルの方にも聞いてもらう活動もできた。	A		図書サロンとの連携により、毎月図書を入れ替えることを続け、質の高い選書ができるようにする。	
○ 心豊かな子どもの育成 １．人に「感謝」できる心の育成 ２．いじめを許さない学校づくり ３．考えを深め、心に響く道徳教育の推進 ４．きめ細かな教育相談の実施 ５．系統立てたキャリア教育の推進 ６．マイスクール事業の推進	①人に感謝し、感謝されることを喜びと感じる心の育成と仲間づくりを進める。【毎学期末自己評価】	「ありがとう」は素直に言えているが、自分以外に対する周囲の行為に関して、感謝の心を持てるとよい。	B	B	感謝の心を表現するには練習が必要。心情面でのことなので難しいが、常に大人も見本を見せる。	・少人数の児童同士では、多少乱暴な言葉遣いがあってもいじめにつながるものではないと思う。感謝の心やその表現は周りの大人や親が行動で示すことが大事だと思う。 ・先輩を敬う、友達を理解する、謙虚な気持ちで誰とでも接することは大変重要だが、実行することが難しい。まず大人が見本を見せなければならない。 ・西小学校の和太鼓の継続は一人でも可能かもしれないが、先生方の指導が大変になる。
	②児童会によるいじめ防止の取組を実施する。【毎学期１回】	生活のめあてを決める中で、仲良く学校生活を送るために何が大切か考えることができた。ただ、日常会話でいじめにつながる言葉が使われることが気になる。	B		生活目標を掲示し、貼りためていくことで、常に意識させる。児童同士の話合いも大切にする。	
	③毎週水曜日２校時は全校道徳の時間とする。地域の人や保護者が参画する道徳授業を実施する。【年間１回】	保護者や地域の方を交えての道徳の授業ができ、多様な考えに触れることができた。	A		次年度も継続して参観日の案内を行い、地域の方の思いや経験を聞く機会を設ける。	
	④きめ細かな教育相談の実施と全職員による情報共有・対応に努める。【随時】	朝の打合せや職員会議を通して教員間の情報交換や共有ができた。少人数なので5人の児童のことがよく分かるようだが、担任以外の児童と話す機会が少なかった。	B		教育相談期間に全職員がすべての児童と話す機会を設けるなどして、誰にでも相談できる体制にする。	
	⑤「キャリアパスポート」の活用、キャリア教育を推進する。【毎学期末自己評価】	学習の成果物を蓄積し、毎学期の振り返りができた。教科の学習の中で、自分の得意・不得意について考えさせ、将来の設計図をイメージさせられた。	B		地域の方や学校に来て作業される方の姿を教材として、授業の中で考える。	
	⑥和太鼓演奏の技能の向上とその成果を発表する機会を設ける。【運動会・文化祭・感謝祭・交流事業等年間５回以上】	練習成果を発表できる機会があり、子どもたちもその目標に向かって取り組めている。2学期後半から各パートの引継ぎを始め、次年度に向けて準備できた。	A		低年齢化や個々の課題により現在の形での演奏が困難になりつつある。今後について検討する必要がある。	
○地域とともにある学校づくり（チーム朽木西） １．保護者や地域、関係団体・機関等との情報共有と信頼関係の構築 ２．学校運営協議会の運営と地域学校協働活動の推進	①保護者会・学校評価等でのニーズの把握と学校だより・ＨＰ更新による情報発信に努める。【随時】	月1回の学校だよりの発行（保護者用、地域用）ができ、教育活動の様子を知らせることができた。	A	A	引き続き、地域への発信を続ける。	・「チーム朽木西小」として、地域とPTAそして教職員間の交流をもっと深めたい。 ・沢山のカリキュラムが義務としてあるが、地域に特化した授業（地元の古老の話を聞くなど）の機会があってもよいのではないか。
	②学校運営協議会での学校教育目標や経営方針等の共有、課題解決に向けた熟議を行う。【年間５回】	3回は合同、2回は学校単独で学校運営協議会を開催できた。全教職員が参加して児童につけさせたい力と地域のかかわり方いついて熟議できた。	A		学校運営協議会で話し合った内容や地域連携カリキュラムについてPTAにも知らせていく。	
	③教職員やＰＴＡ、地域住民との協働体制を構築し、「チーム学校」としての取組を推進する。	地域やPTAの協力で多くの行事を開催できた。稚魚放流など、地域の特徴を生かした活動も新たに取り組めた。	B		地域の方に来校していただく機会を大切にしながら、教員や児童とのよりよい関係を築く。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・児童は明るくのびのびと過ごしている。少人数だが、逆にモチベーションや向上心を高めている部分がある。多少乱暴な言葉遣いがあってもいじめにつながるものではないと思うが、感謝の心を表す、先輩を敬う、友達を理解する、謙虚な気持ちで誰とでも接するなど、大人が見本を示していく必要がある。 ・外国語の指導や読書が充実している。ICTを使った授業も必要だが少人数のメリットを生かした授業も大切にしてほしい。西小学校の伝統でもある和太鼓も継続する方法を考えていく必要がある。地域に特化した授業（地元の古老の話を聞くなど）の機会も取り入れてほしい。 ・子どもが地域の方々を名字でなく「〇〇さん」と名前で呼んでいることには親しみを感じる。「チーム朽木西小」として、地域とＰＴＡそして教職員間の交流をもっと深めたい。	B	本校の特色を生かし、次のような教育活動を展開していく。 ①新入学児童を含め、全校で５人という少人数集団の中で、一人ひとりの個性や発達段階、能力に応じた丁寧な学習指導や全職員による生活指導（言葉遣いを含む）を行い、主体的に判断しながら行動できる児童の育成に努める。 ②西小学校がこれまで取り組んできた様々な活動について、踏襲・改善の視点で見直し、時代にあった本校らしい教育活動を推進する。 ③地域連携カリキュラムを元に、地域の文化を知る活動や地域の方とのつながりを大切にする活動を推進することで、地域を元気にし地域とともに生きる児童の育成をする。教職員も地域とのつながりを意識して行動する。 ④東小学校や中学校との交流の機会を通じて大きな集団での学習経験や生活経験を積み、社会の中で自信を持って生き抜く人格の形成に努める。

４段階評定（Ａ　目標を十分に達成　　Ｂ　ほぼ目標を達成　　Ｃ　やや不十分　　Ｄ　改善を要する）

（様式1）

令和4年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木中学校

学校の教育目標	
杉の木とともに大地に根を張り	＝朽木の自然と地域の人々とともに ふる里を愛し、ふる里を語れる
幹を太らせ	＝豊かな知識や技能、自分を支える体力、粘り強い精神力や豊かな人間性を高める
たくましく伸びる	＝夢や目標をもち、自分で考え自分で判断し、たくましく未来を切り拓く

昨年度の評価概要

〇コロナ禍でも生徒たちの主体性を発揮しての活動や日常活動、地域貢献活動等に生徒の成長の姿が見られ評価したい。今後も主体的に取り組める様々な体験を地域とともに工夫していってほしい。
〇学習が分かりやすく学べていることは喜ばしい。今後もICTの有効的な活用を進めてほしい。
〇学校が多くの生徒にとって居心地の良いところになっているのは素晴らしい。今後も子どもの居場所づくりに努めてほしい。
〇意欲的に取り組める部活動指導に努めてほしい。生徒が保護者とともに健康への意識を高めていってほしい。
〇地域との交流を計画的に進めることが「信頼にこたえる学校」につながると思う。保幼小中一貫教育のカリキュラム編成を学校、家庭、地域で考えることが大切。

中期的目標

□『読み解く力』の視点を踏まえた授業づくり
□目的意識と主体性を発揮できる場面の設定
□小中一貫教育の発展
□朽木を愛する心を育む体験活動の推進
□キャリア教育の充実
□学校運営協議会、地域学校協働本部を核とした「地域とともにある学校」の推進

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
「主体性、自主・自律の精神の育成」 ■主体的な活動による自主・自立の精神の育成 □自主的、創造的な活動と縦割り活動の活性化 ■地域貢献活動の推進	■「自分磨きタイム」の活動での主体的な取組90%以上	取組方法が改善され、意欲的に取り組むことができた生徒は93%だった。教師の評価は昨年度の44%から72%と大きく伸びた。	A	A	個々の生徒の目標を明確にし、見通しをもって計画的に取り組める支援をしていく。	・広報誌や中学校だよりから充実のうれしい姿を感じていたが、実際に生徒、教師共に高評価で大変喜ばしい。 ・朽木中の生徒さんは、皆、とてもよい子たちだと思います。温かい目で見守られ育てられていることがよく分かります。登校できない子がいるが地域ぐるみの対応が大切ではないか。
	□学級活動、生徒会活動（行事等）、体験活動における主体的、創造的な取組90%以上	体育祭や文化祭の企画運営を生徒会が中心に行い、クラスでも個々が意欲的に取り組み、93%の生徒が充実したと答えた。	A		個々の良さを認め、自己肯定感や達成感を味わえるような支援をしていく。	
	□縦割り集団を生かした活動（委員会・清掃）への取組90%以上	委員会活動に意欲的に取り組んだ生徒は89%、掃除に真剣に取り組んだ生徒は93%だった。	B		3年生が1、2年生をリードし、意欲的に活動できるように支援していく。	
	■地域貢献活動への積極的な参加80%以上	地域貢献活動（通学路の掃除、花壇の植え替え、雪囲い、プランターの運搬等）に積極的に取り組めた生徒は89%であった。	A		地域との連携を大切に、より地域に貢献できる活動内容を検討していく。	
「学習指導」 ◆『読み解く力』を核に、生徒が意欲的、主体的に取り組む授業の創造 ◇家庭学習の習慣化 ◆保小中一貫教育による系統性のある学習指導	◎「授業がわかりやすい」と答える生徒が90%以上	教師のわかる授業を意識した授業改善の取組は100%だったが、生徒の理解度は、1学期の97%から89%に下がった。	B	B	今後も学習意欲を高めるための課題提示や学習方法を工夫していく。	・参観して生徒が主体的に意見を出し合ったり、タブレットを有効活用したりする姿を目にし、大変興味深かった。教師の指導努力や生徒の学びを評価したい。理解度については個々の手立てを期待したい。BUTの取組は、教育的意義が高く、今後も回数を重ねていただきたい。 ・授業改善を図ってくださったようですが、さらに研修を重ね個々への手立ても期待したい。
	◆全教科で『読み解く力』の視点を踏まえた授業改善90%以上	教師の授業改善への意識は高く100%であったが、生徒の評価は85%であり、90%に届かなかった。	B		授業の中で生徒が個々の考えを深めるための手立ての研修を重ね、実践していく。	
	◆ICT機器の有効的な活用80%以上	ICTの有効的な活用について研修し、全職員で取り組んでいる（教員評価100%）。生徒の評価も85%であり、成果も出てきている。	A		ICTの有効的な活用方法について研修を重ね、積極的に活用していく。	
	◇宿題、自主学習、読書等の家庭学習（週末の課題）が、1日60分以上の生徒が80%以上	家庭学習の評価については、生徒は昨年の60%から74%にあがったが、保護者の評価46%から家庭学習の定着には至っていない。	B		課題の出し方や提出の仕方を工夫してきた。その中で効果のあった取組を継続していく。	
	◆小中合同授業（Build Up Time）、保小中合同授業研究会の充実80%以上	BUTの取組は、子どもたちに自己肯定感をもたせるための取組であり、毎年改善され成果を上げている。（教師評価100%）	A		保小中のつながりを大切にした取組であり、今後も継続していく。	
「道徳、生徒指導等」 ●いじめを許さない生徒指導の推進 〇生徒個人に寄り添った教育相談の充実 ●豊かな人間性・社会性を育む体験活動の推進 〇道徳の授業の充実	◎居心地のよい学校・学級づくり（学校・学級は安心して過ごせる）90%以上	生徒の肯定的な評価は昨年の72%から85%に上がり、保護者の評価も、昨年に続き90%以上であった。	A	A	小規模校の良さを生かし、全職員で一人ひとりを大切にした取組を継続していく。	・大変難しい項目が親子共に評価が高く喜ばしい。教育相談においても、心の授業等で生徒たちに大事な内容を丁寧に取り組まれ感謝する。今後も生徒全員の自己充実を目指したアプローチを切に願う。 ・小規模校なので、大人の目が届きやすいメリットはありますが、目が届き過ぎるデメリットもあるのではないか。
	●「ストップいじめ行動計画」に基づくいじめ撲滅に向けた取組推進と、いじめ防止対策委員会の開催（毎日）	いじめの早期発見、早期対応のため毎日の情報交換、毎月の振り返りアンケートなどに取り組んでいる。（生徒評価93%、教師評価88%）	A		取組を検証しながら継続し、より良い生徒理解に努めていく。	
	〇SCと連携しながら、生徒の思いに寄りそった相談活動の充実90%以上	生徒の肯定的な評価は85%であったが、教員、保護者ともに90%以上であった。関係機関と連携し、丁寧な対応の成果であると考える。	B		SC等の関係機関と連携し、生徒の思いに寄りそう教育相談を継続していく。	
	●夢や目標の達成のために努力したり、新しいことに挑戦したと答える生徒が80%以上	今年度の指導力点の一つであり、生徒も少しずつ意識ができ、生徒の肯定的な評価は89%であった。	A		生徒が目標を振り返る時間を確保するなど、達成感を味わえる工夫をしていく。	
	●地域の特性を生かした体験活動の推進と充実	生徒も教員も肯定的な評価が90%以上であり、今後も地域との連携を深め、活動内容の充実が大切である。	A		コロナ禍で取り組めていなかったこともあるので、活動内容を整理していく。	
	〇「考え議論する道徳」への授業改善90%以上	教師の従業改善への意識は100%と高く、生徒の肯定的な評価も93%であった。今後も発問の工夫や交流の仕方を研修していきたい。	A		今後も、教材の選択や指導方法、評価の仕方など研修を重ねていく。	
「健康の保持、増進」 ▲体力の向上と健康の増進 △望ましい生活習慣の育成	▲部活動の意欲的な取組90%以上	生徒の肯定的な評価は81%であった。2つしかない部活動であるが、個に応じた目標を設定するなど意欲を引き出す指導が今後も重要である。	B	B	個に応じた目標を設定するなど主体的に取り組む手立てを工夫していく。	・限られた部活では難しい。 ・健康に関する情報を親子で共有してほしい。 ・子どもの生活改善は親と学校の努力だけでは難しい。
	△規則正しい生活習慣の定着70%以上	生徒の肯定的な評価は81%であったが、遅くまで起きている生徒は少なくない。保護者の肯定的な評価は57%と生徒と大きな差があった。	A		規則正しい生活の重要性を様々な場面で発信していく。保護者との連携が重要である。	
「つながり響き合う教育」 ▼学びの連続性を重視した教育の推進 ▽学校と地域の協働による文化の創造と発信	▼滑らかな接続を目指す、保小中一貫教育による職員の連携、協力、協働80%以上	小中合同での授業研究会や授業参観等で連携が深められたと肯定的な評価が100%であった。	A	A	よりよい取組になるように今年度の取組をしっかり振り返り、来年につなげる。	・学校地域連携カリキュラムが熟議の上、完成したことは喜びたい。今後、地域でいろいろな人を巻き込み進めていけると良い。 ・保護者の学校への評価は高いが、卒業後、全く違う環境でうまく順応できるか心配している親も多い。
	▽学校運営協議会、地域学校共同本部との協働による教育活動の充実	学校・地域連携カリキュラムは、教員と学校運営協議会委員の方とで熟議を重ね、完成することができた。	A		完成した学校・地域連携カリキュラムの検証を進めていく。	
	▽「朽木中だより」「保健だより」「学級通信」等の発行により学校の様子がよく分かる90%以上	「学校だより」「学級通信」「保健だより」を随時発行し、学校の様子を伝えてきた。保護者の肯定的な評価が90%以上であり、今後も継続していきたい。	A		今後も学校の様子が少しでも保護者の方に伝わる通信になるように工夫していく。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	〇生徒の主体的自主的な活動への評価が生徒、教師共に高評価で良い。温かい目で生徒を見守られていることもよく分かる。しかし、不登校生徒がいることが気になるところであり、地域ぐるみの対応が大切だと感じる。 〇生徒の学習での積極的な発言やタブレット有効活用は評価したい。今後は、個々への手立てを期待したいし、授業改善にもしっかり取り組んでほしい。BUTの取組は今後も続けてほしい。 〇学校・学級づくりが親子とも高評価であり、今後も教育相談等の充実を願いたいが、小規模校ゆえに目が届きすぎることも気をつけてほしい。 〇限られた部活動で意欲的に取り組むことの難しさを感じる。子どもの生活改善は、学校と連携し、家庭で共有する機会を根気よく続けることが大切であるが、難しいと感じる。 〇今後、学校地域連携カリキュラムに地域の方々を巻き込み進められると良い。卒業後、新しい環境に順応できる生徒の育成を期待する。	B	〇新型コロナ感染症による教育活動への制約が少なくなる中、ただ単に元の活動に戻していくのではなく、コロナ禍での活動内容をしっかり振り返り、より自己肯定感、自己有用感につながるものになるよう検討していく。 〇地元の生徒は、地域で育てるという思いを学校、地域で共有していく。 〇誰もが分かる授業を目指して、今後もタブレットの有効活用や個に応じたきめ細かな指導の研修を重ねていく。 〇個々の生徒を大切にした教育相談の充実を図ると共に、その対応は関係機関等と連携し、生徒の望ましい成長に繋がるものにしていく。 〇規則正しい生活の重要性を様々な場面で発信し、親子で共有できる機会を増やしていく。部活動では、生徒が主体的に取り組む手立てを工夫していく。 〇学校地域連携カリキュラムを実施する中で、学校運営協議会委員の方と熟議を重ね、より良いものにしていく。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立安曇小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
豊かな心と自ら学び考える意欲をもつ 心身ともにたくましい安曇っ子の育成 じょうぶで　がんばる　やさしい子	・昨年度同様、コロナ禍での学校運営であったが、学校も子どもたちもＩＣＴの活用など対応力が向上しており、先生方の努力の賜物であると感じる。一方で、学校が楽しい、授業が楽しい、居心地がいい、といった指標は若干低く感じられ、コロナ禍での児童の心の健康について、注意深く見守る必要があると考える。 ・コロナ禍で、時間的にも対人関係においても難しい運営の中で、ＩＣＴを生かした方法で新しくできたこと、情報発信できたことは、非常に良かった。 ・限定される部分もあるが、安曇っ子博物館などの安曇小ならではのアクティブラーニングは、これからも継続して形を変えて実施していってほしい。	・基礎、基本の確実な習得と、学び合いを活性化し、主体的・対話的で深い学びの創造 ・読解力等言語力、活用力を高める授業の展開 ・ＩＣＴの活用による、わかる、できる授業の創造 ・道徳教育の充実で豊かな人間関係を育成し、いじめを絶対に許さない仲間づくりの推進 ・健康、体力づくりと、豊かな心の育成 ・小中一貫教育の推進による教育課程や生徒指導面での連携とキャリア教育の一貫した取組 ・地域学校協働活動を核とした地域とともにある学校の推進

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○自ら学び考え、行動する力を育む教育の創造 ・魅力ある授業で、基礎的・基本的な学習内容の定着と主体的な学習の推進 ・１人１台端末を生かした個別最適な学びと協働的な学びの実現 ・地域学習や福祉学習を核とした生活科、総合的な学習時間の推進 ・読み解く力を育成し、自分の言葉で表現する子の育成 ・パワーアップタイム等による「書く力」の育成	・授業が楽しい、わかる９０%以上 ・パワーアップタイムで、基礎的な力がついた９０%以上	・授業が楽しく、よく分かる85.7%（児童） ・学校の学習内容をだいたい理解している90.7%（保護者） ・パワーアップタイムで、基礎的な力がついた81.8%（児童）	B	A	・道徳科を窓口として、講師の指導助言を受けながら授業の工夫・改善を行う。	・ＩＣＴの取組は、かなり良い取組ができている。 ・授業の中で、わかる子がわからない子に教えるシステムは、みんなが楽しくわかる授業の創造につながると思う。 ・おすすめの本にコメントやポップをつけたり、タブレットで図書の紹介したりすると、本に興味を持つようになると思う。
	・相手の話をしっかり聞けた児童評価が９0%以上	・先生や友だちの話をしっかり聞けた93.8%（児童）	A		・学級会議のもち方を研究し、効果を上げている学校の取組を実践する。	
	・学校行事は楽しい児童評価が９０%以上	・学校行事に楽しく参加している91.6%（児童） ・学校行事に喜んで参加している95.3%（保護者）	A		・学校行事で、児童が主体的に取り組める内容を検討する。	
	・効果の上がる校内研究、校内研修（ＩＣＴ・プログラミング）とＯＪＴの推進	・ipad（タブレット）の使用についての職員研修を実施。 ・「書く力」の育成や、振り返りを重視した校内研修会の実施。	A		・効果的なICT機器の利用について職員研修を引き続き実施する。	
	・朝読書、図書訪問貸し出し、委員会活動による読書活動の活性化	・進んで読書活動をしている76.6%（児童） ・訪問貸し出しと３学期からの読み聞かせの実施。	B		・ボランティアによる読み聞かせを行う。 ・図書館のリニューアルを行う。	
○豊かな心と良好な人間関係づくり ・児童によるいじめ啓発活動 ・言葉遣いや言語環境の整備 ・ソーシャルスキルとコミュニケーション能力の育成 ・教育活動全体を通じて、道徳科の充実と藤樹先生の教えに学び実践する心の教育の推進	・学校が楽しい児童評価９０%以上 ・学校、学級は居心地がよい児童評価８５%以上	・学校が楽しい87.7%（児童）・子どもは楽しく学校に通っている92.9%（保護者）・学校、学級は居心地がい82.1%（児童）・みんなで仲良く協力し合っている88.0%（児童）	B	B	・ソーシャルスキルトレーニング等を積極的に実践する。	・各学級での学級会を充実させていくことで、楽しい学級づくりにつながっていく。 ・家族や友達など、本音を聞いてくれる人の存在が大切である。じっくりと話を聞いてもらう経験を増やしたい。
	・いじめをしない、許さない児童の育成 ・先生は自分の良いところを認めてくれる児童評価９０%以上	・定期的な教育相談やアンケート等により、児童に寄り添った。 ・先生は自分のよいところを認めてくれる87.0%（児童）	B		・委員会活動で、児童自らがいじめ防止について啓発できるようにする。	
	・ソーシャルスキルトレーニングの実施 ・個別の教育支援計画に基づいたきめ細かな指導と支援の実践	・ソーシャルスキルトレーニングやSCによる心理授業を実施した。 ・特別支援教育推進会議を定期的に開催し、情報の共有や個に応じた短期的な目標づくりを行った。個別の教育支援計画の保護者との共有に努めた。	B		・SC,SSWを効果的に活用するとともに、特別支援教育の実践力を高める。	
	・藤樹先生の教えに学び、よりよく生きる道徳教育の推進 ・縦割り活動、ペア活動による良好な人間関係の育成	・特に3年生は立志祭で、身近に藤樹先生を感じることができた。 ・可能な範囲で縦割り掃除を実施した。また、ペア活動として上学年が下学年に読み聞かせを行い、自己有用感を高める機会となった。	A		・縦割り活動をさらに充実させ、縦割り掃除やペア学年活動に取り組む。	
○たくましい心と体づくり ・業間運動、鉄棒や縄跳び、マラソン等の体力づくりの推進と自己の体力の課題改善に向けた取組 ・食育の推進や早寝早起き等生活リズムの構築 ・感染症予防と安全対策の徹底	・マラソンや鉄棒、縄跳び週間、教科体育の充実 ・特に高学年での体力の向上	・児童は元気に外で遊ぶなどして、適度な体力の向上を図った。 ・マラソンや鉄棒、縄跳び週間を設定し、体力を高めた。	A	A	・鉄棒、縄跳び、マラソン等に意欲を喚起できるように工夫する。	・自分の運動記録をつけるようにするとやる気がアップする。人と比較するのではなく、自分と比較できるようにタブレットなどに保存していくとよい。
	・生活アンケート等を活用した子どもたちの生活習慣の改善 ・早寝早起き朝ごはんの生活習慣90%以上	・家庭学習強化週間で、家庭で意識して取り組めた。 ・早寝早起き朝ごはんの生活リズムができている90.4%(保護者)	A		・家庭学習強化週間や生活アンケート等で、保護者への啓発を行う。	
	・うがい、手洗い、マスクの着用など、感染症対策をしている児童評価９０%以上	・うがい、手洗い、マスクの着用など、感染症対策をしている 92.9%(児童)　94.6%(保護者)	A		・引き続き、感染症対策を意識させるとともに、安全指導に努める。	
○小中一貫教育の推進 ・豊かな学びにつなぐ授業研究の充実 ・一部教科担任制による指導の充実 ・安心して意欲的に学べる学習環境づくり	・部会の再編により、教師のつながり感を高める。	・学びの基礎・充実・発展、心と体の育ち、学校地域のつながりの５部会に再編し、効果的な連携協力が図れるように取り組ん	B	B	・道徳教育を柱に部会を再編成し、取組の充実を図る。	・中学生と触れ合うことで憧れの存在になることがある。異学年との交流の機会が増えるとよい。
	・６年生の合同学習は、中学校進学への不安解消に役立った児童評価９５%以上	・中学校での6年生体験授業（合同学習会）や陸上記録会練習など、小中一貫教育の取組を進めることができた。	A		・中学生との交流活動を、工夫しながら充実・発展させていく。	
○家庭、地域等との連携 ・学校便り等による保護者、地域への情報発信 ・学校運営協議会、地域学校協働活動の推進、学校関わり人口の増加	・あど小通信を月１回以上発行する。 ・新たな学校支援ボランティアの発掘と組織化	・月一回の学校だよりや学年通信等で、情報発信ができた。 ・お便り等で、学校の様子をだいたい把握している92.5%(保護者)	A	A	・メールやホームページを活用し、情報のデジタル化と発信に努める。	・情報発信のデジタル化は保護者にタイムリーに情報が伝わり、また紙を使用しないので環境に配慮した取り組みである。
	・地域学校協働活動推進員との連携による地域人材の活用 ・広瀬地区でのマラソン大会の実施	・多くの分野で学校支援をいただき、九九道場、ミシンボランティア、朝読書など学習支援に関わっていただいた方々は確実に増加している。 ・昨年度に引き続き、広瀬地区でのマラソン大会を実施できた。	A		・学校・地域連携カリキュラムを公開し、地域ボランティアの参加を増やす。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・学校運営委員として授業等を見させていただき、子どもたち一人ひとりに寄り添い教育を行うことの大変さを感じた。学校の敷居がまだまだ高い中にあって多くのボランティアが授業に関わっていただいていることは、素晴らしいことだと思う。今後も継続してボランティアの呼び掛けを行う必要がある。 ・ＩＣＴ教育など、継続して良いところが伸びているし、良くなかったところも改善されている。何かしらのやりがいや目標を感じられる授業ができれば、子どもたちの成長が見えそうである。 ・図書館リニューアルを機に、魅力ある空間にしてもらいたい。子どもたちの興味を引き出し、読書活動の推進に努めたい。 ・先生方はよく頑張っていただいているので、地域から入っていき一緒にできる活動が増えるとよい。	B	○学力向上について ・朝読書をさらに充実し、落ち着いた１日のスタートとなるようにする。図書館のリニューアルなど、読書環境の改善に努める。 ・一人一台のタブレットを有効活用し、楽しい、わかる授業の実践に向けて取り組む。 ○居心地のよい学校づくり ・学級会議をどの学年でも推進し、自分たちの課題を自分たちで解決する力を育成する。 ・いじめは、絶対に許されないということを指導し、児童自らがいじめ撲滅のための啓発活動を実施できるようにする。 ○小中一貫教育、家庭・地域との連携 ・異学年交流や小学生と中学生との交流の場を増やすとともに、道徳教育を柱として共同授業研究を進める。 ・学校運営協議会や地域学校協働活動との連携を密にして、学校への関わり人口の増加を図る。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立青柳小学校

学校教育目標	
校訓	「良知に生きる」
学校教育目標	自ら学び　心豊かでたくましい　子どもの育成

昨年度の評価概要

・中江藤樹の教えを生かした青柳小学校独自の教育活動が子どもたちの生活にも反映している。
・全体的には落ち着いた雰囲気で学校生活を送っている。今後もひとり一人の子どもたちに寄り添う支援を続け、学力向上のため努力を続けてほしい。
・縦割りや異学年交流で、上級生が下級生をいたわり、下級生が上級生にあこがれや感謝の気持ちをもつ雰囲気づくりを今後も継続させてほしい。
・ICTを利用した教育活動の効果も見られるが、機器に頼りきらずに子どもひとり一人をしっかりと観て、効果的な利用を継続させてほしい。
・ＡＣと地域学校協働活動を通して、学校支援と地域貢献を確実に実践し、子どもの健全育成と地域との連携を強めてほしい。

中期的目標

めざす子ども像
　徳：たがいに思いやる子
　知：よく考え実行する子
　体：明るく元気な子
めざす学校像
　地域とともにある学校

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・「我が校の学ぶ力向上策」の点検見直しにより学力向上を図る。 ・保護者と学校が連携し、学力向上の土台づくりに取り組む。 ・基礎基本の定着と活用力の向上を図るため、算数科・理科等の専科指導を充実させる。 ・ＩＣＴ機器の有効活用を図る。	・学ぶ力向上策の推進において、学期ごとのＰＤＣＡサイクルで評価、改善を加え実効性のあるものにする。	全国学力・学習状況調査の結果分析による授業改善を推進。教育研究所の研究協力校として算数科の授業改善にも取り組んだ。	B	A	学期毎のＰＤＣＡサイクルを月ごとに回し評価と改善につなぐ。	ＰＴＡとの連携による「長所の花を咲かせよう」運動は、親子で話せるツールにもなり、よい取組である。短所もしっかり踏まえた上で長所を伸ばしていくなど、これを次のステップアップにつなげることも考えたい。。タブレット端末は家庭学習でもよく活用できている。機器に頼りすぎず、個々の児童がどのように学習に向き合っているかを机間指導等でしっかり把握することも大事である。
	・学力向上の土台となる自己肯定感を育む活動(PTA「長所の花を咲かせよう」運動)の実践と振り返り。	ＰＴＡと連携して、「長所の花を咲かせよう」運動の取組を進め、学校だよりやミニ集会でも紹介した。	A		「長所の花をさかせよう」運動を継続し自己肯定感の高揚を図る。	
	・「先生はわからないときに丁寧に教えてくれる」（児童評価90%以上)	「先生はわからないときに丁寧に教えてくれる」…１学期の児童評価99%。２学期には昼休みに宿題練習教室を開講。	A		授業改善と補習、家庭学習の充実等で、基礎基本の定着を図る。	
	・ICT機器の効果的な活用により「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。	ＩＣＴ機器はすべての学年で活用。タブレット端末を毎日の授業や家庭学習で効果的に活用し、学力向上につなげる。	A		タブレット端末を学び合い学習の場面でも積極的に活用していく。	
○言語活動の充実 ・国語科における言語活動を基盤として各教科での言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育む。 ○小中一貫教育の推進 ・高島市小中一貫標準カリキュラムを活用し、めざす１５才の姿の共有のもと各段階の教育活動に取組む。	・校内研究のテーマ「子どもたちが思考力を高めながら、主体的・対話的に学ぶ授業の創造」の確実な実践。	国語科を研究教科に位置付け、各学年部で研究授業を実施。「学ぶ力向上学校訪問」での学びを実践につないでいる。	A	B	各学年部による事前研究会の時間確保と「書く活動」の充実。	読み解く力の大切さがよくわかった。そのベースとなる読書指導は、近くにある図書館との連携で「訪問貸し出し」や「ブックトーク」を取り入れ、本とふれあう時間を持つといい。それにより、子どもたちに読書への興味を持たせることができるのではないか。国語の時間を使って、図書館に出向くこともいい。廊下や教室に置いている図書も子どもたちがよく手にしており、よい環境である。
	・授業では、振り返りの時間を中心に「書く活動」を多く取り入れ、「読み解く力」の向上を図る。	授業の終末には「振り返り」の場を設定し、学びを深めることとした。「読み解く力」の育成に向けた職員研修も実施。	B		毎時間の授業で身に付けるべき力の焦点化と「振り返り」の工夫。	
	・学校・家庭における読書活動を充実により、読書の楽しさを実感させ、読書習慣の定着を図る。	学校や家でいろいろな本を進んで読んでいる…１学期の児童評価70%。地域ボランティアによる「読み聞かせ」を実施。	B		家庭と連携した読書に親しむ環境づくりを行っていく。	
	・小中教職員による共同授業研究を充実させ、小中学校の学習のつながりを意識した授業づくりに取り組む。	小中の教員による部会別授業研究会に参加。中学校の学習内容とのつながりを意識した授業づくりに生かすことができた。	B		「高島市小中一貫標準カリキュラム」を活用した授業づくり推進。	
○集団づくり ・けじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。 ・周りの子どもたちや大人に対して思いやりの気持ちをもって接することのできる集団を育成する。 ・異学年交流を通して望ましい人間関係の育成とリーダーを育てる。	・いじめ未然防止の日常的取組。生徒指導に関する情報交換やケース会議等による事案への適切な対応。	いじめの未然防止に向け、情報交換や対策委員会開催等、専門家を含め組織対応により職員一丸となり取り組んでいる。	A	A	いじめには毅然とした態度で臨み、組織対応に努める。	青柳小の児童はあいさつをよくしてくれる。ボランティアの方が来校された際にも、しっかりあいさつができているし、委員会などの仕事もよくできている。あいさつ運動は今後も関係団体との連携の下で継続していけるとよい。集団登下校はよい取組であり、地域の人の声かけがあるといい。たてわり活動を通して、高学年は「しっかりやらねば」という自覚が出てくる。
	・「進んであいさつや返事をしている」(児童評価90%以上)	「おはようございます、さようなら」などのあいさつや返事をしている…１学期の児童評価98%。保護者評価90%。	A		今後もＰＴＡやＡＣとも連携し、あいさつ運動に取組む。	
	・あらゆる教育活動を通して、周囲の友達や他学年の友達のことを考え、思いやりの気持ちを育てる。上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生に感謝の気持ちを持てるよう指導する。	高学年の人たちがやさしくしてくれ、学校が楽しくなるようにがんばってくれている（低中）、下級生をリードし、学校生活がよくなるようにがんばっている（高）…１学期の児童評価87%。各学級で「安心ルール」を協議。	A		全校的な行事や登下校などの異学年交流の場で望ましい態度がとれるよう声掛けしていく。	
	・異学年交流や児童会活動の活性化を図る。（たてわり活動、集団登下校、運動会等）	「たてわり活動」や全校的な行事では（低中）協力して（高）自分から進んで活動している…１学期の児童評価90%	B		より良い人間関係づくりに向け、児童の主体的な活動をサポート。	
○藤樹学習を中心とした地域連携 ・中江藤樹の教えを学ぶ機会や、地域の文化や伝統を取り入れた学習を取り入れる。 ・ＰＴＡやＡＣ（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部との連携を深める。	・「藤樹デー」「大洲小学校との交歓会」等、青柳小ならではの取組の充実。	「藤樹デー」は、地域人材の協力のもと藤樹先生の教えを楽しみながら学べるよう高学年が中心になって企画・運営。	A	A	藤樹先生の教えを教育活動に生かした本校ならではの取組の継続。	「藤樹デー」は学校が一丸となって取り組めており、特に高学年が主になって企画運営できているのがいい。子どもたちはたてわり班での藤樹学習をとても楽しみにしている。道徳的な教えは、近年希薄になってきていると感じるので、藤樹先生の教えは他校よりも身近に感じられると思うので、今後も大切にしていってほしい。「知行合一」「五事を正す」など難しいこともあるが、大事な教えである。
	・「学校では藤樹先生に関係する勉強をやっている」(児童評価90%以上）	学校では藤樹先生の生き方や考え方を取り入れた生活を送れるよう先生に話をしてもらっている…１学期の児童評価92%	A		道徳等で「致良知」「五事を正す」「知行合一」等の教えを継承.	
	・学校運営協議会での熟議を通して、目指す子ども像の実現に向け地域学校協働活動の充実を図る。	委員と教職員とによる熟議を行い、地域学校協働活動の見える化に向け「学校地域連携カリキュラム」の編成に着手。	A		熟議を進めて年度末にカリキュラムをまとめ地域へ発信する。	
	・学校運営協議会、ＰＴＡ、ＡＣ（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部等と連携した取組。	各種団体の協力を得ながら、学校支援や子どもたちの学習支援・健全育成につながる活動ができた。	B		学校・各種団体間で連携可能な取組を確認しカリキュラムに明記。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○今年度、学運協で企画した運動場の除草作業を２回実施したところ、保護者や地域の方にたくさん来ていただけた。来年度も学運協やＰＴＡ、ＡＣと協力して、つながりを横に広げていけるといい。子どもらといっしょに活動できる形も続けてほしい。 ○子どもたちは日頃からよくあいさつをしてくれる。集団登下校でも、きちんと年上の子が年下の子のめんどうを見ている様子が感じられる。また、地域の方といっしょに行う運動場の草引きでも、どの子もよくがんばって仕事をしているし、地域の方にも感謝の声掛けをしてくれて良い心が育っている。ボランティアで学校に来ても、居心地の良い子どもたちの雰囲気が感じられる。 ○中江藤樹先生の地元であるので、校訓「良知に生きる」を大切にして、藤樹先生の教えを継続実践していくことを望む。 ○コロナ禍ではあるが、特養「ふじの里」のように地域にある高齢者施設との交流もカリキュラムに位置付けて積極的に進め、年間通して福祉教育の充実を図られたい。 ○「学校・地域連携カリキュラム」には写真を入れてわかりやすく工夫し、地域の支援が必要な取組には「ボランティア募集」の言葉を入れるとよい。もっと地域の人に見てもらえる機会があってもいいし、学校だけで難しいことがあれば地域をよい意味で巻き込んでもいい。	A	○校訓『良知に生きる』のもと、子どもたちは、藤樹先生の教えをさまざまな場面で学ぶ機会がある。今後は、道徳や総合的な学習の時間、藤樹デーを中心に、子どもたち自らが藤樹先生について調べてその教えを理解し、学んだことを他者に伝えたり、発信したりできるようにしていきたい。そのことにより、「致良知」「孝行」「知行合一」「五事を正す」などの意味を深く理解し、藤樹先生の教えを自らの生活で実践していくことにつながると考える。 ○地域学校協働活動により、子どもたちの学びを支えてくださる地域の方々が子どもたちにたくさん関わってくださるようになってきた。運動場の除草作業は次年度も定期的に実施し、保護者や地域の方々にたくさん参加いただけるように広報を工夫したい。コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会での熟議を大切にしながら、学校・地域連携カリキュラムをより良いものに更新し、地域の方々とのかかわりの中で子どもたちを育てていく。

４段階評定（Ａ　目標を十分に達成　　Ｂ　ほぼ目標を達成　　Ｃ　やや不十分　　Ｄ　改善を要する）

（様式１）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立本庄小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
校訓「たくましい子　本庄の心」 地域の願いや期待を受け止め、自らの未来を切り拓こうとする意志と能力を持つ子どもの育成	○教職員の努力・工夫で、コロナ禍でも、子どもたちが進んで諸活動に取り組めており、良い経験・良い思い出となっている。 ○少人数学級・　学校ならではの授業の充実、地域の方の協力、感染対策を考えながら、行動・判断をしてもらえている。 ○子どもたちが何かにチャレンジしたり一生懸命練習したことを発表したりできるよう、保護者と地域がもっとサポートできると良い。 ○挨拶が出来る・出来ないでその人の評価が変わる。それほど挨拶は今後必要不可欠なものである。スローガンをみんなで考えてみてはどうか。 ○学校行事や環境整備活動は、密にならないよう複数日の設定等も考えたい。	○基礎基本の充実を図り、思考力を伸ばす。 ・言語にこだわった学習に力を入れる。 ○自ら考え、ともに学び合う力をつける。 ・自らの志を実現しようと努力する意欲を育てる。 ○豊かな心、たくましい体を育てる。 ・様々な体験を通して、心身ともにたくましい本庄っ子の育成を図る。

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定	評定	改善方策	学校関係者評価
学力向上のための力点	学習意欲の向上 「学習内容がわかる」95%以上 「学習は将来役に立つ」90%以上	児　童：学習内容が分かる(100%) 学習したことは将来役に立つと思う(90%) 保護者：授業が分かりやすい、楽しいと言っている(98%)	A	B	導入や発問、学習活動を工夫して、児童の学習意欲を高め主体的な学習が継続できるようにする。	・学習していることが将来役に立つと考えている児童の多いことが素晴らしい。 ・ＩＣＴを活用した授業に熱心に取り組んでいることは良く分かったが、感性を育てる教育も大事にしたい。
	授業改善 「ICTを活用した授業に取り組む教員の割合 100% 「読み解く力」を意識した授業づくり	教職員　ICTを活用した授業に取り組む教員(100%) 授業づくりの工夫（意見の交流や深め合う場）100%	A		校内研究のテーマ「読み解く力を発揮して学びを深める授業づくり」に引き続き取り組む。	
	家庭学習の習慣の定着（宿題＋自主学習） 「低学年20分、中・高学年10分×学年」90%以上	児　童：目標時間以上、家庭学習できている。(93%) 自主勉強の内容を工夫している。（中・高）(81%) 保護者：決まった時刻に目標時間以上家庭学習ができている(91%)	B		家庭学習の定着に課題がある児童は、保護者と連絡を取り、家庭での過ごし方を丁寧に指導する。	
たくましい心身を鍛えるための力点	基本的な生活習慣の定着 「早寝・早起き・朝ご飯」「挨拶・返事・靴揃え」の習慣が身についている　95%以上	児　童：「早寝・早起き・朝ご飯」ができている（95%） 「あいさつ・返事・靴そろえ」ができている(98%) 保護者：家庭や地域でよく挨拶ができている(94%)	A	A	気になる行動を見つけた時は、その場で丁寧に指導し、行動変容を促していく。	・自己肯定感の数値が高く、良い環境でよい教育がなされている。児童はまじめに努力し、先生も頑張りを認め褒められる機会も多いのだろう。 ・挨拶ができる子に、という議論は学校運営協議会でも行ったが、成果が見えるアンケート結果に安堵している。
	自己肯定感の高まり 「自分のことが好き」95%以上	児　童：自分には良いところや得意なことがある(90%) 先生は良いところを認めてくれる(98%) 保護者：子どもの良いところを見つけてほめている(91%)	B		児童の気持ちに寄り添い、良さを認める声かけにより、自己肯定感を高められるようにしていく。	
	向上心や忍耐力の育成 自己目標（マラソン、遠泳等）の達成に向け努力できた　95%以上	児　童：運動会やマラソン大会に一生懸命取り組んだ(95%) そうじは黙って時間いっぱいまで頑張っている(98%)	A		適正な目標設定をさせ、練習や準備に真剣に取り組ませ、より深い達成感・成就感を味わえるようにする。	
豊かな心を育むための力点	豊かな感性を培う 『地域で、地域と、地域を』学ぶ活動の推進 地域が好きで、誇りを持っている　90%以上	児　童：ふるさと本庄のことが好きだ(98%) 保護者：地域の良さや素晴らしさを話すことがある(40%) 教職員：地域の力を取り入れた教育・授業(100%)	B	A	学校地域連携カリキュラムをもとに、計画的に指導を行う。カリキュラムの見直しも適宜行う。	・保護者が地域の良さを子どもに話すことが少ないが数字は気にしなくてもよい。それより、地域で親子が一緒に活動できる機会を大事にしたい。 ・道徳の学習は、内容も方法も昔と比べ変わってきていることが分かった。
	個性を尊重し、つながり合う集団づくり 嫌なことを言ったり、したりしない　95%以上 学級が楽しい、学校へ行くのが楽しい　100%	児　童：嫌なことを言わず友だちを大切にしている(98%) 学校生活は楽しい(100%)　仲の良い学級だ(98%) 保護者：楽しく学校生活を送っている(100%)	A		学級活動や児童会活動、縦割り活動等の教育目標に即して人間関係づくり、集団づくりを進める。	
	健全な倫理観の育成 道徳の授業は楽しい　90%以上 人権週間における人権学習の取組	児　童：道徳の勉強は楽しい。生活に活かしている(93%) 教職員：人権尊重の態度が育つよう指導しているか(100%) 価値観を深め合えるよう道徳の授業を工夫した(87%)	A		多様な価値観に触れ、高め合える道徳の授業改善を図る。個性を認め合える集団づくりを進める。	
地域とともにある学校	地域や保護者との連携（横のつながり） 学校運営協議会・地域学校協働活動の充実 授業参観・学校行事への保護者参加　95%以上	・学校運営協議会での熟議を経て、環境整備作業を計画し、参加を呼びかけて下さり、多くの地域の方が参加してくれた。 ・授業参観等にほとんどの保護者が参加してくださった。	A	A	地域学校協働活動との一体的な推進が図れるように、学校運営協議会での熟議を大事にしていく。	・中学校進学への不安を抱える６年生が多いことが気になる。中学校から教員や生徒を招き、相談会を開催できるように考えてほしい。 ・保護者と教職員、地域と学校が、地域や学校の課題を共通理解して取組が行われていることがよいと思う。
	小中一貫教育の推進（縦のつながり） 小中連携による授業改善 中学校進学への不安を感じていない　95%以上	・今年は、６年生の合同学習を予定通り実施。また、10月には、中１の卒業生が運動会ボランティアとして参加。 ・中学校進学への不安を感じていない(38%)	B		小小・小中合同の授業研究会をさらに充実させる。6年生児童の不安を和らげる手立てを講じる。	
	安心安全な学校づくりと積極的な情報発信 避難訓練の計画的な実施　安全点検（月１回） 分かりやすい学校・学級だより、ＨＰ　95%以上	児　童：学校は安心(98%)安全に気をつけて行動(97%)廊下走らない(84%) 保護者：健康や安全への配慮(96%) 分かりやすいお便りや連絡(100%)	A		児童が主体的に安全への意識を高められるよう指導する。保護者が気兼ねなく相談できる体制を整える。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・アンケート結果や学習参観、ゲストティーチャーとして授業に関わる経験などから、本庄小学校は小規模校の良さを活かし、児童一人ひとりに行き届いた教育が実施されているといえる。評定にもＡ評価が並ぶように、多くの指標で目標が達成できている。 ・タブレット端末の導入により、学習の様子が変わってきたことが随所に感じられる。子どもたちも、「授業が分かりやすく楽しい」（98%）と回答していることから、素晴らしい成果の一つだと思う。ただ、「記憶や記録に残す」から「保存する」に変わると、人間の感性はどうなるのだろうという心配もある。 ・学校運営協議会としても、熟議の結果を受けて、除草をはじめとする環境整備活動や学校支援ボランティアなど（地域学校協働活動）を積極的に行ってきた。その結果、地域の方が学校に足を運び、地域とともにある学校づくりがより一層進んできていることを感じる。 ・中学校進学への不安は、中学校入学後の気後れに繋がる。他校の児童と比べると、本校の児童はやはり雰囲気が違う。小規模校で、一人ひとりが大事にされるのはよいことではあるが、過ぎればそれは弊害にもつながる。子どもの自立にとって何が必要か、小規模校だから考えるべき課題もある。	B	・ＩＣＴ教育の充実とともに、これまで大事にしてきた感性を育てる教育も引き続き充実させていきたい。協働学習や道徳教育の充実に加えて、青少年赤十字推進委嘱校として、人と人とがつながり支え合い、一人ひとりがかけがえのない存在として認めあえる学校づくりを進めたい。 ・自主学習に取り組む児童が増え、自分なりに工夫した学習となるように、お手本となるノートを例示したり、学校として内容や方法をまとめて伝えたりできるようにしていく。 ・褒めて認めて、自己肯定感を高める教育を大事にするとともに、必要なことは自分の言葉で話し、自力解決できる場を増やし、教職員も支援する大人も過干渉とならないような関わりを行う。 ・中学校進学後の不安を持つ児童が多く、大丈夫かなという心配を周りもしてしまうという意見を受け、中学校から教員や生徒を招き、相談会を開催できるように考えていく。また、児童自身が自己肯定感を高め、自分に自信が持てるようにしたり、縦割り活動や異学年交流、地域の人との出会いなどにより、多様な考えや人と出会う機会を増やしたりしていきたい。

４段階評定（Ａ　目標を十分に達成　　Ｂ　ほぼ目標を達成　　Ｃ　やや不十分　　Ｄ　改善を要する）

（様式１）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立安曇川中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
『 確かな知性 かがやく良知 たくましい心身 』	・小中一貫教育の推進については、コロナ禍においても部会ごとの授業研究などができたことは評価ができる。さらに、子どもたちの交流を進める取組への展開を期待する。 ・学力向上に向け、タブレット端末の積極的活用による授業改善に取り組んだことは評価ができる。今後は、家庭学習の習慣化に向け、家庭と連携した取組を推進してほしい。 ・生活面での落ち着きが見られ、各行事には楽しみながら取り組めたことは評価ができる。いじめの未然防止の第一歩となるあいさつもしっかりできるようになってきているので継続した取組を期待する。 ・学校と地域が連携した活動を進められたことは評価できる。コロナ禍の中でもできることを模索し、将来的な展望をもって新たな活動の広がりを期待する。 以上のことから、総体的にＢ評価とする。	地域に誇りと愛着をもち、 地域に役立ち、貢献できる生徒の育成

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
小中一貫教育の推進 ・小中９年間を見据えた系統的かつ継続的な学習指導や生徒指導を行い、「自ら考え、判断し、行動する力」を育てる。	・小中をつなぐ児童生徒の交流活動に取り組みます。	コロナ禍により２年間中止していた町内３小学校の６年生の合同学習を、今年度は感染症対策を講じながら実施した。当日は、部活動体験も行い、在校生との交流を図った。	B	B	今後は、小学校の運動会での交流以外にも、小中の交流が深まる活動を設定していく必要がある。	・新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、在校生と町内小学校６年生との交流や小中教員による共同授業研究の機会など、工夫した取組が行われていた。 ・小中９年間を通して、大切にすべき内容について小中の教員間で共有しておくことは重要である。 ・小学６年生の合同学習や中学生と交流はよい機会であるが、さらに、小学５年生頃から段階的に小中学生間の交流があればよいのではないか。
	・学びの連続性を大切にし、小中教員による共同授業研究等の取組を推進します。	小６合同学習での中学校教員による算数の授業や、「小中一貫教育の日」に行う研究授業等において、小中教員による共同授業研究の機会を設けることができた。	B		安曇川中学校区の小中一貫教育を推進するため、各部会における共同授業研究のさらなる充実を図る必要がある。	
	・「我が校の学ぶ力向上策」に基づき、学力向上を図ります。	非認知能力の育成を授業改善の切り口とし、各教科の授業の中で、「生徒が主体的に活動する場面」を多く取り入れ、協働的かつ探究的な学びの推進に努めた。	A		引き続き、非認知能力の育成を切り口とした協働的かつ探究的な学びの充実を図っていきたい。	
確かな学力の定着 ・基礎・基本の定着と問題解決能力を育てる。 ・１人１台端末を活用し、「個別最適な学び」と「協働的・探究的な学び」を充実させる。	・１人１台端末を有効に活用し、学び合い学習を取り入れた授業を全教員が実践します。 （授業が分かる：生徒80%、保護者60%）	全教員が、各教科の授業において１人１台端末を有効に活用し、学び合い学習の充実を図ることができた。１人１台端末の活用については、県内でも評価を受け、県外からの先進校視察を受け入れた。 （「授業が分かりやすい」と回答した割合：生徒は88.6%、保護者は69.7%）	A	A	１人１台端末のより一層の効果的な活用方法を模索し、全校的に「個別最適な学び」と「協働的かつ探究的な学び」の推進を図っていきたい。	・１人１台の端末を効果的に使用し、授業内容に工夫が図られていた。また、定期的な授業公開や研究により、改善が図られ、前向きな取組が目立っていた。 ・１人１台端末をより一層効果的に活用できる技量を身に付けさせてほしい。 ・保護者への情報発信（端末の使用状況や学校生活の様子など）をより一層充実させてほしい。
	・校内研究を推進し、積極的な授業研究会や全教員の公開授業を実施します。	校内研究の推進を図るため、定期的な授業公開や授業研究会を開催し、全教員が参観して研究協議を行うことができた。また、授業研究会には大学教授等にもご参加いただき、授業改善に向けた指導助言をいただくことができた。	A		今後も引き続き、授業公開や研究授業の機会を通じて、教員間で学び合える機会を数多く設定していくことが重要である。	
豊かな心の育成 ・豊かな情操や規範意識、社会性、人を思いやる心を育成する。 ・すべての子どもの多様性が認められる豊かな人権意識を培う。	・道徳教育を推進し、対話的な学びを通して、自他を認め合う心情を養います。	「考え、議論する道徳」の授業づくりに向け、道徳的価値を高めることができる適切な教材な選定や考えを深めることができる発問の工夫などに取り組んだ。	B	B	生徒の発達段階や実態等を踏まえた上で、道徳教材として相応しい題材を吟味していくことが重要である。	・道徳的価値を高める教育および人権意識を高める取組には共感を覚えた。思いやりのある良好な人間関係を育むことは、将来的に街の発展に欠かせないことであり、このような取組は高く評価できる。 ・教職員が生徒とともに成長するという感覚やコーチングの概念を大切にすることにより、生徒との良好なかかわりが深まり、能力の向上につながる。 ・職場体験学習は、５日間を１回とされているが、可能であれば、複数回に分けたり、授業時間外で継続的に実施したりするなど、地域や職場の方々とのつながりが深まる取組になればよい。 ・不登校や別室で過ごす生徒への支援とともに、社会参加が可能となる取組の充実に期待する。
	・体験活動を通して、豊かな心を育みます。 １年:地域探訪 ２年:キャリア学習 ３年:体験的進路学習	コロナ禍により感染症対策を講じた中ではあったが、３学年ともに年度当初予定していた体験活動を実施し、仲間とともに、この時期にしか体験できない貴重な経験を積むことができた。	B		地域とのつながりを深めるとともに、感動的で心に残る体験活動となるよう、活動内容等を工夫する。	
	・生徒会活動や学級活動を柱にして支え合い高め合える集団づくりを推進します。 （学校は楽しい：生徒90%　保護者80%）	生徒会担当教員が中心となり、伝統ある校友会活動のさらなる発展を目指す校友会役員をサポートし、全教員で校友会活動の活性化に向けた全校的な取組の充実を図った。（「学校は楽しい」と回答した割合：生徒93.7%、保護者89.9%）	A		引き続き、生徒自らの力による主体的な活動を支援することにより、自治能力のさらなる向上に努める。	
	・人権意識を高め、思いやりのある良好な人間関係を育みます。 （いじめを許さない：生徒90%） （学級はまとまりがある：生徒80%）	いじめの早期発見・早期対応のため、定期的に生徒や保護者を対象とした「いじめに関するアンケート調査」を実施し、課題解決に向けた迅速かつ適切な対応に努めた。 校友会活動の一環である「安曇川中学校いじめ撲滅運動（AIB）」を通して、生徒自らによるいじめ防止の意識の醸成を図った。	A		道徳科をはじめとする全ての教育活動において、思いやりの心を育て、互いに支え合える生徒集団づくりに努めるとともに、引き続き、定期的に『いじめに関するアンケート調査』を行い、早期発見・早期対応に努める。	
健やかな体の育成 ・体力向上と健康の保持増進の基礎となる運動習慣等を育成する。	・保健指導、性教育、がん教育など、健康の保持増進に特化した授業を行います。	医師や助産師、歯科衛生士の方々を講師に招き、健康の保持増進に特化した授業を行い、健康教育の推進を図った。	A	B	これまでに引き続き、医師等の協力を得て、発達段階に応じた健康教育を推進する。	・健康の保持増進に特化した授業や部活動の活性化につながる前向きな取組が行われていた。 ・生徒たちの体力向上を目指して、個別の部活動だけではなく、運動部全体で基礎的なトレーニングを週１回行うなど、できることから始めてみてはどうか。 ・楽しく身体を動かすことにより、ストレスを解消し、心身ともに健康に生活できることを期待する。
	・部活動の活性化を努め、体力の向上を図ります。	部活動の指導体制の強化を図り、活動の充実に努めた。各種大会やコンクール等においても活躍した。部員数の減少が大きな課題である。	B		休日部活動の段階的な地域移行を踏まえ、今後の部活動の在り方について検討を重ねる。	
地域とともに歩む学校づくり ・地域・家庭・学校がつながり積極的に連携・協働する体制づくりを推進する。	・学校運営協議会の活性化と地域学校協働活動の充実を図ります。	学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進に向けて、各種研修会に参加するとともに、学校運営協議会において熟議を重ねた。	A	A	今後も継続して、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進を図っていきたい。	・小中合同の学校運営協議会の開催など、地域とのつながりを大切に、連携できる体制の推進が図られていた。 ・学校運営協議会委員と教職員とが、意見交換や情報共有ができる機会が増えることが望ましい。 ・学校運営協議会において、生徒の声を直接聴ける場や生徒の様子を見ることができる場を設定してほしい。
	・学校･地域連携カリキュラムの作成と実践に向けての熟議を行います。	学校･地域連携カリキュラムの作成に向け、小中合同の学校運営協議会を開催し、互いに交流を深め、小中のつながりのある教育活動を展開していくことについて確認し合った。	A		次年度からの学校･地域連携カリキュラムの円滑な実施に向け、学校運営協議会が中心となって準備を進める。	

	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者評価	・新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、在校生と町内小学校６年生との交流や小中教員による共同授業研究の機会など、工夫した取組が行われたことは評価できる。今後も、小中９年間を通して大切にすべき内容について、小中の教員間で共有しておくことは大切である。 ・１人１台端末を有効に活用し、定期的な授業公開や研究授業を通して、積極的な授業改善が図られていることは評価できる。１人１台端末の活用にあたっては、情報モラルの育成を図るとともに、より一層効果的に活用できる技量を身に付けさせてほしい。 ・道徳的価値を高める教育および人権意識を高める取組を通して、思いやりのある良好な人間関係を育むことは、将来的に安曇川地域の発展に欠かせないことであり、高く評価できる。今後、より一層互いの多様性を認め合い、人を思いやる豊かな心を育むことが必要である。 ・小中合同の学校運営協議会の開催など、地域とのつながりを大切にした取組が展開されている。今後は、学校運営協議会委員と教職員、さらには生徒たちとが、意見交換や情報共有ができる機会が増えることが望ましい。以上のことから、総体的にＢ評価とする。	B	・新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた上で、小中の交流が深まる活動や９年間のつながりのある教育活動を展開していきたい。また、小中の教員が互いに授業を参観したり、合同研修会を開催したりするなど、目指す子ども像を具体的な姿で共有することができる機会を多く設けていきたい。 ・１人１台端末のより一層の効果的な活用により、学び方を改革し、「個別最適な学び」と「協働した探究的な学び」の充実を図りたい。１人１台端末の活用にあたっては、情報モラルの育成を図るとともに、情報化社会において有効かつ適切に活用できる技量を身に付けさせたい。 ・郷土の先覚である中江藤樹先生の教え（「致良知」や「五事を正す」など）を受け継ぐとともに、地域、家庭、学校のつながりをより一層深めることにより、地域とともにある学校づくりを推進し、「地域を愛する心」や「地域に貢献しようとする態度」を育てたい。 ・学校･地域連携カリキュラムに基づき、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進を図りたい。また、学校運営協議会委員をはじめ、地域の方々や関係団体等と生徒たちおよび教職員とが、互いに意見交流できる機会をできる限り多く設けていきたい。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式1）

令和4年度　学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立高島小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成	〈令和3年学校評価　概要〉 ○学力の定着[B]:読書活動の取組が十分でない:C62%(児)/28%(保)、授業がわかる:B95%(児)/77%(保)、 ○豊かな心の育成[B]:道徳の授業が生活のためになる:B92%(児)、児童の主体的な活動により、全校の課題解決に取り組ませた。 ○望ましい人間関係を土台にした生徒指導[A]:全校で集う機会は少なかったが、内容を工夫して集会を実施した。学校が楽しい:A91%(児)/85%(保)、コロナ禍の指導を通じて、児童のプライバシー保護の意識を高めた。学級の友達を大切にしたい:A98%(児) ○小中一貫教育の推進[A]:教職員の交流が十分でなかった。C53%(教員)	＜ 中期的【3年間】目標(1年目) ＞ ○「学ぶ力の向上」をめざし、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善を進める。 ○義務教育9年間の学びの土台となる基礎基本の習得を徹底し、主体的な学び方を身につける。 ○児童理解を深め、主体的体験的な活動を重視し、ふれあいを基調にした教育活動を進める。 ○多くの人との関りを通し、自分の個性や可能性を信じ、よりよく生きようとする「志の教育」を進める。 ○家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
【確かな学力の力点】 ●子どもを真ん中においた個別最適な学びと、協働的な学びになる授業改善 ●読書活動の活性化 ●特別支援教育の充実 ●自主学習の習慣を確立	中学校と一体となって授業研究やOJTに取り組み、思いを深め、達成感のある学びを実現する指導力の向上に取り組む　【月1回のOJTの実施100%（教師)】	第2ステージでの教科担任制の拡充に加えて、学園研究では小グループによる学び合いの授業改善を進めた【授業わかる　93.1%　/進んで質問　76.3%　/話合い、聴きあい　92.7%(いずれも児童)】【授業わかる　76.0%(保護者)】 若手教員間でOJTは見られたが、定例化はできなかった。	A	B	●本を読み終えた時の達成感を実感できるように、5分程度で読める図書を蔵書に加えてみると、意欲的でない児童にも取組みやすくなる。 ●高学年の読書を充実させるために、中学校図書室の開放日を設ける。また、蔵書が足りないのであれば、学校図書購入基金のようなものを創設してはどうか。 ●家庭学習として取組んだゆめノートは、学習した内容や過程を意識させる工夫が必要である。	●読書についてはさまざまな取り組みにより成果につながっている。 ●ゆめノートは親子ともに負担感を感じている。
	・朝読書の充実や、読書環境の整備を進め、読書に親しむ児童を増やす。【読書冊数目標到達70%(児)/50%(保)】	朝読書や図書館貸出カードのポイント制、お話の部屋の開設などの取組みにより、一定の成果が見られらた。【児童71.5%/保護者26.9%】	B			
	・ゆめノートを活用した家庭学習の充実に取り組む。 【家庭学習の時間を達成した児童が85%以上】	【家庭学習を頑張っているか82.7%(児童)/49.7%(保護者)/89.5%(教員)】	B			
【豊かな心の育成の力点】 ●自分事として生き方を見つめる道徳教育の推進 ●心を耕し、豊かな感性を磨く教育活動の展開 ●主体性を引き出す児童活動の推進	・他の教育活動と連携した道徳カリキュラム(別様)を着実に進め、日常に立ち返る道徳教育を進める。	年間計画に基づいて、道徳科の授業が丁寧に取組まれている。しかし、行事等との関連に弱さがある。【道徳の授業がためになる　95.2%(児	B	B	●コロナ禍前に実施されていたフルートやバイオリンの生演奏や、PTA主催芸術に触れるイベントの再開を期待する。 ●第2ステージでの、小中の生徒会活動が活発になれば、さらに小中一貫が進む。 ●インターネットリテラシーの育成はこれからの重要な教育課題である。タブレットの使い方を通じて指導を徹底する。	●少ない機会ではあったが、4年生のびわ湖ホール音楽鑑賞会に参加できたことはよかった。 ●今年度は縦割り活動の充実が保護者として感じ取れと充実できていた。
	・文化芸術に直に触れ、豊かな情操を養う。	4年生でびわ湖ホールの音楽鑑賞会の機会を設けることができた。	C			
	・中学校と連携した特別活動の活性化を図り、児童の主体性を引き出す活動に取り組むとともに、望ましいリーダーの育成を図る。 【学校生活の楽しさ:80%(児)/75%(保)】	児童会活動の活性化を図ることができた。 ・縦割り活動として、縦割り掃除や縦割り遊びを行った。 ・児童会代表委員会を定期的に開催し、児童の主体的な活動により、全校の問題解決に取り組ませた。【学校が楽しい　児童89.1%/保護者87.1%】 中学校の生徒会活動との連携は実現できなかった。	B			
【豊かな人間関係を結ぶ力を育成の力点】 ●相手の立場を尊重し、人権意識の高い、いじめを許さない集団づくり ●礼儀正しい節度ある生活態度(あいさつ、時間を守る、掃除)の育成	・コロナ感染予防をふまえた上で、児童集会や行事等を通 じて、友達や多様な人々との交流の機会を増やす。	児童が全校を意識する機会として、実施形態を工夫したり、リモートを取り入れたりしながら集会を催すことができた。【学校が楽しい89.1%/交流活動が楽しい90.8%(児童)】【学校が楽しい87.1%(保護者)】	A	A	●挨拶をはじめとして、児童生徒の明朗な活動が定着している。 ●挨拶だけでなく、状況に応じたコミュニケーション力を育成するために、多様な集団活動を工夫し、人と接する機会を増やす。 ●掃除をがんばっている児童が増えている。それを家庭でのお手伝いにつなげる取組があると、家庭との連携が深まる。	●友だちを大切にしたいと回答した児童が94%であったことは人権教育の成果である。 ●協働活動で学校を訪問すると、挨拶をしてくれる児童が増えた。
	・人権意識を高める指導に加えて、中学校と協働した児童　生徒の主体的な活動を通して、いじめ未然防止に取り組む【いじめがなく学校生活が楽しい95%(児)】	毎月の人権の日では、友だちを大切にする講話や、児童会目標の取組みにより、人権意識を高めた。【学級の友達を大切にしたい99.2%】【自分によいところがある83.1%】いじめの早期発見により、深刻ないじめの認知件数を減少できた。【いじめ認知件数　R4:3件　R3:6件、R2:14件】	A			
	・真面目で誠実に学校生活を過ごす態度を育成する。 【あいさつ、時間、そうじ85%以上(児童)】	会釈しながら挨拶できる児童が増えてきた。【あいさつ92.4%/そうじを頑張る94.0%　/係活動を頑張る　97.6%(児童)】	B			
【健康な心と体の育成の力点】 ●児童理解を土台にして、自己指導力の向上をめざす生徒指導の推進 ●命を大切にし、健康で安全な生活実現を目指し、行動できる資質能力の育成 ●基本的生活習慣の確立と食に関する　指導の充実	・生徒指導の3機能意識した教育活動を展開し、一人ひとりの児童に居場所がある学級づくりを進める。 【学校生活の楽しさ:80%(児)/75%(保)】(再掲)	【学校が楽しい89.1%(児童)/87.1%(保護者)】、【困っていることを話せる友人がいる　93.6%(児童)】との回答結果であるが、不登校や行きしぶり傾向の児童は減少していない。	A	B	●現行の基準に即した遊具の整備を進めるなど、屋外活動に興味を持たせる環境整備が必要である。 ●SDGsの一環として、フードロスや飢餓ゼロの学習などを進め、残食や給食についての学習を進める。 ●TV,PC、ゲームの時間がとても増え、コントロールできていない。PTAと連携した取り組みが必要である。 ●特定の支援が必要な児童には、個別の指導を進めながら、その他は全体で盛り上げる(意欲を高め	●担任に相談できる良好な関係がよくなっていると回答している児童が増えた結果が、いじめの認知件数を下げることになっているのであれば、評価できる。 ●子どもの運動離れ、体力低下への対策を検討する必要がある。
	・児童理解のための教育相談の機能を充実する。 【困っていることを先生に相談できる85%(児)】	いじめアンケートの実施や、教育相談の機会を通じて、丁寧な実態把握に努めている。【先生は相談しやすい　84.3%(児童)/80.7%(保護者)】	B			
	・真面目で誠実に学校生活を過ごす態度を育成する。 【あいさつ、時間、そうじ85%以上(児童)】(再掲)	【すすんでうがい手洗いをする　93.2%(児童)】	B			
	・残食0日数の増加に取り組む	各学級ごとの取組みはあったが、全校的な活動ができなかった。	C			
【小中一貫教育推進の力点】 ●小中合同授業研究会の充実 ●小中教員の交流指導による連続した指導の充実 【地域とともにある学校づくりの力点】 ●学校運営協議会と地域学校協働活動の連携 ●協働して地域全体で子どもの成長を支える風土の醸成	・　中学校と一体となって授業研究やOJTに取り組み、思いを深め、達成感のある学びを実現する指導力の向上に取り組む(再掲)	学習に児童相互の関わり合いを取り入れた『学び合いの学習』について、講師を招いて研修会を持った。【ペアやグループ活動を取り入れた授業84.2%(教員)】【教職員交流の充実　89.5%(教員)】	B	B	●学運協が小中一体となって活動機会を設けたことは評価できる。次は、コロナ対策が変わっていく中で、地域と学園とが交流を深めていくことが大切となる。 ●小中の児童生徒の交流が充実していると感じる。 ●年間を通じた活動内容を広報するなど、保護者世代へのボランティアの呼びかけを工夫する必要がある。 ●マラソン大会での中学生の役割分担を明確にするとよい。MY-City高島のプレゼン内容を充実させる必要がある。まだまだ小中学校の連携が弱い。	●小中学校が隣接している利点を最大限生かし、さまざまな教育活動が工夫されている。 ●協働活動が、保護者にはわかりにくいようである。
	・小中教員の交流授業を進め、小学校の教科担任制と中学校での複数指導の拡充を図る。	中学校での複数指導を拡充や、学園研究を通じて、交流の機会を増やすことができた。【教職員交流の充実　84.2%(教員)】　再掲	A			
	・学校運営協議会と協働し、地域学校協働活動を教育課程に位置け、開かれた教育課程の実現に取り組む	児童生徒の交流の機会を持つことができた。 ・MY-City高島、部活動体験、4・8交流、9年読み聞かせ、マラソン大会	B			
		地域学校協働本部では、活動の幅を拡げることができた。校地の除草ボランティア、朝の読書活動、お話会等の取組により文科大臣表彰受賞	A			
	・PTAと協働し、家書の推進に取り組む。(再掲)	【学校は相談しやすい　80.7%(保護者)】再掲 【学校のことがよくわかる　84.2%(保護者)】	B			

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・感染対策を踏まえて、学習や行事、集会を年間を通じて実施しており、子どもたちも多くの経験ができている。 ・学校運営協議会や地域学校協働本部、学校との連携協働は協議を重ね進めていく。 ・児童、保護者アンケート結果はともに、昨年度に比べて総じてよい評価となっていることから、学校全体として評価されていると思われる。次年度、コロナ対策の制限がなくなる中で、今年度の評価を活かした学校づくりが進むことを期待する。 ・子どもたちは、主体性をもって活動することにより、大人に対する信頼関係を築き、安定した学校生活に結びつくように思う。 ・高島町は大人しい土地柄で、穏やかで素直な子どもが多い。しかし、競争意識が弱いように思う。まだ余力があるように感じる子どもたち活力を引き出させるような取り組みを期待する。	B	●MY-City高島の取り組みを再検討する。 ●読書活動の更なる向上を目指し、ビブリオバトルを教育活動に取り入れたり、図書室の小中交流を行ったりして推進する。 ●SDGsを取り入れた給食指導を工夫する。 ●協働活動に保護者の参加が得られるよう、ボランティアの呼びかけを工夫する。

4段階評定(A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する)

（様式１）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立高島中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成	〈学校評価 概要〉 ○学力（B）…学校生活の充実（A）授業がわかる（A）学習意欲（B）家庭学習（C） ○豊かな心（A）…清掃活動（A）あいさつ（A）教員の熱意（A）学校生活の充実（A）道徳教育（A） ○健やかな身体（A）…行事･部活動（A）学校生活の充実（A） ○地域とともにある学校（A）…情報の公開･発信（A）地域貢献活動（A） ○小中一貫教育（B）…「子どもおよび学習のつながり」（B）生徒理解に基づいた生徒指導（A） ●学校関係者評価（B）	○「主体的、対話的で深い学び」を実現するカリキュラムマネジメントに基づく授業改善 ○学習規律および基礎基本の習得の徹底 ○道徳教育を基軸とした個性や可能性を最大限に伸ばす指導の充実 ○確かな生徒理解と組織的な生徒指導の充実 ○生徒の主体的で自律的な活動の充実 ○家庭･地域とともにある学校づくりの推進

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○学力の向上	学校生活が楽しく、充実していると感じる生徒 A B 評価で80%以上	I学期には83%、2学期には84%の生徒がAかB評価をしている。	A	B	①学校生活を通して、個々の良さを認め、伸ばすかかわり。 ②「学び合い」の手法を取り入れた授業を推進し、生徒と生徒をつなぎ、安心感のある学習環境づくり。 ③生徒の興味関心、学びの段階に寄り添い、個々の主体的な学び意欲を引き出す指導。	・家庭学習の時間に塾の時間が含まれないとのことであるが、塾へ行って家庭学習をする時間がとれ　　ない現状があるのではないか。家庭生活の仕方について検証する必要がある。家庭生活の時間の持ち方について、保護者と話し合う時間も持てるとよい。 ・「学校が楽しいか」に、「あてはまらない」と回答する生徒、「授業がわかりやすい」に「あてはまらない」と回答しているように感じる。学習意欲を高める授業へとさらに変わっていくことを期待する。 ・「学び合い」の学習を取り入れて、生徒の主体的な学びが引き出せるよう、次年度も研究を続けていただきたい。
	授業がわかりやすいと感じる生徒 A B 評価で80%以上	I学期には87%、2学期には89%の生徒がAかB評価をしている。	A			
	意欲的に学習に取り組めた生徒 A B 評価で80%以上	I学期には75%、2学期には82%の生徒がAかB評価をしており、増加傾向にあるといえる。	B			
	家庭学習に意欲的に取り組めた生徒（7年70分、8年80分、9年90分）　A B 評価で60%以上	I学期には49%、2学期には58%の生徒がAかB評価をしており、目標には及ばない。	C			
○豊かな心の育成	清掃活動に協力して頑張れる生徒 A B 評価で80%以上	I学期には90%、2学期には87%の生徒がAかB評価をしている。	A	A	①安心感のある学級、学年、学校、学園作り・・自分、そして、人を大事にする雰囲気を醸成し、思いやりのある豊かな心を育成。 ②一日の始まりを大切にする朝読書の推進。 ③生徒の主体性を伸ばす生徒指導。 生徒の良いところを伸ばす生徒指導。 ④家庭、地域、学校のつながりを深めるPTA活動、地域学校協働活動の推進。	・生徒のアンケートの結果がすべて「A」評価に達しているのは、とても良いことである。 ・「道徳の授業はためになる」と87%の生徒が回答していることに、とても安心した。 ・生徒はあいさつをしていると回答しているが、そうでない生徒もいるように感じる。なかなか初対面であいさつをするということは難しいことでもあり、顔見知りになって関係ができたら、生徒の方からあいさつをしてくれるかもしれない。生徒へのかかわりをもっと持っていきたいと感じる。 ・あいさつの仕方が子どもによって違う。声に出して「おはようございます」と言う子、頭を下げる子、笑顔で通り過ぎる子、それぞれの違いを認める教育が素晴らしいと感じる。 ・大溝城址の清掃活動や大溝マルシェを通して、生徒が地域に貢献する姿を多く見ることができた。学校を参観する機会が増え、生徒の成長を見ることができる一年だった。
	家庭、学校、地域でしっかり挨拶ができる生徒 A B 評価で80%以上	I学期、2学期ともに93%の生徒がAかB評価をしている。	A			
	時間が守れる生徒 A B 評価で80%以上	I学期には92%、2学期には95%の生徒がAかB評価をしている。	A			
	学校生活が楽しく、充実していると感じる生徒 A B 評価で80%以上	I学期には83%、2学期には84%の生徒がAかB評価をしている。	A			
	教員が親身になって質問や相談に応じてくれると感じている生徒 A B 評価で80%以上	I学期には88%、2学期には92%の生徒がAかB評価をしている。	A			
	道徳科の授業はためになると感じている生徒 A B 評価で80%以上	I学期には86%、2学期には87%の生徒がAかB評価をしている。	A			
○健やかな身体の育成	部活動に満足している生徒 A B 評価で80%以上	I学期には96%、2学期には81%の生徒がAかB評価をしている。	A	A	①他学年のつながりを深めること、特技や得意なことを認め合う集団作りを目指す部活動。 ②生徒会活動や学級活動を通して、自己有用感を高める。	・中学時代の部活動は大事な時間である。将来のためにも必要な時間であると感じる。他学年との交流は人間関係を学ぶ時間であることからも、とても貴重である。 ・二学期は評価が下がっているが、9年生が部活動を終了したので、このような結果になっている。
	学校生活が楽しく、充実していると感じる生徒 A B 評価で80%以上	I学期には83%、2学期には84%の生徒がAかB評価をしている。	A			
○開かれた、信頼される学校づくり	学校、学園情報を定期的に発信し、保護者や地域の人々の来校機会を数多く設定する。	I学期には93%、2学期には95%の保護者がAかB評価をしている。地域の人が日常的に来校し、学校目標の達成を意識して、自分たちができると考えることを主体的に提案されるようになった。コミュニティ･スクール文部科学大臣表彰受賞。	A	A	①学校教育への理解を図る学校だよりの配布とメール配信。 ②地域とともにある学校づくりのさらなる活性化を図る。 ③「学校地域連携カリキュラム」に基づく活動の推進。	・高島ならではの良さが生かされ、小中一貫教育が展開されている。高島学園の良さが、日々感じられる教育活動が見られる。 ・異学年交流が、様々なところで見られる。中学生が、小学生に丁寧にかかわっているところや、経験を語っているところは、とても意味のあることだと感じている。今後も続けてほしい。 ・小中学校が共に取り組んでいる、「学び合い」の学園研究はとても意味がある。小中学校の学びがつながれば、子どもたちの確かな学力となるだろう。
	地域住民と何らかの交流をする生徒 80%以上	自然体験、MyCityの座談会、大溝マルシェなどの行事的なことを通して生徒が地域の方と交流する機会が、大きく増加した。 朝読書を通して、コミュニティ･スクールの日常化が図れてきた。	A			
○小中一貫教育の推進	異年齢交流活動の充実	異年齢交流により、下学年生への思いやりや上学年生への信頼を高めた児童生徒が多かった。	A	A	①異学年・異年齢交流活動の充実 ②「学び合い」の研究発表	
	9学年に「学び合い」の学習スタイルを導入	「学び合い」の学習スタイルにより、子ども同士のつながりが深まりつつある。	B			

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・保護者のアンケートで気になる点がある。「よくわからない」と回答している保護者が多い。子どもへの関心がない、家庭での会話がないということなのかと心配する。I学期より、2学期の方が「わからない」という回答が増えているので不安である。多感な年ごろで難しい分、様々なかかわりが必要である。 ・学園協議会委員になるまで高島学園が、こんなにも地域に開かれている学校であったのを認識していなかった。一年間学校を見せていただいて、大変良い取組をされていることがわかりとても良かった。このことを多くの人に認識していただけるよう、広報することが課題だと感じる。また、小中一貫校であるという子の良さをもっともっと引き出し、充実させる必要がある。 ・開かれた信頼される学校づくりに向けて、工夫しながら新たな取り組みが進められたことに敬意を表する。 ・生徒が地域に出ていくことにより、学校の垣根が低くなる。地域とかかわれる活動が充実することを期待する。 ・学習参観の機会が増えたことにより、子どもの様子や学校の思いが理解できる一年であった。今後も子どもが見える機会を持っていただきたい。 ・様々な活動を進めるにあたって、生徒一人ひとりに出番と居場所があり、達成感や充実感が感じ取れる学校であってほしい。	A	・コミュニティ・スクールとしての教育活動を充実させる。地域学校協働活動推進委員と教職員の地域連携コーディネーターが取組の詳細を話し合い、多様な活動を実現させる。 ・地域の子どもたちのより良い成長を目指して、教育活動にかかわってくださる方が多くなった。学校がやるべきことを地域が担ってくださることもあり、学校の背中を押してくださっていて、ありがたいことだった。次年度は、地域連携カリキュラムをもとに年間通じて、取組を進めたいと考える。地域連携を担当する教職員だけではなく、学校全体で協働活動を推進していく体制を築く。 ・学園が一つとなって、開かれた学園となるよう、学園協議会として合同で行い、小中一貫教育をさらに推進する。 ・二年目となる学園研究の「学び合い」をさらに充実する。二年次として児童生徒の発達段階に即した学習課題の設定の研究を進めることになる。 ・小中一貫校として異学年交流を整理し、共に活動する機会を増やしたいと考えている。ステージ会議を充実させることによって、取組の充実を図る。 ・保護者と学校が連携し、互いに子ども理解を深め、より良い成長を目指す。そのためにPTAとの連携を深める。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

令和４年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立新旭南小学校

学校教育目標

かがやくひとみ　～自律できるたくましさを育む～

【目指す学校像】
◎笑顔で登校、笑顔で学び、笑顔で下校
○一人ひとりの居場所がある「安心」できる学校
○自分もやってみようと「意欲」がもてる学校
○子ども・教職員・家庭・地域
みんなで「協働」する学校

【めざす子ども像】
○考える子　学ぶ力の育成
○がんばる子　主体性の育成
○やさしい子　豊かな心の育成
○きたえる子　たくましい心身の育成

昨年度の評価概要

◎ **考える子：学ぶ力の育成　B**
基礎基本の定着（B）　学習規律、学習習慣の確立（C）　授業改善（B）　小中一貫教育（B）
◎ **がんばる子：主体性の育成　B**
個が生きる集団づくり（A）　豊かな人間性・社会性（B）　やり切る姿勢（C）
◎ **やさしい子：豊かな心の育成　B**
心を育てる道徳、人権教育（A）　特別支援教育の推進（B）　凡事徹底の学校風土（B）
◎ **きたえる子：たくましい心身の育成　B**
健康への意識の向上（B）　バランスの取れた体力（A）　安全を守る意識と実践力の向上（B）

中期的目標

◎学ぶ力の育成
○知的好奇心を高め、自主的、主体的に学ぶ態度を育成する。
◎豊かな心の育成
○『人と関わる力』を伸ばし、『気づく力』を身につけ『挑戦する力』『やり切る力』を育成する
◎たくましい心身の育成
○自分の体力の向上に関心を持つとともに、安全を確保することのできる知識・技能・態度を身に付けさせる
◎９年間を見通した小中一貫教育の推進、学校に対する地域の理解や関心を一層高める
◎授業力、学級経営力、課題対応力の向上を目指す活気のある教職員集団の構築

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	小項目	中項目	改善方策について	学校関係者評価
◇ 考える子：学ぶ力の育成 ◎ 基礎基本の定着 ○ 個別最適な学び ・個に応じた学習活動や学習課題の実施 ○ 協働的な学び ・ねらいを達成するために協働的な学びの実施	◎ 基礎基本の定着 個別最適な学び、協働的な学びの実現 ○ 授業で習ったことは理解している　90%以上 ○ わからないことを質問したり、聞いたりしている　90%以上 ○ 聞く、話すにより自分の考えを深めている　80%以上 ※ 意見を交流する場設定への自己評価　90%以上	○ 「学習理解度」の児童評価95%、保護者評価89%。「質問する、聞く」の児童評価81%、保護者評価87%であった。「考えを深める」の児童評価、保護者評価57%であり、児童と保護者の差が大きくなっている。 ○ 友だちや教師に分からない所を聞くなど、問題を解決しようとする姿も見られるが、聞けなくて困っている児童への対応が課題となっている。 ○ 「つなぐ」ことを意識した授業が協働的な学びにつながっている。	B	B	○ 基礎・基本の定着 ・ e-ライブラリーは、個別最適な学びを進める上で有効なツールとしてどの学年でも共通の使い方で活用していく。 ・ コミュニケーションの媒介としてのタブレットを活用する。個人で使う（使いこなす）から、みんなで有効に活用する活動に取り組む。 ○ 学習規律、学習習慣の確立 ・ 予習の充実、家庭学習週間の実施、授業とのつながりを意識する。 ・ 読書に力を入れる時間の設定（読み聞かせ以外、家庭読書週間）。 ・ 学習規律の徹底のため、学年部で共通したルールを決めていく。（授業開始の挨拶、発言のルール、聞く姿勢づくり等） ○ 子どもと創り上げる授業（授業改善） ・ 子どもを主語にした授業づくりをさらに進めるため、子どもが「読み解く力」を発揮しているかという視点で研究授業を行う。 ・ 他クラスの授業の様子を気軽に見に行ける環境づくり。 ○ 保幼小中+高一貫教育の取組の充実 ・ 保幼から小学校、小学校から中学校のつながりを意識する。 ・ 各校園の授業のへの思いの交流、０学期の取組の継続	○ 「書く」「聞く・話す」の指導の充実が求められている。ICT機器ではその力がつかないように思う。 ○ ICT機器をうまく活用し、さらにアクティブな授業にしてほしい。 ○ プレゼン能力、人に伝える力、自己表現力を高められるとよい。 ○ 本離れは気になるところである。引き続き授業の中で図書室の活用を続けて欲しい。読書の習慣をつけていく取組をお願いする。 ○ どの学年も落ち着いて学習できている。 ○ 板書によって、１時間の学習の流れがわかる。また、児童の思考を助けている。引き続きていねいな板書をお願いする。 ○ わからない子、積みあがっていない子どもたちへの配慮は必要である。取り組んでいると思うが、引き続き努力してほしい。 ○ 「できた」「わかった」はゴールでなく、次の「スタート」とする。そのことが意欲であり、主体性につながる。 ○ 音楽はさびだけを聞く、映画は倍速で見る。結果を先に知りたいという児童も多い。じっくり読む、考えることを大切にしたい。 ○ 機関紙で小中一貫教育の様々な取組を知った。もっと早い段階での発行を望む。保護者、地域へのアピール不足を感じている。
◎ 学習規律、学習習慣の確立 ○ 学習環境の整備 ○ 「学習の約束」の定期的な見直しと徹底 ○ 家庭学習、読書活動の充実	◎ 学習規律、学習習慣の確立 ○ 進んで宿題や家庭学習をしている　90%以上 ○ 自分から進んで本をよんでいる　90%以上 ※ 学習環境整備への自己評価　90%以上	○ 「家庭学習」の児童評価は81%（9ポイント減）、保護者評価は85%。「読書」の児童評価は71%（6ポイント増）であり、読書活動への取組の成果が出始めている。保護者の読書への声掛けは少ない現状がある。 ○ 学習規律は概ね身についているが、学びに向かう姿勢に課題がある。	B			
◎ 子どもと創り上げる授業（授業改善） ○ 魅力ある学習課題、導入、発問の工夫 ○ 子どもと子どもをつなぐ支援の充実 ○ 聴き合う教室による「伝え合う力」の向上 ○ 「読み解く力」の育成	◎ 子どもと創り上げる授業（授業改善） ※ 授業改善への自己評価　90%以上 ※ 聴き合う教室の実現への自己評価　90%以上 ※ つなぐ役割の実践への自己評価　90%以上 ※ 「読み解く力」の育成への自己評価　80%以上	○ 「子どもと子どもをつなぐ」という方向性を共有しながら授業改善を進めるとともに、学習内容のつながりを意識して学習計画を立ててきたことにより、子どもと創り上げる授業への取組は進んでいるが、実践の結果が見えにくいこともあり、職員の自己評価は低くなっている。 ○ 「読み解く力」の育成がまだ十分とは言えない。	B			
◎ 保幼小中+高一貫教育の取組の充実 つながり、１５の育ちを意識した取組の推進	◎ 保幼小中+高一貫教育の取組の充実 ※ 保育・授業統一公開日を軸とした共同授業研究システムの推進	○ 小学校でどのような授業づくりをして、それを生かして中学校でどのような授業をするか等の議論が十分ではない。	B			
◇ がんばる子：主体性の育成 ◎ 「個」が生きる「集団」づくり（特別活動） ○ 「Ｉ」を伸ばす：自己肯定感を育む ・自分の中にある能力に気づき、伸ばす ○ 「Ｗｅ」の世界を広げる：共感力を育む ・関わりの中で自分の中の優しさを伸ばす	◎ 「個」が生きる「集団」づくり 「Ｉ」を伸ばす：自己肯定感を育む ○ 自分には良いところがある　90%以上 「Ｗｅ」の世界を広げる：共感力を育む ○ 学校で笑顔で過ごしている　90%以上 ○ 考え、思いを仲間に聞いてもらえている　90%以上	○ 「よいところがある」へ児童評価は82%、「笑顔で過ごす」への評価は94%で（6ポイント増）、「思い・考えを聞いてもらえる」への評価は90%であり、自己肯定感、共感力が育まれていると思われる。 ○ 児童の良さ、得意なところを伸ばすことへの意識、特別活動で全ての児童に活躍場面を与える等、「個」が生きる「集団」づくりの成果が出てきている。	A	A	○ 個が生きる集団づくり ・ 見本となるような声かけを根気強く行い、自信につなげていく。 ・ 係活動によってよりよい学級をつくる（学級を変える）、委員会活動によってよりよい学校をつくることを児童とともに考える。 ○ 豊かな人間性、社会性を育む（キャリア教育） ・ 今学んでいることが将来につながっていることを理解できる授業。 ・ 体験活動、地域の大人から学ぶ時間の充実。 ・ クラブ活動や委員会活動が児童の主体的な活動になるよう、育む力、つけたい力を整理する。 ○ やり切る姿勢（やり抜く力）を伸ばす ・ めあての達成具合を確かめる時間をとる。振り返り、自分ががんばった（いる）ことを自覚させていく。 ・ 自分で決められる（自己決定）の場を大切にする。	○ 登校班も1つの集団である。５、６年生がリーダーになれていない。与えられた役割をしっかり果たす責任感を育てて欲しい。 ○ マスク生活によって、大きな声を出せない、表情、雰囲気がよめない等自分の気持ちも伝えにくく、相手の気持ちもわからない面があったように思う。コミュニケーションのいろいろな方法を学ばせたい。 ○ 子どもたちの前向きな姿を多く見ることができた。学校の日常を大切にして、それぞれの個を生かしてほしい。 ○ 異年齢交流によって、子どもたちの意識を変えることができると思う。 ○ ほめてもらったり認めてもらったりした経験は強い。子どもたちのがんばりを認める姿勢は大切にしたい。 ○ 「笑顔で過ごす」「協力する」の児童評価が高いことがうれしい、仲間意識の高まりを感じる。
◎ 豊かな人間性、社会性を育む（キャリア教育） ○ 所属意識、自尊感情、自己有用感を育む ・集団の中で自分を生かす意識を高める ・認め合い、高め合う集団を育てる	◎ 豊かな人間性、社会性を育む ○ 将来の夢や目標を持っている　90%以上 ○ マイクラススローガンの達成に向け取り組んでいる　90%以上 ○ 協力し、何かをやりとげうれしかったことがある　90%以上	○ 「将来の夢や目標」への児童評価は87%（2ポイント増） ○ 「マイクラススローガン」への児童評価は90%、「協力してやり遂げる楽しさ」への評価は94%であり、集団を意識している児童が多い。 ○ お互いの良さを認めたり、自分たちで考えたりする姿が多くなった。	B			
◎ やり切る姿勢（やり抜く力）を伸ばす ○ チャレンジ精神を高める ○ めあてをもって努力し続ける力の育成	◎ やり切る姿勢（やり抜く力）を伸ばす ○ 最後まであきらめずにがんばっている　90%以上 ※ 活動意欲を育む場づくりへの自己評価　90%以上	○ 「努力」への児童評価は91%（2ポイント減） ○ めあてを意識させたり、振り返りを大切にしたりすることで、児童の活動意は高まっているが、ゴールの姿をイメージできない児童もいる。	A			
◇ やさしい子：豊かな心の育成 ◎ 互いの違いを認める心の育成（人権教育） ◎ 思いやりの心を育む（道徳教育） ○ 相手の気持ちに寄り添う心（共感力）を育み、励まし合う関係づくりに努める	◎ 互いの違いを認める心の育成（人権教育） ◎ 思いやりの心を育む（道徳教育） ○ 友だちのことを考えて行動している　90%以上 ○ 励ましたり、応援したり、みんなと協力している　90%以上	○ 「友達のことを考えて行動する」への児評価童は97%（2ポイント増）「協力」への評価は95%。思いやり、励まし合う関係が育っている。 ○ 「思いやり」への保護者は働きかけは96%で、保護者の意識も高い。 ○ 教師の児童の気持ちに寄り添った対応をしたり言葉がけをしたりしている姿勢が児童のよい手本となっていると思われる。	A	B	○ 互いの違いを認める心、思いやりの心を育む ・ 道徳を核とした学級経営に努める。 ・ 児童の発言や行動に敏感になり、児童の人権意識を高めていく重要な存在であることを引き続き意識していく。 ○ 特別でない特別支援教育の推進 ・ 通級指導教室が設置されている利点を生かし、児童への支援について学び合い、高め合う。 ・ チェックリストにあがった児童について支援体制を整える。 ○ 凡事徹底の学校風土の構築 ・ 当たり前のことを当たり前にできる力を育むため、その意義を理解させ、同じ姿勢で、指導しきる。	○ ウクライナ侵攻など、言葉だけ、映像だけが話題になり。深く考えることなく忘れていくように思う。学校の日常を大切にし、その中で自分と友だちの命の大切さを伝えていってほしい。 ○ いじめについては常に敏感であって欲しい。 ○ 子どもたちはいろんな人と一緒に活動することで、視野を広げていく。道徳にも地域人材の活用は可能であると思う。 ○ ケンカをした等々、それぞれの言い分をしっかり聞き、当事者、周りで見ていた子どもたちと共有し、考えていくことも大切である。 ○ ルールを守る意識は高まっているのだろうか。登下校の様子を見ていると教師の目がないと守れない状況のように感じる。きまりが何のためにあり、守ることの大切さを考えさせたい。
◎ 特別でない特別支援教育の推進 ○ 不公平感を感じさせず、周りの子への配慮を忘れず、対応を教えていく（支援者を育てる）	◎ 特別でない特別支援教育の推進 ※ 個別の支援計画の活用への自己評価　90%以上 ※ 教育支援委員会の充実への自己評価　90%以上	○ 巡回相談を活用し、支援が必要な児童への支援につながっている。 ○ 個別の支援計画はあまり活用できていない。 ○ 保護者と相談しながら進められていないことが課題である。	B			
◎ 凡事徹底の学校風土の構築 ○ 児童と「当たり前」の共有 ○ 学校、家庭、地域と「当たり前」の共有	◎ 凡事徹底の学校風土の構築 ○ 学校の決まりを守って生活している　90%以上 ○ 友だち、先生に進んであいさつをしている　90%以上	○ 「きまりを守る」の児童評価は97%、保護者の働きかけは97%、「あいさつ」の児童評価は90%、保護者の働きかけは96%であり、当たり前にできるように粘り強く取り組んできた成果が出てきた。	B			
◇ きたえる子：たくましい心身の育成 ◎ 健康への意識向上 ○ 基本的生活習慣の確立 ○ 食育の充実	◎ 健康への意識向上 ○ 早寝、早起き、朝ごはんの生活リズムができている　90%以上 ○ 健康に気をつけて生活している　90%以上 ※ 健康、食に関する指導への自己評価　90%以上	○ 「生活リズム」の児童評価は81%、「健康・安全」の児童評価は94%。保護者の働きかけは「生活リズム」94%、「健康」99%であり「健康」への保護者の意識の高まりが見られたが、学校との連携不足があった。 ○ 過程、地域と連携した取組を充実させていく必要がある。	B	B	○ 健康への意識向上 ・ 健康の基本となる生活習慣を、自ら進んで見直すことができるように気付かせる指導を心がける。 ・ 保護者への啓発、連携の手立てを考え、実行する。 ○ バランスのとれた体力の育成 ・ 「できた」を重視するのではなく、「どうしたらできるようになるか」を考えたり、教え合ったりする授業づくり。 ・ 体力テストの結果を生かす取組を考え、実施する。 ○ 安全を守る意識と実践力の向上 危機回避能力を育てる安全教育を地域、保護者と連携して実施する。	○ 家族であってもそれぞれがそれぞれに思うように過ごしている、自分の部屋があるため、生活リズムは親は把握していないように思う。 ○ 保護者への啓発は継続してほしい。 ○ 運動能力の二極化だけでなく、意欲や姿勢の二極化もあるとスポ少の指導者が言っていた。チャレンジする姿勢を育てたい。 ○ 体力の低下は気になる。準備運動だけで疲れてしまう子もいると聞く。学校だけでなく、家庭と地域の連携が必要だと思う。 ○ 集団登校が年々ひどくなってきている。年度当初は良いのだが。安全へ意識のなさが気になる。
◎ バランスのとれた体力の育成 ○ 魅力ある体育授業（授業改善） ○ 運動に親しむ環境づくり	◎ バランスのとれた体力の育成 ○ 外で遊んだり、進んで運動したりしている　90%以上 ※ 体育授業、体育的行事の工夫へ自己評価　90%以上	○ 「運動への親しみ」の児童評価は85%（6ポイント減）、保護者の働きかけは83%であり、保護者の関心の高まりが見られた。 ○ カードやタブレットを効果的に活用することが児童の意欲につながった。	B			
◎ 安全を守る意識と実践力の向上 ○ 安全な学校を目指した教育課程の編成	◎ 安全を守る意識と実践力の向上 ○ 非常時の行動についてわかっている　90%以上 ※ 教師の危機管理意識の向上　90%以上	○ 「非常時の適切な行動」の児童評価は96%、保護者の働きかけは99%であり、危機管理意識は非常に高い。登下校が改善されておらず、学校、家庭、地域と連携した安全教育の取組が今後の課題となる。	C			
◇ 教職員の教育力を高める ◎ 学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ○ 学校運営参画意識の向上 ○ ＯＪＴ研修の充実（多様で多面なＯＪＴ）	◎ 学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ○ 意見やアイディアを学校運営に生かすことへの自己評価　90%以上 ○ ＯＪＴ研修の充実への自己評価　90%以上 90%以上	○ それぞれの思いを交流する姿が多く、目的をしっかりもった提案が多くあり、児童の学校行事等への前向きな姿につながっていた。 ○ 職員主体のOJT研修が実施され、日頃の工夫が共有され、学びあえた。 ○ 時間的な余裕が必要である。	A	A	○ 教職員の教育力を高める ・ 自己目標シート、学校評価は、資質向上につながっていること、組織力向上につながることを意識する。 ・ OJT研修の充実、活発化のための環境整備。 ・ 相談しやすい職員室を維持する。 ・ 教務部会を充実させ、気になる児童の今後の対応について話し合う機会を定期的につくる。	○ 熟議で先生方と何度か話したが、明るさがあり、活気がある。とてもよい雰囲気があり、安心している。 ○ 先生方のチャレンジ精神を高めて欲しい。できないから、自分が教えられないから等、自分の力量以上のことをしていないように感じることもある。去年よりステップアップ、子どもも教師もそうあって欲しい。
◎ 「チーム」で勝負する教職員集団 ○ 組織対応力の向上 ○ 学び合い、高め合う職員室	◎ 「チーム」で勝負する教職員集団 ○ 安心できる学級、学校づくりに取り組んでいる　90%以上 ※ 相談、交流、伝承のある職員室への自己評価　90%以上	○ 毎週の打ち合わせ等によって、自学級以外の児童についても理解を深めることができた。普段から、授業、児童理解等について話せる雰囲気があり、安心できる材料になっている。	A			
◇ 地域とともにある学校づくり ◎ 協働、相互参画による教育活動の充実 ○ 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体化 ○ 学校・地域連携カリキュラムの作成	◎ 協働、相互参画による教育活動の充実 ※ 教育課題への取組をともに考え実行する体制づくり ※ 学校・地域連携カリキュラムの作成と実行	○ 学校運営協議会や夢の会サポート会議等、地域とともに学校をつくっていく雰囲気は醸成されている。 ○ 学校・地域連携カリキュラムの作成を通して、１年間の見通しや地域の方に協力してほしいことなど、じっくり考えることができた。	A	A	○ 地域とともにある学校づくり ・ 学校運営協議会の開催の形や熟議のテーマを工夫し、教育課題への取組をともに考え、実行、発信する体制を充実させる。 ・ 学校・地域連携カリキュラムを実践し、学校運営協議会での熟議の中でブラッシュアップしていく。 ・ 学校教育目標、めざす子どもの姿の保護者、地域との共有。 ・ 保護者の気持ちに寄り添いながら、子どもの思い、保護者の思い、学校が進めていきたい方向をすり合わせるように努める。	○ 学校が元気になると地域も元気になる。学校と一緒に子どものことを考える学校運営協議会でありたい。 ○ みんなとならできる。子どものために良いと思うことを一緒にできる。そんな雰囲気ができつつある。 ○ 登校中、子どもたちが担任の先生の自慢話をよくしている。先生方と子どもたちの関係が良いことに安心感がある。 ○ 保護者からも「ここまでしてくれた」と聞くことがあった。信頼関係があることが伺える。
◎ 「聴く」「対話」による信頼関係の構築 ○ 学校教育目標、めざす子ども像の共有 ○ 相談しやすい学校	◎ 「聴く」「対話」による信頼関係の構築 ○ わかりやすく情報を提供している　90%以上 ○ 一人ひとりを理解し大切にしている　90%以上 ○ 学校や担任に相談しやすい　90%以上	○ 「教師、学校の対応」への児童評価、保護者評価共に、全ての項目で90%以上の好意的なものとなった。引き続き信頼感を高めたい。 ○ 児童や保護者の多様な背景に配慮し、学校としてどのようにできるかを考える風潮が固まってきた。	A			

	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者評価	○ アンケートで「あまり」と答えている箇所に注意が必要。良さ、得意なことを生かす等それぞれに活躍できる学校を目指してほしい。 ○ 見てもらっていることが実感できる環境により、子どもたちは安心し、自分を出し、そして、自信と意欲を持つ。子どもとの良い関係づくりを基本として、一人ひとりを大切にする学校であってほしい。 ○ 児童、保護者のアンケートの結果もよく、今の取組を継続するとともに、新しい発想で新たな取組も実施してほしい。学校経営の方針として大切にされている「自己有用感」「共感力」の育成は、人間形成の土台となる。めざす子ども像の育成に共に励みたい。 ○ 児童と教師の間で評価の相違があることは、先生方の向上心の表れと思われるので、教職員の質が高いと評価している。 ○ 学校地域連携カリキュラムの実施等、さらに連携して取り組んでいきたい。	B	○ わかる、できる、考える楽しさが味わえる全員参加の授業をめざす。家庭学習と授業の接続、基礎基本の定着、自主的・主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、魅力ある課題設定、本物から学ぶ体験活動を重視し、児童の知的好奇心を高めていく。また、子どもと子どもをつなぐ場面を工夫し、聴き合う教室を通して、自己表現力、伝え合う力を育み、読み解く力の育成につなげる。 ○ 豊かな言葉かけができる児童、将来の夢や希望を語れる児童を育てるため、安心して挑戦できる環境を重視する。自分も友達も大切にできる人間関係の基盤づくり、凡事徹底の学校風土の構築を引き続き重視していく。登下校指導を通して上学年の自尊感情の育みとリーダー性の伸長を図る。そのためにも子どもたちの姿を看取って、機会を捉えてそのがんばりを認めていくことに努める。 ○ 「学校・家庭・地域がつながり、地域の宝である子どもを守り育てる」ために、「めざす子どもの姿」を学校、保護者、地域で共有するとともに、学校地域連携カリキュラムを実践し、地域人材、地域素材を生かした教育活動をさらに充実させる。 ○ 「学び続ける教員像の確立」を学校経営に位置付け、組織対応力の向上、保護者、地域との信頼関係の構築に努める。また、これまでの取り組みを発展させるために「学校運営への参画意識」の向上を図る。

（様式1）

令和4年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立新旭北小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
「自ら考え 変化に挑む子」の育成 “新たな課題に向かい、 アイデアを出し合い、高め合い、 支え合う子ども”	○人権・いじめについては、教員のぶれない姿勢が大事である。高島市の図書館貸出・利用率が著しく低下するなか、読んでいる本がいつも手元にある。静かな読書の時間の確保が必須である。 ○タブレットを活用しながらも「書く」活動をおろそかにしない工夫を図り、中学校の学習に耐える基盤をつくる（長文が読める、読もうとする）、「自分の思いを出せる、他人の意見を聞ける」が学習の基盤にある。 よう期待している。 ○体力低下が喫緊の課題であるなか体育の宿題が継続できなかったのは残念である。中学校の部活動の全加入制が廃止となるなか、小学生のうちに運動部へ入ろうとする意識づけが必要、耐性の欠如を克服するためにも。あゆみを可視化するなど意欲を持たせる取組が必要である。 ○新しい協働活動で「主体的な学び」と「郷土愛の育ち」に期待する。よりよい集団づくりのためのリーダー性も育てたい。地域住民と教員との距離を縮めて活動がより有効なものにしたい。	・豊かな人間性、社会性の育成と学力向上 （生活習慣・学習習慣の確立） ・教員の授業力の向上 （授業改善と個に応じた指導） ・地域とともにある学校づくりをめざす （学校運営協議会 地域学校協働本部）

評価項目（指導力点）	指標:到達目標(成果指標・取組指標)数字:評価肯定率	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
◎やさしい子 ●思いやりのある、差別やいじめのない学校づくり（たてわり活動・あいさつ運動） ●読書活動の充実（家読、読み聞かせ） ●保護者との対話、きめ細かな個別対応 ●基本的な生活習慣と行動様式を身に付け、時と場に応じて行動できる子	よりよい集団づくりに努め、仲間はずれやいじめをしない、許さない。100	児童情報の共有に努めた。「いじめ・仲間外れしない」(児)96%、「友達を支える雰囲気がある」(保)88%-?9%。「いじめに組織対応している」(教)100%。児童・保護者との対話に心がけ、いじめの定義に沿った積極的な認知に努めている。	B	B	子ども主体のいじめをなくす活動や目標の設定。「人権の日」や「人権月間」での放送の徹底。ぽっかぽか集会で児童の意識を高める。	○タテのつながりが弱くなった。たてわり掃除等を復活させ、高学年の自覚を高め、登下校等の場面で低学年の面倒をみるのが当たり前の雰囲気をつくるべきである。 ○タブレットに頼りすぎない。図書の有効活用を、せっかくの宝を十分に生かしきれていない。学級文庫の積極的な入れ替え、すきま時間の読書を全学年で徹底する。読書の時間はみんなが静かに読書をするを徹底。
	読書指導により読書活動を推進し、進んで読書をする子の育成に努める。80	図書室ボランティアによる環境整備を継続中。「ふだんから読書活動に取り組んでいる」(児)64%(保)46%「読書指導に工夫」(教)67%。少し向上はしているものの全般的に低迷している。意識向上には、読み聞かせの活動を再開したことも影響している。	C		朝読書は全員静かに読書をさせる。教科関連図書コーナーを図書室に設置。学級文庫におすすめめ本を。「松・竹」で交換して入れ替え、活性化する。	
	相談・連絡しやすい学校づくりに努める。100	「困ったことを友達・先生に相談できる」(児)92%「担任や学校に相談できる」(保)92%-?1%。些細なことであってもその日のうちに保護者に連絡をとるように各担任は心がけており、相談がしやすい状況には向上が見られる。	B		いじめアンケート・SOSアンケートの実用性を上げる。「連絡・懇談の希望」欄を設け、教員が積極的に保護者との対話に努め、情報を引き出す。	
	言語環境を整え、時と場に応じた言葉遣いをする。進んであいさつと素直な返事をする。80	「適切な言葉遣いができている」(児)90%(教)77%。「自分からあいさつができた」(児)86%(保)72%(教)指導している92%、意識に差があるが、どの数値は向上している。言葉の使い分けができていない子が目立つ。登下校時の挨拶に課題がある。	B		キャプテン委員会等、児童主体の活動を継続・定例化する。言葉の使い分け等を子どもどうしで注意し合える雰囲気をつくる。教師から進んで挨拶。	
◎かしこい子 ●学習規律を整え、秩序を大切にした授業づくり ●ペアやグループで主体的に学び合う言語活動の充実 ●「読み解く力」を重点においた授業づくり ●ICTを活用した学び方改革 ●授業とつながる家庭学習 ●郷土の良さを知る学習（藤本太郎兵衛、針江かばた、高島晒）	学年に応じた学習規律を身につけ、「話す」「聞く」のマナーの確立を図る。80	「学年に応じた学習規律の徹底が図れている」(教)85%。「姿勢・聞く態度が身についている」(児)87%。意識に格差がある。「グー・ペタ・ピン」といった姿勢の合言葉を用いて多くの学年で啓発している。どのように相手に伝えるか、語彙の乏しさを感じる。	B	B	4月初めにボランティアの方に教室に入ってもらい、学習規律を身につける。「靴箱への入れ方、トイレのスリッパ、上靴のかかとを踏まない」等の徹底。	○「聞く」「書く」の弱さを感じる。どの学年でも文字を大切にし、タブレット活用の良さと弊害を協議する場も必要。(長文が読める、読もうとする、自分の思いを出せる、他人の意見を聞ける、を大切に。指導者も板書を大切にする。担任の文字によって児童の文字が変わる。 ○「学習のきまり」が徹底できていない。項目が多いものよりも簡素化して徹底できることが大切。全校共通してどの学年においても取り組む。授業の始まり・終わりを明確にして45分間の確保をする。毎時間にチャイムがあってもいい（中学校につながる）
	言語活動を充実し、読み解く・考えを深める活動を通して、児童が主体的に学べるよう学習方法を工夫する。80	「理解できている子が8割以上」(教)-国67算58%。「理解している」国-(児)94%(保)91%・算-(児)87%(保)90%「少人数指導や複数指導・教科担任制の効果」(教)92%(児)90%。児童・保護者の数値の変化は少ないが、教員の数値が低下した。	C		タブレットに頼ることなく、辞書の活用を見直すとともに、調べる本などを活用するため図書室を有効利用する。	
	内容を工夫して、家庭学習を学年×10分（1・2年生は30分間）行い、学習の定着を図る。80	「家の勉強をしっかりしている」(児)83%(保)71%。「家庭学習がんばり週間が有意義」(児)80%(保)66%…とくに自主学習への取り組み方について困っている面があり、時間だけを目標にするのでなく、質を向上させたい願いを伝える評価もあった。	B		自主学習ノートで学習した様子や家読で読んだ本をタブレット撮影で提出して、お互いに見られることで刺激を与える。	
	楽しい・わかる授業を心がけ、個別の能力を見とり、一人ひとりを伸ばす学習に努める。80	「授業改善に取り組めた」(教)77%。「話し合いで考えを深めた」(児)84%。「自分の考えを出せた」(児)87%。授業改善にかかる意識は低下している。ICT機器のより効果的な活用や、使う場面・使わない場面を考えた学習の組み合わせも必要。	B		今年度に教育センター指導主事から学んだことを継続して取り組む。児童がレベルや関心に応じて自分で選んで学習できる選択肢を提示する。	
	郷土への認識を深め、さらに知りたくなるような郷土愛が育つ学習を仕組む。80	「総合的な学習の時間は地域の実情を生かし、探求的な活動を展開できた」(教)91%。「物事に根気強く取り組んだ」(児)87%(保)75%。地域学校協働活動に取り組んだことが教員の意識を大きく向上させている。全教科に課題解決学習を展開する意識が必要。	B		地域連携カリキュラムを有効活用し、学年の系統を考えた取組を。地域の良さを感じる活動で郷土愛を育て、愛鳥の森活動のような継続的取組を。	
◎強くたくましい子 ●体力アップ強化週間等、運動能力向上の全校的な取組(なわとび・マラソン等の取組) ●食育を通した健康な体づくり・「早寝早起き朝ご飯」の推進 ●遊びを通した仲間づくりと体力づくり ●安全に対する意識の高揚、感染症から身を守る行動様式の徹底"	外遊び・集団遊びを推進し、『体力アップ週間』を設定し、児童の体力向上に積極的に取り組む。80	各学級でみんな遊び(外遊び)の機会を定期的に設けた。冬は縄跳びの練習に熱心に取り組む児童が多い。運動会の延期によりマラソンへの取組が短期間に終わってしまったが、自主的にランニングをする児童も見られた。	B	C	運動志向の二極化改善のため、みんな遊びを継続、係活動で活性化させる。なわとび等の技を動画に残し、学年を超えて共有し、運動意欲を刺激する。	○大人がスマホに依存する現状を認識しながらも根気強く啓発を続ける。就寝時刻や就寝前の過ごし方が次の日の活動に影響を与える。 ○みんな遊びを継続、委員会活動等を調整して全員参加とすることが望ましい。体を動かすことの大きなきっかけとなる。 ○子どもの安全への意識が低くなりつつある。教職員の登下校指導を復活させることが有意義な啓発となり意識が向上する。
	「早寝早起き朝ご飯」を推進する。80（朝ご飯の摂取率は100）	「早寝早起き朝ご飯の生活リズムがついている」(児)82%(保)86%(教)77%…家庭と学校の意識の格差がある。生活のリズム、とくに就寝時刻が遅い子が、集団での登校ができなかったり、朝のスタートが気持ちよく始められない傾向にある。	B		睡眠学習等を通じて、よりよい質の睡眠を啓発をする。朝から学習に臨める生活リズムを目指し、就寝前の過ごし方を家庭へ呼びかける。	
	スマホ・ゲーム・テレビは家で決められた時間内を守る。スクリーンとの適正な付き合い方を身に付ける。80	「ゲーム等決められた時間を守れている」(児)86%。「テレビ・ゲームの時間を決めている」(保)77%。約束事を決める家庭の割合は向上している。長時間使用に困る一方で、約束事が不要の家庭もあり、差が激しい。個人タブレットに依存する姿もある。	C		「○時間まで」よりも「○時まで」でタイムマネジメント能力が高まる。紙面でなくひびきあい活動の復活により、親同士が困りごとを出し合える場を設ける。	
	交通安全に気をつけた行動を身につける。感染症対策を徹底し、正しい行動を定着させる。90	「交通安全・校内安全が図れている」(教)100%「ルールを守って登下校できる」(児)95%。「感染症対策・行動ができている」(教)92%(児)93%。肯定率は高いが、安全を過信した現状があり、危機感が乏しい。規律ある集団登下校ができない状況もある。	C		廊下歩行の徹底、委員会活動等子どもどうしの呼びかけを。月に1回程度の教職員による登下校指導を復活。正しい手洗いの指導を徹底。(手洗いの曲)	
◎つながり響き合う教育 ●ヨコのつながり(地域と学校が一体となって子どもを育てる意識の醸成・地域住民の学校運営への参画) ●未来とのつながり(将来を見据えた教育活動の展開・社会や団体への貢献を感じる活動の展開) ●タテのつながり(湖西中学校区での『学び合い』に視点を当てた授業・保育交流の推進)	学校運営協議会と「北小希望の会」による地域とともにある学校づくりを推進する。100	「学運協・希望の会の活動を理解している」(教)100%。学校運営協議会へ参加したことで教職員の意識は向上した。地域学校協働本部と「北小希望の会」(ボランティア組織)の活動がますます充実し、高学年の協働活動でも多くのサポーターに助けていただいた。	B	B	教員の認識を高めるため地域住民と懇談する場を持ち、お互いに思いを伝えやすい関係をつくる。子どもたちも積極的に住民と交流する意識付けをする。	○地域学校協働活動はとても有意義であり、子どもが大きく成長した。地域住民だけに任せるのでなく保護者も手を出し過ぎずに（めざす子ども像を共有して）かかわるシステムが求められる。 ○8月予定の地域住民懇談会が中止、あのような場こそ大切で、次年度は必ず実現を。 ○体験入学や園小交流活動は双方にメリットがある。子どもが成長する場面を復活させる。 ○地域学校協働活動などの子どもの様子がもっと発信されたほうがいい。ホームページ「学校生活」のページが何もないは残念。
	社会・集団への貢献を自覚する活動に取り組み、キャリアパスポートの活用により自分の未来を描く。80	「たてわり活動は有意義である」(教)83%(児)82%。「特別活動は児童が自主的に行う」(教)92%。「係・委員会活動はみんなのために工夫できている」(児)87%。たてわり活動(掃除を含む)の機会が少なかったが、運動会等の取組で連帯感を高めた。	C		高学年が下学年に働きかけ活躍することで、あこがれの存在になる場の創設。定期的にふりかえるｷｬﾘｱﾊﾟｽﾎﾟｰﾄに。生活科ファイルは2年間通じて使用。	
	湖西中学校区保幼小中一貫教育を推進する。100	湖西中学区で研究大会を開催したことで、6年生児童にとっては有意義な取組となったが、「有意義に感じ、積極的に取り組んでいる」(教)71%と意識は低下した。積極的な取組ができた自覚が低くなった感がある。各校園とともに改善点を検討すべき。	B		南・北グループとなり5校園の交流、一体感が減退した。中学校教員の出前授業は継続しつつ、中学校区で全体で取り組む意識が向上できるシステムに。	
	タイムリーで分かりやすい学校情報を発信する。100	「情報発信に努めている」(教)100%。「学校の様子を知るのに役立っている」(保)97%。学校・学年・学級だよりで学校の様子の発信には努めたが感染症の影響で学習参観を取りやめるなど、保護者に子どもの姿を見てもらう機会が保障できなかった。	B		紙だけにこだわらない発信の方法を考える。(SNS等で拡散しないよう情報モラルの啓発も必要）保護者や地域の声も収集して紹介できるような方策も。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○5.6年生の総合的な学習の時間で展開した地域学校協働活動はオリジナルな取組であり高く評価できる。子どもをほめる機会を多く生み出せること、「やればできる」ということを身をもって実感できる良さを大切にして発展させ、ますます自主性を育てていきたい。 ○何のためにその活動をするのかを十分に考えさせ、高学年の登下校のリーダーシップを高め、あいさつ運動等に取り組ませることが必要である。4年生の愛鳥の森への1年生招待や九九道場における6年生の指導等でたてわり活動の活性化につながる役割を持たせることで、自分に自信を持たせたい。 ○タブレットの使い方や学習時間と休み時間のメリハリをどの学年でも徹底することにより、誰もが気持ちよく過ごせる学校づくり、集団づくりへと導くことが様々な活動を支える土台となる。	B	○地域学校協働活動のねらいをすべての教育活動において共有する、自分たちの力でできること・できそうなことに大人が手出し・口出しをせずに子どもの力を信じて任せる、できたことは適切に評価するシステムを作り上げる。（教職員も保護者も地域住民も）滋賀県教育委員会人権教育課の協力のもと「人と人とが豊かにつながる学校づくり共創事業」を推進し、いかに子どもを活躍させるか、子どもと子どもをつなげるか、子どもと大人の絆を深めるかに目を向け、日々の生活を見取り、適切な声かけや評価ができるよう、教職員の意識改革を図っていく。 ○規則正しい生活を学習の基盤ととらえ、元気に登校し学習に集中できる環境を整え、全校で統一した学習のルールを守って、課題に適した指導法を工夫する。子どもたちにつけさせたい力を常に意識した指導を展開する。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和4年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立湖西中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
<学校教育目標> 「心豊かで、たくましく生きる生徒の育成」 <めざす子ども像> 「自他を大切にし、主体的・協働的に学ぶ生徒」 <めざす学校像> 「活力と思いやりがあふれる学校」	学校の雰囲気がよく、子どもたちが先生に話しかけやすくなっている。コロナ禍でいろんな制限があったけれど我慢してよくがんばった。突然予定が変わったことにも、丁寧に説明され生徒がよく理解している。これからも、集団を伸ばすためにも一人ひとりに寄りそい、生徒が安心して通える平和な湖西中であってもらいたい。 地域学校協働活動が根付いており、体験活動の中でいろんな人と触れ合いと気付きとがあって、大きく成長できる学校である。生き方学習や合同防災学習など、地域学校協働活動がさらに進んだ。教育内容について学校運営協議会として、計画段階から関わっていけるように応援し続けたい。 学力向上については、生徒がわからないところを質問することも実力の一つであるがここが難しい。先生も精一杯補充学習的なことを進めてもらっているが、忙しさもあり全てを底上げすることは難しいと思う。進路について全員が市外の倍率の高い学校をめざしているわけではない。地元の高校に行ってさらに力をつけてもらいたい。	□豊かな心を身につけ、認め合い、支え合い、共に成長する集団の育成 □学んだことを地域社会の中で生かす社会性の伸長（学而事人） □社会的規範が身に付いた生徒の育成 □学校や地域に誇りがもてる教育活動の展開 □授業で活動の質を高め、自ら進路を切り拓く学力の育成

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○豊かな心を育む教育活動 ・生徒支援・教育相談の充実 ・個を大切にした生徒指導の推進 ・いじめのない学校づくり	・あいさつができる学校づくりをします。各教育活動において生徒との対話を大切にし、生徒の居場所づくりを進めます。	生徒「周りの人に気持ちよく挨拶をしている」：93% 保護者「子どもを安心して学校へ通わせることができる」：95% 教員「学級の生徒一人ひとりの居場所があり、楽しい学級の雰囲気が作り出せた」80% おはようミーティング、生徒会　学級活動　による効果	A	A	気持ちのよいあいさつができる学校づくりをめざしたが、むくげの花の会等の皆さんが笑顔で迎えてくださるおかげで、あいさつができる生徒が育っている。 総合的な学習のテーマの一つとして人権学習を掲げているが、今後はさらに、SDGsとのつながりで、周りの人・もの・ことを大切にする心情を醸成したい。 日々の生活ノート指導や定期的なアンケート、気軽な声かけ等による教育相談を進めた。いじめの未然防止、迅速な対応については、組織で取り組みを進め、生徒保護者の安心感につながっている。今後も地域と共に思いやる力を育てたい。 コロナ禍にあり、保護者にいろいろな活動を参観していただくことができず、通信やホームページでの発信では、学校の様子を伝えきれなかった。	挨拶ができる学校づくりがよく進んでいる。あいさつができる生徒を多くみるようになった。 人権学習も充実しつつあるが、保護者にも学びの様子や成果がよりよく伝わり、家庭教育にもよい導きとなることを期待する。 むくげの花の会の方々による関わりもあり、しっかり挨拶できる生徒が増え、よい環境で学習ができていると思う。保護者による評価が低い項目があるため、今後は、学校での取り組みを保護者に知ってもらえるような仕掛けを増やしていってもらいたい。
	・教育相談を重視し、生徒理解を進め、個に応じた教育支援を行います。生徒指導の委員会を促進し組織対応を進めます。	生徒「先生に気軽に相談したり、話ができる」81% 保護者「何か課題があったときには、学校と相談しやすい」88% 教師「生徒理解を推進、教育相談に努めた」85% 教育相談旬間の推進、ライフノート、日々の声かけ、家庭連絡の充実。	A			
	・人権学習を充実させ、人権意識を高め、人を大切にする生徒を育てます。	生徒「仲間はずれやいじめをしない、させないようにしている」：98% 保護者「学校はいじめの無い雰囲気づくりに努めている」：82% 教員「学校生活の中で起こるいじめや人権問題に適切な指導ができていたか」85% 人権学習　生徒会　いじめ撲滅運動	A			
	・生徒会活動を活性化させ人権意識の向上を図ります。SOSカードなどを徹底し、早期発見、組織対応をすすめます。	生徒「生徒会活動に積極的に取り組んだ。」95% 保護者「学校は人権意識を高めるための生徒会活動を活性化させている」79% 教員「振り返りシートの結果や教育相談を通して、問題の早期発見・早期対応ができたか」：80%　生徒会活動によるいじめ撲滅運動、文化祭人権劇、他　総合的な学習、道徳の推進	B			
○確かな学力を育む教育活動 ・学力向上の取組の推進 ・学び合い学習の推進り ・ICT活用の推進 ・保幼小中一貫教育の推進	・わかる授業づくりを進めます。	生徒「学校の授業はよくわかりますか」90% 教師「わかる授業と学力の定着に努めたか」80%、 個別最適で協働的な授業づくりを進め学力向上を図った。学力学習状況テストでは大きな成果にはならなかった。将来の生き方を考え、進路実現に努めた。	B	B	生徒の「授業がよくわかる」がテスト等の結果に表れてこない。授業中は、ICT活用やグループやペアを活用した学び合いを進めており、そのことも、生徒の高評価につながっている。定着させるための家庭学習の充実や、さらに、考えを深めさせるような課題の提供などを考えたい。 読み解く力が弱い生徒の傾向は毎年続いている。 生徒の少人数授業に対する評価はよい。 保幼小中＋高一貫教育を考え、中学3年生に高校の先生の授業を仕組んだことにより、生徒が大変意欲的に学び、進学後の学習のイメージも持てたことは大変価値あるものであった。今後も、他校種の授業に学ぶことを推進し、授業改善に努めたい。学習規律については、タブレットの使用についてルールが守れない生徒が出てきているので、小学校との連携で正しい使用方法を身に付けさせたい。	授業の内容は理解できても、学んだことを復習して知識を積み重ねていく努力と意欲が低迷している生徒が多いのではないかと懸念する。 3年生に、高校の先生の授業を受ける機会を与え、学ぶ意欲、楽しさを生徒が実感できたのはよかった。 様々な方法で学ぶ意欲と集中力を育てる教育の実践を期待する。 わかる授業づくりや少人数指導、学び合い学習等の工夫をしてもらっていることにより、生徒たちも「わかりやすかった」と言っている一方で、学力の定着につながっていないことは残念である。家庭学習の不足によるところが大きいと思うので、もう少し家庭と学校が連携して学習を進めていく仕組みが考えられるとよいと思う。
	・少人数指導等学習形態の工夫により、各教科の授業に目標を持たせ、きめ細かな指導において成果を上げます。	生徒「少人数による授業はわかりやすかった」：90% 保護者「各教科の授業に目標をもって取り組んでいる」78% 少人数学習、グループワーク、学び合い、個別指導、学習支援	A			
	・「めあて」を明示し、「振り返り」を行う授業づくりに努めます。。	生徒「めあての提示や振り返りで意欲・関心がもてた」：90% 保護者78% 意欲的主体的に課題に取り組む授業をつくることを推進した。	B			
	・ICT機器を効果的に活用し、学力向上を図ります。・ペアやグループでの学び合う活動の充実を図ります	生徒「授業中　ICTの活用で内容がよくわかった」：95%　保護者87% 学び合い活動の促進、生徒が安心して学べる雰囲気の醸成一人一台のタブレットを使用、ロイロノートの活用による対話的な授業の展開、リモートによる生徒の学習保障、他	A			
	・保幼小中の連携を図り、学習規律の定着や家庭学習の習慣化を図ります。	生徒「学習の約束を守れている」93% 保護者「子どもは家庭での学習習慣が身についている」77% 教員「学習に取り組む姿勢や学習規範を身に付けさせる指導ができた」：78%「保幼小中一貫教育」：80%	B			
○健やかな身体を育む教育活動	・部活動の活性化を図ります。 ・健康管理や生活安全への意識を高め、基本的生活習慣の定着を図ります。	生徒「部活動は充実していた」94% 保護者「基本的生活習慣」88% 教員「部活動指導に意欲的、練習時間や約束を守る指導」80%「生徒の健康管理や生活安全の意識は高まった」73%「危機管理意識をもって生徒の指導にあたった」85%	B	B	平日の活動日を減らしたが、生徒の充実感は高く、教員の働き方改革ととしてもよかった。健康観察を継続し、生徒の感染症に対する予防意識は高くできた。	平日の活動日を減らしても、教師側がその分部活動のために労力を費やしてくださり、その結果、生徒教師ともに充実感を得ることにつながった。部活動に参加していない生徒の放課後の過ごし方を含めた基本的生活習慣の定着を考えていく必要があるのではないかと思う。
○自然や地域と共生する力を育む教育活動 ・郷土の自然・歴史・先人の学習 ・地域資源の有効活用 ・SDGsの目標に向けた取組 ・地域に信頼される学校づくり	・地域の方々の協力を得て、郷土のよさに触れる体験活動を実施します。・地域の方とともに行う教育活動を促進します。	生徒「地域や学校外の方とのふれあいで郷土のことがよくわかった」：89% 保護者「地域・校外学習は意義があった」91% 教員「地域の自然や人・歴史・文化を生かした道徳、総合的な学習に取り組めた」95%「総合的な学習の時間に探究的な学習を展開した」85% ふるさと学習、水環境学習、先人の学習の充実　地域人材や教材の活用、他	A	A	地域の方々の協力を得ながら、地域学習を推進でき、学んだことを地域の方々にも発信できた。そして、SDGsを軸にしながら、総合的な学習や道徳、各教科とのつながりについて意識した教育課程を編成できたことも前進である。 「将来は人の役に立つ人間になりたい」や「地域のことがよく分かった」について評価が高く、「学而事人」の教えを意識させることを続けてきたことでの表れと考える。今後も地域の方と共に郷土の教材を生かした教育活動を推進する。そして、学校地域連携カリキュラムをもとに、さらに生徒の学びを深め、学校が好き、地域が好きと言える生を育成したい。	学校地域連携カリキュラムの編成や、地域の方の協力を得ての地域学習は活発に行われ、コミュニティスクールのさらなる推進となり、生徒の将来にもつながる教育ができた。また、どのような活動が生徒の力を伸ばし、広げることになるかわからないので、今後も幅広い活動を仕組んでやってほしい。 むくげの会の方々を中心に、地域の方と生徒とのよい関係が作られていると思う。SDGsや学校連携カリキュラムをさらにブラッシュアップするとともに定着を図ることが、地域とともに生きる生徒を育むことにつながると思う。
	・学而事人の教えを基礎にSDGs達成を目指し、よりよい社会をめざし、将来の自己実現を図る教育を展開します。	生徒「人の役に立つ人間になりたいと思う」：94%「将来の夢や目標をもっている」：64% 保護者「SDGsの達成に向けた教育ができている」79% 教員「学活の時間は年間計画に沿って実施され、生徒は真剣に取り組んでいた」88% 生き方学習、修学旅行、職場体験、志学の集い　SDGsの達成に向けた指導、ふるさと学習、他	B			
	・コミュニティスクールを促進し、開かれた学校づくりを進めます。学校・地域（保護者）・生徒が一体となってよりよい町づくりをめざします。	保護者「コミュニティースクールを軸にして、地域学校教育活動を進めている」81% あいさつ運動、学而事人ファーム、登下校や校外学習の見守り、学校図書ボランティア、学而事人の教え、学校地域連携カリキュラム、学校地域合同防災学習、学校運営協議会と地域学校協働事業・むくげ花の会事業一体的推進	A			

学校関係者評価	総　　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	生徒が、自他を大切にし、協働的に学ぶ取り組みや授業は活発に行われ、<めざす子ども像>への育成につながっている。主体的に学び、考え、行動ができるような、そして、学力向上につながる、工夫された新たな教育活動を期待する。 地域学校協働活動について、学校地域連携カリキュラムに明確に位置付けられ、地域住民も意義を理解して取り組めることになり、また、継続性の面からも大変喜んでいます。今後は、このカリキュラムの考え方と保幼小中一貫教育がうまく連動して、より充実した協働活動となるよう期待しています。学校運営全般に、生徒に寄りそい、よい教育ができていると思います。 生徒数の減少により、部活動の数が減少していることが残念であるが、「心を育む教育活動」「学力を育む教育活動」については生徒の満足度も高く、成果につながるよい環境が作れていると思います。今年度から始めた「学校地域連携カリキュラム」をさらに進化させ、地域の方と関係をより良いものに展開していってほしいと思います。	A	・毎朝笑顔で生徒を迎えてくださるむくげの花の会の皆さんの存在は計り知れないものがある。生徒と地域の方々との距離も縮まってきているように感じる。今後は、生徒が地域に出て貢献する活動を仕組んでいきたい。また、保護者・地域の方々に、学校の取組を発信し、多くの方に、湖西中学校の様子を知ってもらえるように工夫したい。 ・学習面では授業づくりについてICT活用など大きな成果があった。「授業がわかる」と「実力がつく」をリンクさせられるよう、宿題の出し方の工夫により家庭学習の定着を図ることや授業改善を進め、学力向上につなげられるようにしたい。 ・学校地域防災学習では、地域の防災士の方々のご指導を仰ぎながら、むくげの花の会の皆さま、そして、PTA役員の方々にもご協力をいただき、2回の学習で、延べ90名ほどの地域住民と中学生が一緒に活動することができた。地域の方々に災害弱者を演じていただき、生徒が、どうすれば皆が安全に安心して避難するかを考え実行することができたことは、大変意義深いものであったと考える。マイタイムラインの取組と合わせ、防災への意識が高められた。次年度以降も学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進の中で、防災学習をさらにブラッシュアップさせられるよう考えていきたい。 ・保幼小中一貫教育のコーディネーター校となったことで、本校教員の一貫教育に対する意識を変えられたことはよかった。異校種に学ぶという意識をさらに高め、それぞれのよさを吸収し、日頃の実践につなげられるようにしたい。また、生徒の学びの意識についても高められるようにしたい。 ・学校地域連携カリキュラムを進化させられるよう、各教科担当者が教科ごとのつながりを意識し、そして、地域教材との関連を図りながら、学びを深めるための手立てを考えていきたい。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）